Vol.71 通巻816号　平成2年3月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年3月19日第3種郵便物認可

ISSN 0912-8182

建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

特集

東海の都市景観

3

MARCH



1990

日本建築協会


Day by Day きっといい明日
大阪ガス
この星の床は暖かい。
ひなたぼっこ的生活、始まる。
床暖房にしておくと、お部屋の中で縁側のポカポカが味わえる。床から出てくる遠赤外線のしわざなのですね。体の芯からあったかいから、当然いい気分なわけです。
贅沢なフリして家計に響かず。
床全体を暖めるとなると、光熱費がかさみそうですが、実際は、部屋をそれほど暖めなくても(17~18℃)体感温度としては充分暖かい仕組みだから、驚くほど省エネ。
火のない所で子育てのびのび。
温水で暖めるから、火を使わない。そのうえ空気も汚さずクリーン。床がカラッとしてるからダニなども出にくく清潔。子供はすくすく、親は安心の暖房システムですね。
タタミの部屋だって暖めたい。
幅広い床仕上材を選べるのも、ガス温水床暖房のうれしい特長です。畳、木質、クッションフロア、カーペット、さらにはキッチンや浴室のタイル。小さなスペースでもOK。
新居の設計図にしたがいます。
家族でワイワイ言いながら引いた新居の設計図に違いないから、さまざまな間取りやスペースに合わせて施工できるよう、豊富なプランバリエーションを用意しました。
と、これだけでも新築家族の生活が、ポカポカしそうな「床暖房」ですがじつはコレ、大阪ガスの「温水で広げる家庭内あちこち快適先進システム」(エックスプリオール・オートといいます)の中のひとつなのです「床」の他に、もっといろんなところを暖かくしたい場合は、大阪ガスまでご相談ください
床暖房およびエックスプリオール・オートに関する資料請求・お問い合わせは……〒541 大阪市中央区平野町4-1-2大阪ガス営業部「床暖房」係まで
家を建てるときに考えておく➡あとでとても幸せになる
ガス温水床暖房

1917創刊
1990
71集

建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY CONTENTS

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

「建築と社会」3月号表紙

表紙写真撮影　黒田青巌
表紙デザイン　藤田治彦

有松の平入り町家

江戸時代初めの東海道間(合)宿に起源を持つ有松は、程なく絞り染めの産業を導入し、大いに繁盛した。
天明の大火は瞬時にして全村を焼き尽くしたが、それを機に瓦葺き、塗籠造、卯建などを積極的に採用して再建を企り、間屋を中心とする町並みを作り上げた。これらの間屋では、平入りの主屋と妻入りの土蔵とを街道に見せ、裏庭には作業所が設けられていた。
名古屋を中心とする鉄道の発達や生活様式の変化が絞りの需要を減らしたが、カメラを持って町並みを歩けば、今なお、藍の絞りの香りが感じられる。

■特集予告
4月号／スケール感
5月号／プレハブ住宅技術の現在と未来
6月号／花博

会　長　佐野正一
副会長　足立　孝・市川　宏
　　鴻池藤一・薬袋公明
編集委員会（平成元年度）
■編集理事
金井　弘次
金多　潔
小島　雄
城　憲一
須賀　好富
竹中　錬一
長谷部朔郎
松村　慶三
若山　繁
渡辺　忠
■編集委員長
長谷部朔郎
＊上田　信也
■編集顧問
東　孝光
■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
角島　健二
河端　秀直
小浦　久子
鈴木　克彦
○田中　直人
平岡　博
山尾　弘子
吉村　英祐
☆建築計画系
上杉　秀隆
江副　敏史
○加藤　晃規
北村　潤
鳴田　聖二
庄野　利博
西川　純一
前川　治彦
牧野由美子
三宅　淳
＊森田　晴美
矢野　裕芳
山中　恵子
山本　匡
☆インテリア・住宅
石倉　健彦
一ノ瀬満雄
大塚　慶子
○加藤　力
神谷　剛
＊北浦かほる
北山　喜与
駒田　哲男
細田　泰彦
増地　秀夫
★構造分科会
和泉　一義
清　孝好
馬場　研介
○福山　国夫
山崎　雅生
和田　勉
★設備分科会
安倍　浩一
石野　幸義
遠藤　進
梶井　宏修
河津　隆之
○佐藤　秀彦
別所　清
村上幸三郎
★施工材料分科会
有光　利治
河戸　隆
○志水　史典
田添　寿昭
丹羽　稔
松村　勝実
★法令分科会
＊大前　博司
佐藤　勝
広瀬　丈洋
松井　昭
南出　和延
■作品作風小委員会
荒川　朱美
遠藤　公介
岡本　隆
北澤　修一
玉崎　良和
○塘　伸夫
富田　昌義
福地　一彦
松田　善弘
宮下　幹雄
＊水川　尚彦
宮崎ひろ志
■会員企画小委員会
赤井　富弘
伊藤　郁郎
稲木　裕子
＊今井　邦夫
上埜　京子
北村　恭一
小林　孝一
佐伯由紀子
柴田　厚
○高田　光雄
高橋　麗子
塚口　明洋
増渕　昌利
溝口　正人
■広告企画小委員会
＊池渕　俊男
佐野　寛志
○下村　甫
橋本龍二郎
原田　常介
藤田　孝吉
山下　修司
○渡辺　忠
○印 副委員長と幹事　＊印 同代行

印　刷　平成2年3月20日
発　行　平成2年3月25日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　電　06—348—0635
　　振替口座 大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
　　電　06—606—1111(代)
　　青葉印刷株式会社
　　電　06—351—5428(代)
定　価　980円(本体価格951円・送料共 消費税29円)

3 通巻816
作品作風
Gallery
スケッチブック
会告
Being
W
書評
ファイル
GBRCニュース
法令コーナー
新建材紹介コーナー
建築の眼
特集
作品
座談会
論文
建築地場産業ルポ
設備の頁180
構造の頁178
施工材料の頁175
月報
INFORMATION

特集●東海の都市景観

SPECIAL FEATURES ON TOWN SCAPE IN THE TOKAI AREA.

新高松空港旅客ターミナルビル ——— 設計監理：新高松空港設計監理共同企業体 施工：鹿島・奥村・合田建設共同企業体 —— 2
日住金本町ビル ——— 設計施工・大林組 —— 4
AUT－AUT／新田正樹 —— 6
最近竣工した新建築9点(No.2277～2285) —— 8
監事並びに本部所属評議員の当選．佐野会長、日事連の会長に．「KOBEインターホーム'90」開催．ビデオ映写会「現代建築家ビデオシリーズ」第2回 —— 9
加藤木俊策（カトギヨット設計事務所） —— 10
Walking—建築家おすすめデートスポット／渡辺豊和 —— 12
すまい考今学／大森敏江．ヴォーリズの建築／河辺　聡 —— 14
第3回横浜まちなみ景観賞．「バルセロナ＆ヨコハマシティ・クリエーションBAY'90」．横浜アーバンデザイン国際コンペ「ウォーターフロントの再生に向けて—横浜海岸通り—」 —— 16
風が運ぶホームラン／西村宏昭 —— 18
すこやかな社会づくりのためのまちづくり整備指針／兵庫県生活文化部 —— 20
デッキコーティング防水システム／猪野達雄 —— 23
建てられた形と建築／前川道郎．咲くやこの花館(Ⅲ)／森岡　進．私が建築創りに考えること(3)個人について—能力と人柄／徳岡昌克．資源保護と建築／楠　正世 —— 24

東海の都市景観

アサヒビール名古屋工場 ——— 設計監理：伊藤建築設計事務所　施工：大林組名古屋支店 —— 26
水明館臨川閣 ——— 設計施工：竹中工務店 —— 30
法隆寺金堂壁画模写展示館 ——— 設計施工：竹中工務店 —— 34
邦和セミナープラザ ——— 設計施工：竹中工務店 —— 36
ライオンズリゾート浜名湖ホテル白砂亭 ——— 設計施工：鹿島建設名古屋支店 —— 38
中央アルプス高原マンションユニテック木曾駒 ——— 設計監理：アステック建築設計研究所 施工：大林組名古屋支店 —— 40
中工ビル ——— 設計監理：永楽開発設計・伊藤建築設計事務所 施工：鹿島・戸田・永楽建設共同企業体 —— 42
美和ビル ——— 設計監理：伊藤建築設計事務所　施工：大栄住宅 —— 44
グルメビル「エアリ」 ——— 設計施工：竹中工務店 —— 46
パルネス前後 ——— 設計：住宅・都市整備公団　アール・アイ・エ　伊藤建築設計事務所 監理：住宅・都市整備公団　中部都市整備センター　伊藤建築設計事務所 施工：東海・矢作・近藤・丸三JV　日本国土・郡界JV —— 48
東海記念病院 ——— 設計監理：田中総合設計　施工：大林組名古屋支店 —— 50
嶽之下宮御社殿 ——— 設計監理：竹中工務店　施工：竹中・大成共同企業体 —— 52
平井精密大垣工場光棟 ——— 設計施工：鹿島建設名古屋支店 —— 54
花の木カントリークラブ　クラブハウス ——— 設計施工：大成建設名古屋支店 —— 56
浜名湖カントリークラブ　クラブハウス ——— 設計施工：大成建設名古屋支店 —— 58
東海の都市景観 ——— 北原理雄／桜井大吾／山口守彦／中島　一 —— 60
愛知県における都市景観行政の現況とこれから／古橋国夫 —— 68
名古屋の都市景観の現状とこれから／山口守彦 —— 70
魅力ある快適な都市「おかざき」づくり／久米貞夫・杉山延治 —— 72
産業文化交流都市をめざす豊田市の都市景観づくり／安藤　勇 —— 74
七宝焼—七宝町．植木・苗木—稲沢市．刃物—関．三河材—東加茂郡・足助． —— 76

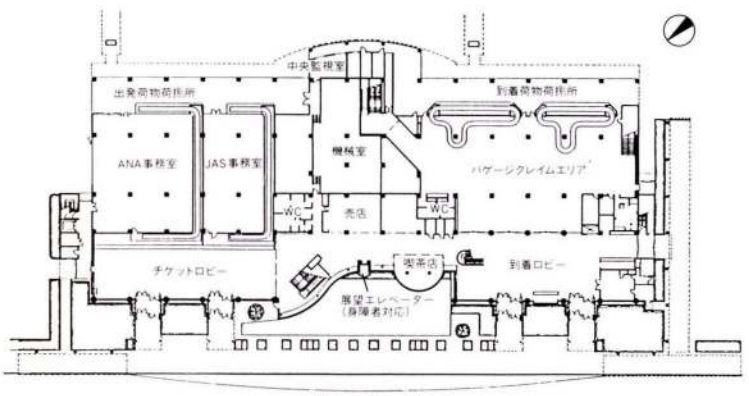
バイオテクノロジーを活用した下水処理技術の開発／京才俊則 —— 82
梁成一定の圧延H形鋼／渡辺　博 —— 83
各種素材用プライマー／菊地昌司 —— 85
日本建築協会月間の動き（平成2年1月分） —— 86
ビル建築現場照明パネル「アメニティ・ライティング・フェンス」．平成元・2年度指名競争入札参加資格申請の追加受付—日本道路公団．DAIKO通信スケジュール．1990TAKENAKA DESIGN NAGOYA展．FUJIKI ARCHI-TRENDセミナー．建築家西澤文隆のスケッチ展「フィリピンで会った花達」．「建築省エネルギー賞」決定．アメリカ・ランドスケープ・デザインの現場から—講演・シンポジウム．スペース・コーディネーションシステム「Techno-Office」新発売 87

新高松空港旅客ターミナルビル

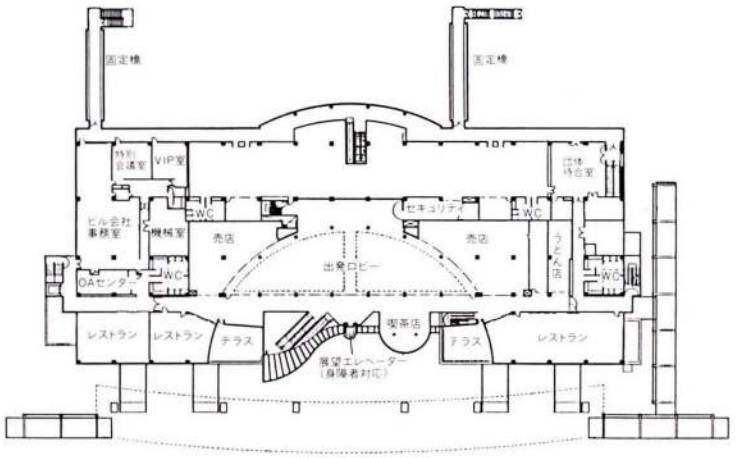
設計監理　新高松空港実施設計監理共同企業体
　　（代表）日本空港コンサルタンツ
　　（意匠）長島建築研究所
施　　工　（建築）鹿島・奥村・合田建設共同企業体

所 在 地　香川県香川郡香南町大字岡1312
敷地面積　13,201㎡
建築面積　 5,282㎡
延床面積　10,394㎡
構造規模　RC、一部SRC・S、3F
工　　期　昭和63年10月～平成元年10月
最 寄 駅　JR高松駅
撮　　影　村井　修

高松市の南方約15kmに位置する新高松空港は、平成元年12月16日オープンした。新旅客ターミナルビルは、平成7年、年間乗降客数200万人の処理に対応できる規模で、しかも国際線チャーター便にも対応可能な規模に設定されている。
計画にあたっては、利用客の利便性を第一に、めまぐるしい航空の変化にも対処して将来の拡張性を重視した。また「香川の新しい空の玄関」にふさわしい郷土を象徴し、空港の未来性を表現するものであることを目標とし、かつ現代の空港旅客ターミナルビルらしい解放性と快適性をもつ空間を目差して計画した。



1階平面図　1：1500



2階平面図　1：1500



北側(旅客アプローチ側)外観



南側(滑走路側)全景



2階出発ロビー

香川らしさの表現として中央出発ロビーの屋根をドーム形とし、讃岐の山をイメージさせる象徴的扱いとした。また歩道上の大庇はスレンダーな曲面をもたせ、飛行機の翼をイメージさせたものである。内部意匠的には特にビルの中核となる出発ロビーをランドサイド側(前面道路側)に大ガラス面を設け市街および海側の眺望を確保できる明るい開放的な空間として計画した。

旅客ターミナルビルのコンセプトは、中規模旅客ターミナルビルでは一般的なリニアタイプの集中ターミナル・セントラルチェックイン・一層半方式と呼ばれるものとした。建物の構成は、航空旅客・手荷物の動線を単純・明快で交差のないことを目標とし、利便性と将来の拡張性を重視したものとした。

1階は、ランドサイドより向かって左側に出発関係機能(チケットロビー、チケットカウンター等)を、右側に到着関係機能(到着ロビー、手荷物受取場等)を配置した。これによりエプロンの将来拡張計画に対応して、拡張性の高い到着関係機能をエプロン拡張方向に計画できるようにしたものである。2階は、中央部に広い空間の出発ロビーを配置し、ランドサイド、エアサイド両方に見通しの良い空間とした。出発ロビーの周囲には、搭乗待合室、売店、レストラン等を配置し出発ロビーのアメニティーを高めた。また、レストランは、ランドサイド側、搭乗待合室はエアサイド側とし、それぞれの側の眺望に最適な空間とした。3階は、見学者用の施設と設備機械室とで構成した。エアサイド中央部を展望デッキ、ランドサイド両端を市街方向眺望のためのデッキとした。身障者施設として、中央にエレベーターを、各階に身障者用便所を設置した。

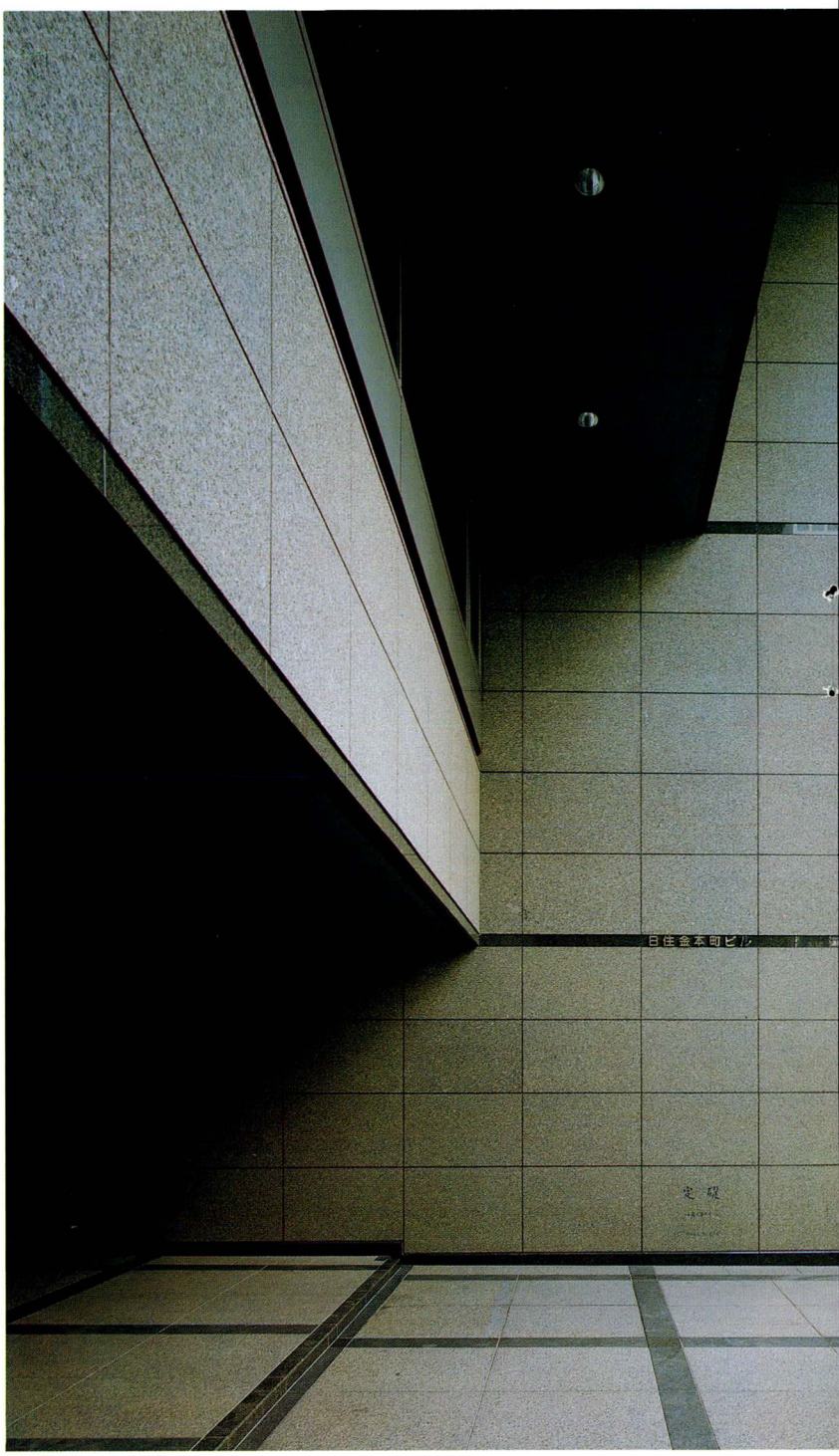
香川の空の玄関として県民ばかりでなく広く航空利用客に愛され、親しまれる空港旅客ターミナルビルとなることを願っている。

北側(旅客アプローチ側)外観夜景





北面外観



日住金本町ビル

設計施工　大林組

所在地　大阪市中央区本町３丁目
敷地面積　444.00㎡
建築面積　352.77㎡
延床面積　3,153.88㎡
構造規模　SRC(一部S)、BIF、9F、PI
工　期　昭和63年５月～平成元年７月
最寄駅　地下鉄御堂筋線本町駅

撮　影　川元　斉・山本冨實成

商都大阪、ビジネスの中心地である本町通りに面して立つ中小規模のインテリジェント化対応のオフィスビルである。周辺は新しいオフィスが軒をつらねており、街並みを意識した格調高い外観が求められている地域である。
計画に際しては、テナントビルとしてのアイデンティティーを発揮するよう街路空間を積極的に取り込むこととし、セットバックしたピロティ空間や袖壁を支える丸柱をゲートとして意味づけることにより開放感を演出した。ポケットパークとしてのプラザは高木や四季の花々を配し、道行く人々にとって楽しい出合いの場となることを期待している。
外装は、グレーグリーンの花崗石・ハーフミラーガラス・濃色のフッ素樹脂塗装パネルによる構成であり、品格ある端正なファサードを意図している。
基準階は、リフレッシュ感覚を取り入れた共用スペースをリニアに配し、事務空はフリーレイアウトに対応できる使いやすいスペースを確保している。とくに最上階は、緑豊かな中庭を設け、エグゼクティブなビジネス空間として、自然の光や風が通り抜けるオフィス環境を演出しており、24時間対応できる新しい快適なオフィスとして機能するよう望んでいる。

（小川芳弘・田中滋典／大林組）



ピロティ



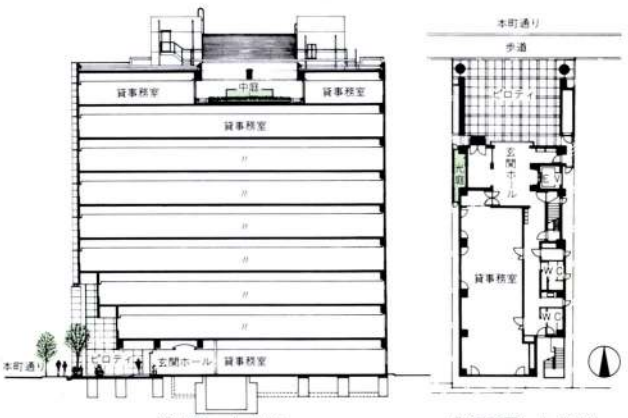
玄関ホール



玄関ホール



円柱見上げ



断面図　1：800　　1階平面図　1：800

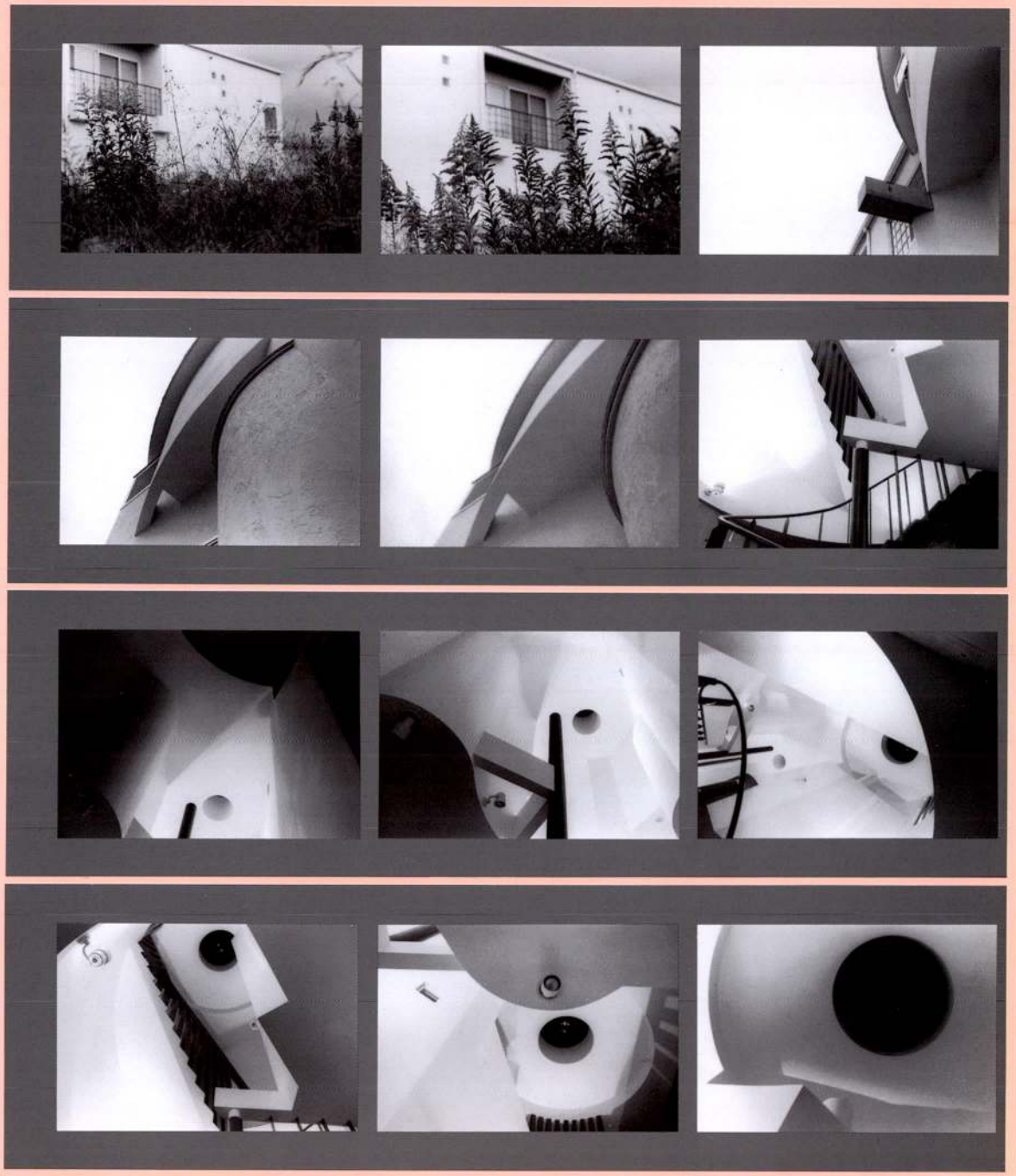


中　庭



9階廊下(中庭)

Gallery　まち・建築・ひと



風のようにさわやかに　雲のようにやさしく
草のようにしなやかに　土のようにさりげない
……そんな建築でありたい。

新田正樹
1953年　広島県生まれ
1971年　三原工業高校建築科卒業
1971年　大成建設入社
1975年　フリーのドラフトマンとして活動開始
1982年　新田正樹建築設計工房設立

企画編集　作品作風小委員会　玉崎良和

AUT-AUT



AUT-AUT
設　　計　新田正樹建築設計工房
施　　工　近畿建設
所 在 地　富田林市小金台
主要用途　住宅
構造規模　木造2階建(一部地下RC造)
撮　　影　神原永弥

風のごとく切るように　雲のごとく雄雄しく
草のごとくしたたかに　土のごとく寡黙な
……そんな建築でありたい。

スケッチブック

■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



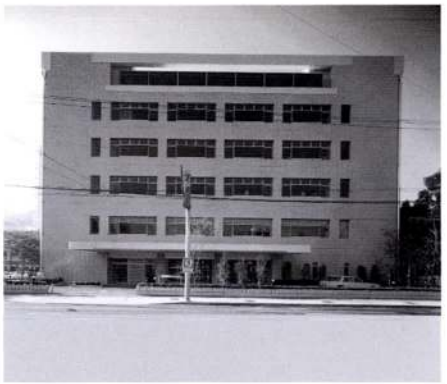
2277 プラネットブルー神戸

設　計：二村建築研究所
施　工：石黒建設
a．神戸市元町通７丁目
b．　87.110㎡
c．　76.252㎡
d．683.601㎡
e．S、B1F、10F、P1
f．昭和63年３月～昭和63年11月
g．JR山陽本線神戸駅



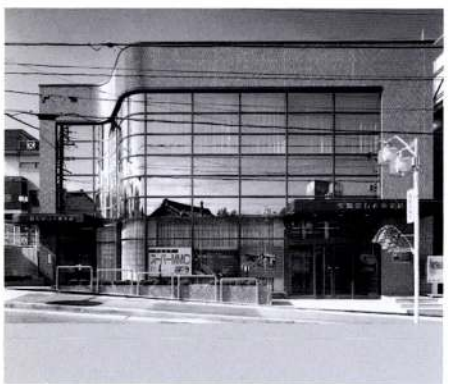
2278 吹田市営千里山東第1第2住宅

設　計：創美建築設計事務所
施　工：清水建設・紙谷工務店JV、西松建設・田中組JV
a．吹田市千里山東２丁目26－1 他
b．12,931.38㎡
c．　3,723.19㎡
d．10,220.63㎡
e．RC、3F(一部B1F)
f．昭和62年８月～平成元年３月
g．阪急千里線千里山駅



2279 (財)徳島県総合健診センター

設　計：東畑建築事務所
施　工：熊谷組・日産建設JV
a．徳島市蔵本町１丁目
d．25,093㎡
c．　990㎡
d．　4,395㎡
e．SRC、6F
f．昭和63年６月～平成元年６月
g．JR徳島本線蔵本駅



2280 愛知銀行八事支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：錢高組名古屋支店
a．名古屋市天白区八事石坂104
d．457.64㎡
c．361.66㎡
d．691.41㎡
e．RC、2F
f．平成元年１月～平成元年６月
g．地下鉄鶴舞線八事駅



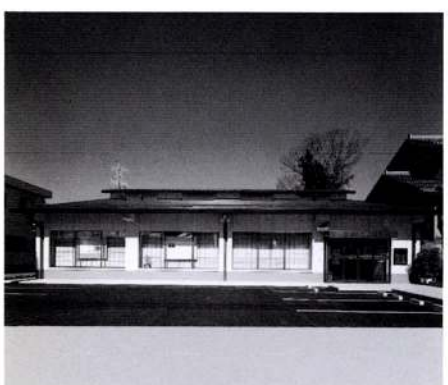
2281 協栄生命山科ビル

設　計：戸田建設大阪支店
施　工：戸田建設大阪支店
a．京都市山科区椥辻中在家町8－1
b．　548.65㎡
c．　451.24㎡
d．3,193.56㎡
e．SRC、B1F、8F、P1
f．昭和63年５月～平成元年７月
g．JR山科駅



2282 朝霧の家No.2

設　計：上谷重男＋ｕ建築企画室
施　工：宗吉工務店
a．明石市東朝霧丘21－79
b．139.07㎡
c．　66.11㎡
d．122.49㎡
e．W2F
f．平成元年６月～平成元年12月
g．JR朝霧駅



2283 岐阜銀行黒野支店

設　計：伊藤建築設計事務所
施　工：土本建設
a．岐阜市折立字家敷124の3，124の4
b．998.43㎡
c．423.61㎡
d．526.95㎡
e．RC、2F
f．平成元年８月～平成元年12月
g．岐阜乗合自動車黒野線折立停留所



2284 なにわ銀行寝屋川池田支店

設　計：千州土地一級建築士事務所
施　工：千州土地
a．寝屋川市池田新町40－1
b．288.22㎡
c．179.29㎡
d．321.19㎡
e．S、2F
f．平成元年９月～平成元年12月
g．京阪本線寝屋川市駅



2285 グラン・ドムール春日部

設　計：ドゥ アーキテクト ブランナーズ
施　工：地崎工業
a．埼玉県春日部市上蛭田字蟹前耕地223－1
b．　935.30㎡
c．　519.05㎡
d．1,880.62㎡
e．RC(壁式構造)4F
f．平成元年３月～平成２年２月
g．東武野田線豊春駅

◀監事並びに本部所属評議員の当選

平成２年２月28日開催の通常総会において監事並びに本部所属評議員の選挙を執り行いましたところ、下記の方々が当選されました。

記

監事（１名）

尾亀清四郎君（三晃空調）

本部所属評議員（23名）

荒川治徳君（清水建設）
金田興一君（近畿地建計画課）
楠昭夫君（大阪建物）
里村年人君（里村建築事務所）
下笠晃右君（大阪市住宅政策課）
下村健治君（修成建設専門学校）
名手宏彦君（ミサワホーム）
南出裕紀君（大阪府建築部営繕課）
石井睦二君（間組）
大塚日出夫君（淺沼組）
上出秀雄君（藤木工務店）
楠正世君（戸田建設）
高橋保夫君（錢高組）
三木敏男君（奥村組）
金剛利隆君（金剛組）
中道朝男君（中道組）
今村騰君（中央電気工業）
栗原信英君（栗原工業）
山本永造君（ヤマト電気）
田崎至成君（日比谷総合設備）
伴昭秀君（西原衛生工業所）
小山年光君（タジマ）
原田孝太郎君（原田セメント化工）

◀佐野会長、日事連の会長に

社団法人日本建築士事務所協会連合会は２月21日、２月定例理事会、第40回単位会会長会議に引き続き、第16回通常総会を開催しましたが、当会会長佐野正一氏が、第４代目の日事連会長に選任されました。佐野会長には先に、社団法人大阪建築士事務所協会の会長にも就任されており、ますますお忙しくなると思われますが、ご健勝を祈ってやみません。

なお、本会名誉会長で、前日事連会長の塚本猛次氏は、引き続き日事連の名誉会長に推挙されましたことを申し添えます。

◀「KOBEインターホーム'90」開催

国内企業はもとより、北米を中心とした海外企業の積極参加によって、本格的な国際建材住設総合展「ＫＯＢＥインターホーム'90」が、神戸ポートアイランドで開催されます。

米国最大の住宅建材設備展「ＮＡＨＢ」を主催している全米ホームビルダー協会の協力を得て、この催しは、単なる「見せるフェア」でなく「商談の場」「より幅広い情報収集の場」「輸入紹介の場」「豊富な商品知識獲得の場」「施工テクニック習得の場」となるフェアを目指し、同時に、海外の良品質商品をリーゾナブルな価格で身近なものとして供給する受け皿づくりをするなど、国際化時代にふさわしい総合見本市をも目指しています。

この一環としてハウジングツアーも行われます。ハウジングツアーでは、兵庫県の神戸・三田国際公園都市、西神ニュータウン内のバンクーバー村とシアトル村、ポートアイランド、六甲アイランドおよびハーバーアイランドのインテリジェント・マンションを見学します。

*

会　　期　1990年6月1日(金)～4日(月) AM10:00～PM5:00
会　　場　神戸ポートアイランド（神戸市中央区港島中町）
　　神戸国際展示場、ワールド記念ホール、神戸国際会議場
主　　催　ＫＯＢＥインターホーム'90組織委員会
後　　援　建設省、通商産業省、郵政省、外務省、農林水産省ほか
協　　賛　(社)日本建築協会ほか
入 場 料　1,000円(消費税込み)
付帯行事　有料のセミナー、シンポジウム、ハウジングツアー

ビデオ映写会　現代建築家ビデオシリーズ　第２回

制作・監督：マイケル・ブラックウッド
日本語版制作・発売元：デルファイ研究所、発売：丸善

日　時　1990年4月23日(月)　18:00～20:00
会　場　(社)日本建築協会会議室(大阪駅前第３ビル21階)

日本のアバンギャルド
1 JAPAN OF AVANT-GARDE ARCHITECTURE(58分)
篠原一男、伊東豊雄、長谷川逸子、磯崎新、槇文彦、安藤忠雄、丹下健三などが自作を語る。

2 安藤忠雄　TADAO ANDO(58分)
初期の作品から最新作まで、さまざまなエピソードを盛り込みながら、安藤忠雄の感性と素顔を紹介する。





参 加 費　会員 500円、一般 1,000円（含、缶ジュース、消費税）
定　　員　30名
申込方法　ハガキ、ＦＡＸ、電話で４月16日(月)までに、(社)日本建築協会事業課へお申込みください。催し名（ビデオ映写会・現代建築家ビデオシリーズ第２回）、氏名、会員・一般の別、勤務先、参加証送付先、電話番号をお知らせ願います。

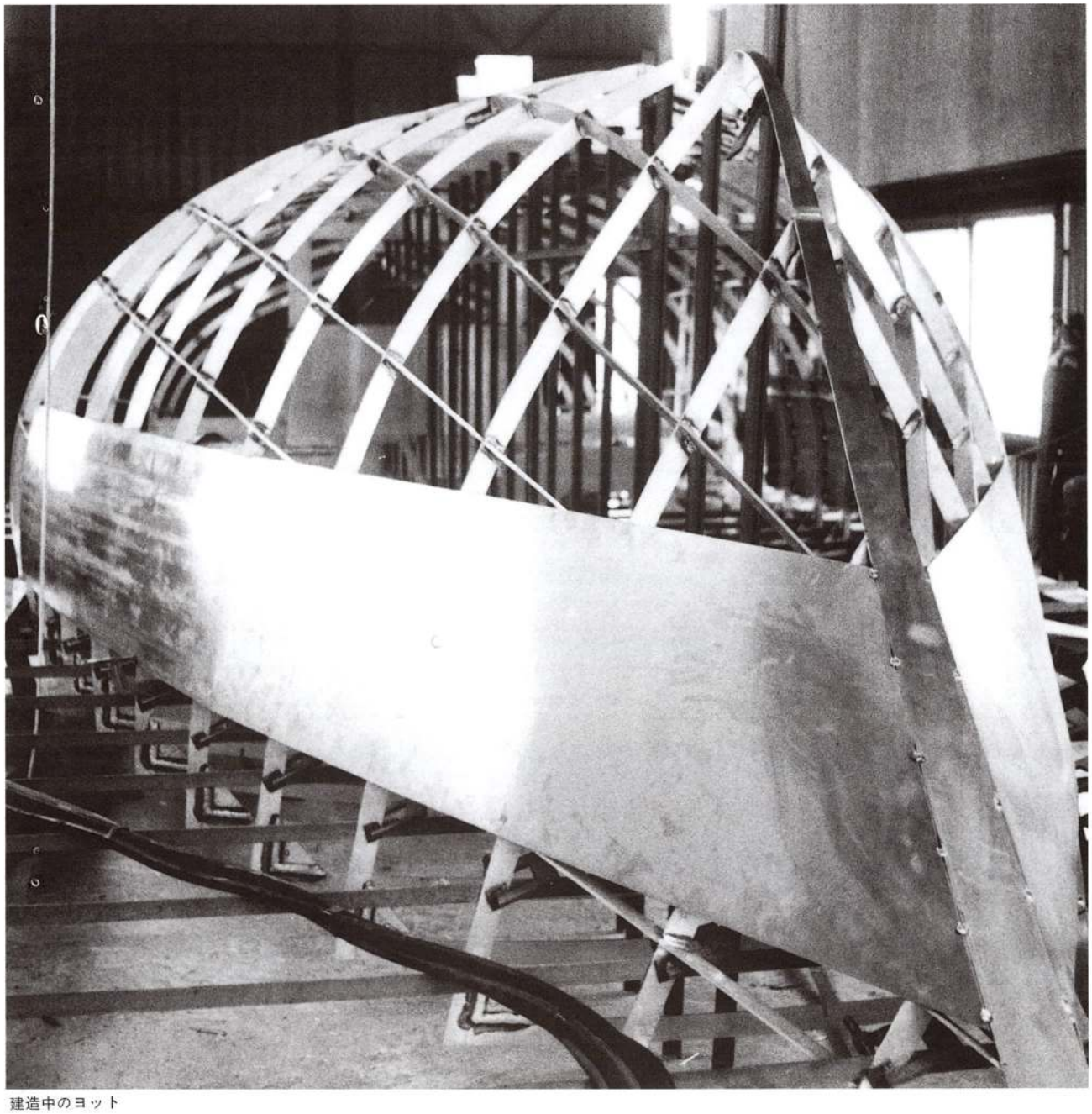
(社)日本建築協会事業課　〒530 大阪市北区梅田1－1－3－2100
FAX 06-348-0634、☎06-348-0633

●今後の予定

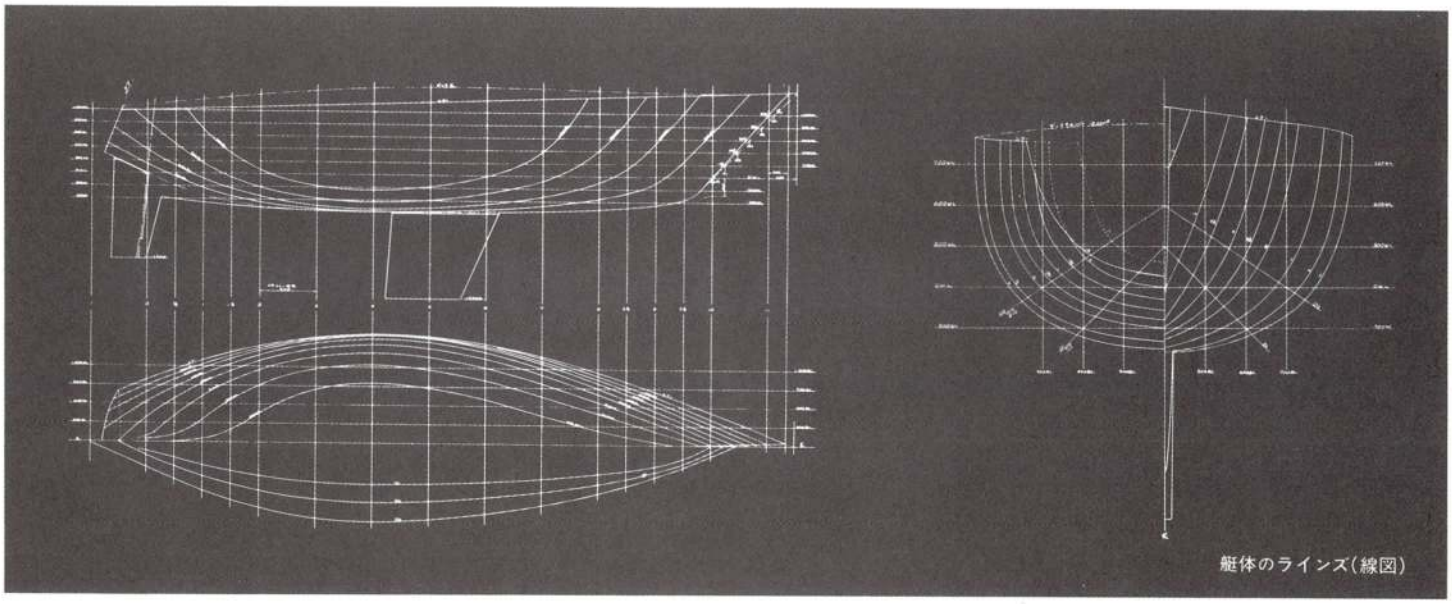
第３回　５月28日(月)　18:00～20:00
●フランク・ゲーリー FRANK GEHRY（57分）
●ロバート・ベンチューリとデニス・スコット・ブラウン
ROBERT VENTURI and DENISE SCOTT BROWN（58分）
第４回　６月25日(月)　18:00～20:00
●ジェームズ・スターリング　JAMES STIRLING（58分）
●O.M.ウンガウス　O.M.UNGERS（58分）
第５回　７月23日(月)　18:00～20:00
●ミース・ファン・デル・ローエ　MIES VAN DER ROHE（58分）
●リチャード・マイヤー　RICHARD MEIER（59分）

being 20
加藤木 俊策

バテンとウエイトから生まれる美の結晶に夢をのせて



建造中のヨット



艇体のラインズ(線図)

バテンとウエイト

ヨットの艇体を形作っている面はすべて曲線で構成されており、その曲面は水の抵抗や造波をへらす為の計算、形に対するセンス、そして微量の、しかしとても大切なさじかげんにより決めるわけですが、デザイナーの頭の中で出来上った艇の形状、ボリュームをケント紙に具現化する道具がバテンとウエイトです。

バテンはよくしなうプラスチックの細長い棒で、それを紙の上にウエイト（ピンのついた重り）で固定し、ねらった曲線に曲げつけ線を引く、この作業をヨットの艇体の断面・平面・側面それぞれにくり返していく内に、徐々にあの微妙にまろやかで、海の生き物のような美しい艇体のラインズ（線図）が完成に近付きます。

造船所で建造の後、ヨット本来の場所である海に浮かべられ（進水式：何度立会っても感動する美しい瞬間！）、乗り込まれ、シェイクダウンされて、オーナー独自の生活の薫りがしみついてくる頃、ヨットは完成品となります。

風の唸り、海のざわめき、マストやリギン（ワイヤー）のうめき声、風上から容赦なくふんだんに降りかかる潮のスプレー、泡立つ航跡、波頭から波窪へ踊るフネ、波をかき割り疾走する快感、風が静まり穏やかなサンセットクルーズ、星と月と友と帆走する夜、無風と照りつける太陽、いつもいつも異なる海の様相が私の頭を去来し、製図台に向かい図面を描き、あるいはデスクで計算に没頭している時、きっと私は恍惚の表情を呈していることでしょう。

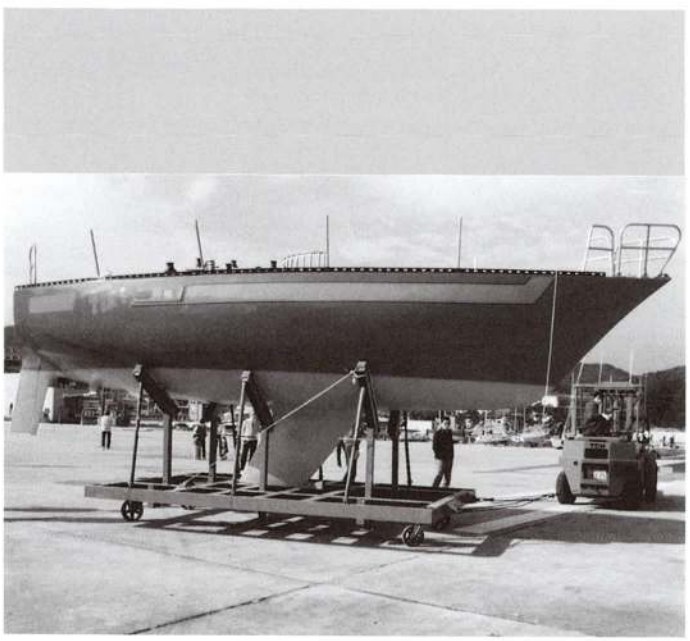
*

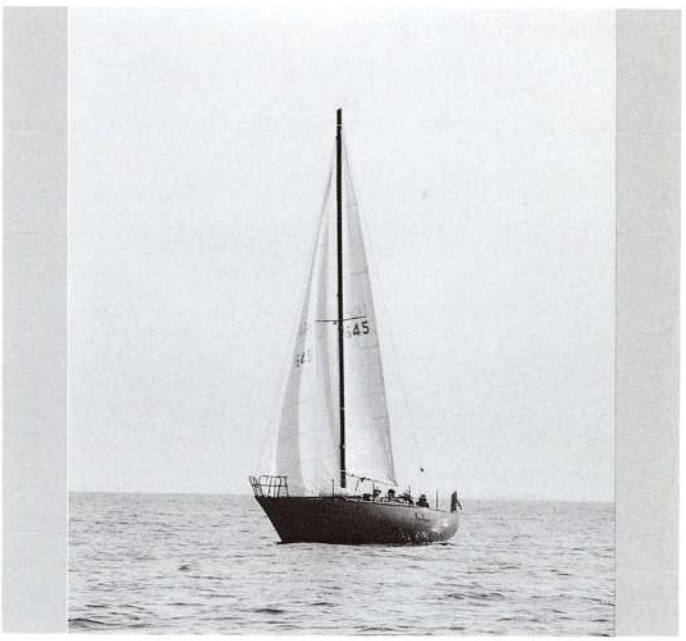
海を知らずに潮気に溢れるヨットの設計は出来ないし、設計作業は海に出ていては出来ず、従って私の時間の半分はフネの上、残りはデスクの前に坐っています。

（ヨットデザイナー・加藤木 俊策）



加藤木 俊策（かとうぎ・しゅんさく）
1945年　舞鶴生まれ
1970年　長崎造船大学卒
同　年　設計事務所開設
1974年　(株)セブンシーズ設立
ヨットの設計、現場監理、自作アドバイス
カトギヨット設計事務所
大阪府泉南郡岬町淡輪1635―7　TEL0724―94―1641





Walking —建築家おすすめデートスポット—

今回のデートコースの紹介者は、自称「古代科学研究者」渡辺豊和氏である。氏の人柄・言動・作風から察するに、今回はとてもミステリアスなデートコースになるかもしれない…と、期待を胸に氏に取材をお願いした。

本来ならば、氏と私達とで紹介いただくデートコースに赴く予定であったが、都合により氏の事務所にてということになった。ちょっぴり残念！しかし、氏の事務所のあるビル（芝川ビル）は、近代的なビルが建ち並ぶ淀屋橋界隈にしては外観からしてレトロかつミステリアスで、なおかつ事務所名も「渡辺豊和建築工房」と並んで「古代科学研究所」とある。これは、とてもミステリアスなデートコース取材となりそうである。


渡辺豊和氏

平凡の中の非凡—古代科学の漂う町・滋賀県余呉町

さて、氏が紹介してくれたデートコースは、滋賀県伊香郡余呉町の余呉湖から赤子山を経て、菅山寺に至る山道である。「この山道はずっと一面雑木林で人工林などないから、風景が一様でないんだよ。そして、菅山寺は今では廃寺になっているのだけども、谷間にあるのが珍しくて、何とも言えない独特の雰囲気があるんだな」と、氏は余呉町の地図を指し示しながら熱弁を振う。取材風景をカメラにおさめようとすると、「ちょっと待って、メガネをはずすから…」とポーズをとられる。「僕はだいたい辺鄙なところが好きでね。人がいっぱいいる観光地は好きじゃない。ここ（淀屋橋）の事務所にいたって、昼間は全然街に出ないもんな。出るときと行ったら、夜酒飲みに行くときぐらいかあ。なあ、そうだよな」と、傍らの所員に念を押している。

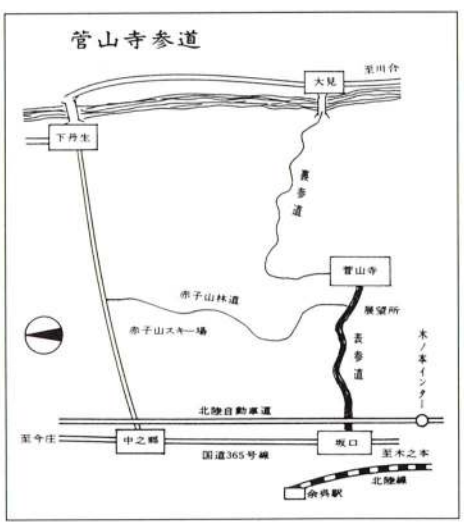
「先生がデートコースに紹介してくださるくらいですから、いろいろな特色がある所なのだと思うのですが、もう少し詳しく話していただけませんでしょうか？」との私達の質問に、渡辺氏は明解に一言。「それが、何もないんだよ」「何もない…」これまで、幾度か建築家の諸先生方にデートコースをご紹介していただいたが、〝何もない、何の特色もないデートコース〟というのは初めてである。（何の特色もない所なんて、どうやって記事にしよう）と困り顔の私達を前に氏曰く、「何もないのがいいんじゃないか」と喝を入れられた。ひたすら山道で、寂しくなるくらい山道だけど、菅山寺に来てぱっと景色が広がる。ただそれだけのことだけど、無我の境地に浸れるんだよな。自然自体が自己主張しないから、その受け手はありのままを選択できるんだよ。まさしく、平凡なものが非凡になるというか…」氏の話は、急に熱っぽさを帯びてきた。

「建物にしたって同じことだよ。ある建築家が、今までにないスタイルの建物を建てる。その時点で、それは今までにない＝非日常であるからこそ話題になる。話題になって注目を集めるスタイル


芝川ビル


菅山寺付近


余呉町を眺む



だというんで、また似たようなスタイルの建物が建てられていく。すると、街には同じような建物が乱立するわけだ。そうなれば、非日常が乱立することによって日常になってしまう。まさに、〝図〟を作っているつもりがいつの間にか〝地〟を作っているというわけだ。同じように、自然をベースにした観光地にしたって何も人手をかけていないところなど皆無に等しいことを考えると、この余呉町の山道は何もないことが非日常的なんだよ。何もないことの方がむしろほっとする。関西近効で、何も手を加えられてない自然が果たしてどれだけあるだろうね。』確かに私達は、自然をベースにした観光地の人工的に手を加えられた自然の中ではしゃいではいるものの、（どこも同じだなあ）の感は消えない。〝地〟に慣されてしまって、〝図〟が見えないのだ。

「何でもない余呉町の魅力だが、もうひとつのデートコースに花を添えるものがあるよ。』と渡辺氏。「三年に一度だけど、茶碗祭りというのがあってね。これはぜひ一度見に行って欲しいな。本当に不思議な祭りでね、恐らく日本に一つ、あるいは世界に一つしかない祭りだろうね。細い紐にいっぱいくぐりつけられている茶碗が、風が吹くとしなってしまって、あーもう落ちて割れてしまうと思うとまたひゅっともとにもどって、絶対落ちて割れたりしないんだよ。その茶碗のつなぎ方は、室町時代から伝わる秘伝らしくて、特定の家の人だけにしか知らないらしいよ。僕も知りたくてたまらないのだけども、絶対教えてくれないからね。まさにこの技は、古代科学の遺存物だよ。』と、氏は熱っぽく語ってくれた。

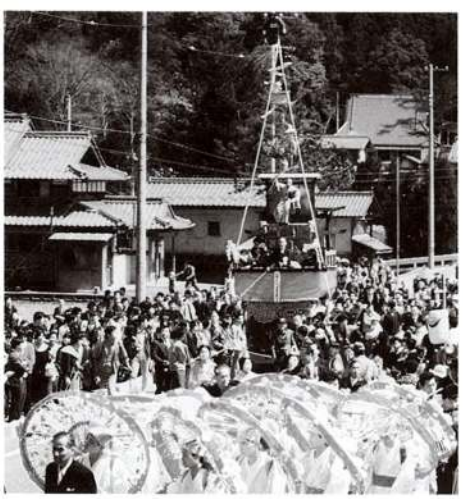
*

滋賀県伊香郡余呉町ー何もない無垢な自然と、古代科学が漂う茶碗祭りがある町。氏の言葉に誘われてぜひ訪れてみたいと思いながら、「渡辺豊和建築工房・古代科学研究所」とかかれた扉をそっと押した。



茶碗祭り

余呉町役場：滋賀県伊香郡余呉町中之郷958番地　☎(0749)86－3221
菅　山　寺：665年頃。孝徳天皇勅使を遣し当寺を検分される。この寺の近江天満宮は、菅公発祥の場として、道真太宰府での死後建立、現在の社殿は昭和５年に改築。なお、境内には菅公お手植えとされるケヤキがある。
茶碗祭り：滋賀県指定無形民俗文化財。茶碗祭りはその昔、上丹生のすえとうに陶器を作る工人がいて、その技術を神から授けられ、その報恩感謝のために陶器を奉献したのが茶碗祭りの始まりと言われている。



茶碗祭り



取材風景

と　き　平成２年２月５日
ところ　渡辺豊和建築工房
企　画　会員企画小委員会
Director　I. YUKO
U. KYOKO
S. YUKIKO

住宅の「今」を捉える視点を広げる

大森敏江

まず考今学という耳慣れない言葉が好奇心をかきたてる。著者は西山卯三氏となれば、少しでも住まいに関心のある人は思わず手に取るに違いない。考今学とは、著者の言によれば、現在の事象を断片的に集めるのではなく、トータルな「今」を考えようとする学問であるという。副題が現代日本住宅史というのも魅力的である。

従来、現代の住宅問題は、その複雑さ、変化の激しさ故に歴史として取り上げられることが少なかった。しかし「今」は過去の反映であり、同時に未来への足掛りでもある。現代の千差万別の住宅事情も、歴史の流れの中に位置づけなければ幅広い基盤に立って将来を展望することはかなうまい。本書はその基盤をかためたいと思っている人にとっては必読の書といえよう。

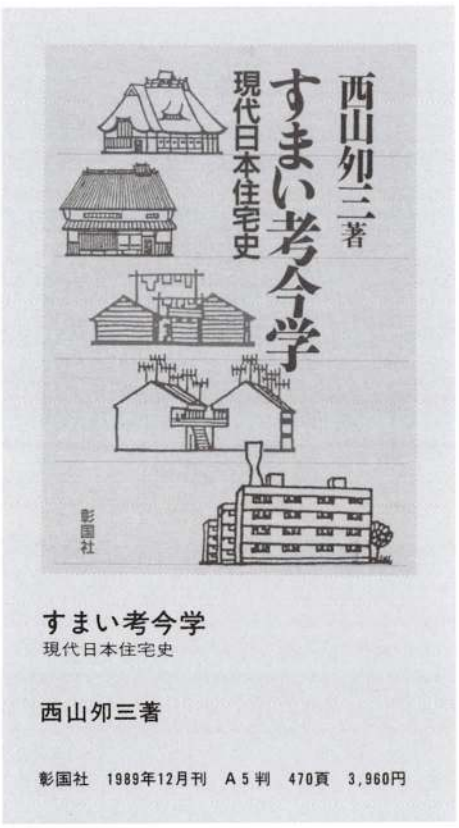
全体は9章からなるが、まず最初に〝すまいの条件〟という標題で、住宅のあり方を規定する諸条件（住むということ、住宅の機能、住生活を営む人間集団としての家族や世帯、男女の関係、家族と個人、住宅とそれをとりまくコミュニティ）について概述し、住宅史を見ていく視点が提起されている。

第1章は〝現代住生活の源流〟と題して、原始時代から江戸時代に至る長い歴史を通して育てられてきた住様式の根底となるもの（竪穴と高床、上足・ユカザ、支配階級の住宅、都市の発展、町家の階層分化、持ち家と借家、農家の間取りの発展、寝床と家具、日本人の諦観的住居観その他）を振り返り、日本人の多くが持つといわれる「ねぐら的」住意識のよってきたるところを探っている。

「今」への叙述は第2章にあたる〝明治の文明開化〟から始まる。ここでは封建的な家作制限の撤廃と文明開化によって住宅・住生活にもたらされたものが、支配層と人民の新しい乖離と対立による新しい階層分化であることが解明されている。

第3章の〝資本主義と都市化〟では、主として資本主義商工業の発達による都市化の進展と共に増加してきた借家住宅や併用住宅の問題が取り上げられている。東京と大阪の貸家システムの違い、貸家の間取りとその発展系譜、住み方等、わかりやすくかつ興味深い。

第4章の〝大正文化〟では、大正デモクラシーの波に乗って、個人生活の確立、家族重視の住宅という要求に応えるものとしての中廊下型住宅の確立と普及、都市の過密化、住宅難の激化等により社会問題として取り上げられるようになった住宅問題・住宅政策、洋風化・イスザを中心とする住宅改善の様々な試み、関東大震災後の同潤会の活躍等、多彩な問題が取り上げられている。



すまい考今学
現代日本住宅史

西山卯三著

彰国社　1989年12月刊　A5判　470頁　3,960円

第5章〝15年戦争の災厄〟では、戦時体制下における低い居住水準のさらなる切り下げに対抗しようとする住宅営団や建築学会の苦闘が詳細に紹介されている。著者の「食寝分離論」が生まれた経緯がよくわかる。

第5章〝敗戦後の住宅難〟では、きびしい絶対的住宅難に直面して、復興住宅政策が住宅建設の問題に矮小化され、やがて住宅難の解決を個人の責任におしつける「持ち家主義」政策が台頭してくる過程が描かれている。

第7章〝モダンリビング〟では、戦後の民主主義の確立・アメリカ的生活様式へのあこがれと高度経済成長が国民の意識や住生活にもたらした様々な影響とりわけ洋風化の意義と限界について述べると同時に、住宅の産業化の進展に伴って住宅革新の主導権が「住宅産業」の手に移り、住生活が歪められてきていると警告している。

第8章〝住宅産業化の時代〟では、持家政策下における住宅供給の産業化が持つ危険性を鋭く追求している。本書の真髄ともいえる部分である。価値観の多様化に名を借りた階層分化、先端技術の導入やうわべの高質化などにまどわされがちな現在の生活に改めて気づかされる。

最後の第9章は〝戦後の総括と展望〟として戦後の住宅デザインの変化、建築家たちの努力、住様式の改革、産業化と商業主義による生活様式の歪曲、家族構造と定住様式、町並み保存とまちづくり、持ち家政策の批判とこれに対する国民の運動などの経過を一括して概観し、次のような提言でしめくくっている。

「国民のおかれている住居の状態はさまざまである。これを本当に人間の暮しにふさわしいものに改善していくことは、個人の努力だけではできない。現代の文明にふさわしい住居を実現するため、国民は正しい住宅政策をもたねばならない。」

全体をとうして年号が西暦で表示されているので、これまでの歴史を元号で理解してきた身には、多少のとまどいを感じる。しかし、国際化の時代まして後世に読みつがれるべき本である、西暦での表示は当然といえよう。

本書が、内容の密度が高くボリュームもかなりあるにもかかわらず、案外読みやすいのは、問題意識が物的な住宅だけでなく、そこでの人々の暮し、住居観や住意識などにも広く向けられ、社会的な背景を筋として、的確なテーマが読み物風に取り上げられているからであろう。住宅の専門家だけでなく、一般のできるだけ多くの人々に読んでほしい本である。

（おおもり・としえ／甲南女子大学助教授・住居学）

山形政昭氏によるヴォーリズの足跡調査

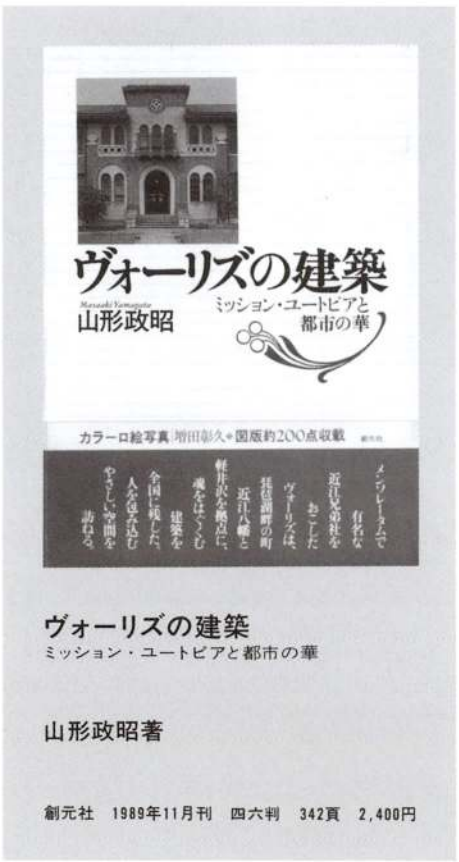
河邊　聰

著者の山形政昭氏は、永年にわたってヴォーリズの仕事を追っている日本近代建築の研究者である。本書は『ヴォーリズの住宅』に続いてのヴォーリズ建築の２冊目の書である。

著者とヴォーリズとのつきあいの長さは、著者自らがあとがきで10年と云っているし、巻末の著者の筆になる文献リストの多さからも、長年にわたっての熱心な研究の様子をうかがい知ることが出来る。

本書では、45件にものぼるヴォーリズの建築事例が集録紹介されている。Ⅰ章〝湖畔のユートピア〟では、著者が近江ミッションの建築と呼ぶものを７件、Ⅱ章〝プロテスタンティズムの花園〟では、20のミッションスクールの建築が扱われている。このⅡ章が事例数の多さから見ても、本書の中心を成すものと云える。Ⅲ章〝ミッションの礎〟では、キリスト教会、ＹＭＣＡ会館・ＹＷＣＡ会館の建築あわせて10件、そして最終のⅣ章では、〝都市の華〟としての商業・オフィスビルの建築が８件登場する。巻末に付けられたヴォーリズの建築作品リストは 600件余りだが、それすらも全作品数からすると半分以下の数であるという。ヴォーリズが建築家としていかに多作であったかに驚くと同時に、それだけの大きな活躍が滋賀県のいわば片田舎の近江の地を中心にされ、そしてその地の人々が彼を受け入れたということは、興味のあることである。この書が扱う45件とは、Ⅳ章の作品を除いて、いずれもキリスト教の伝導事業にかかわる、いわゆるミッション建築であり、本書はそれらの作品集という内容でもある。多くのヴォーリズの作品一つ一つを丹念に探し求めた著者の努力には、大いに敬意を表したいとも思う。しかも著者による事例の調査は、ヴォーリズの手になる建築物のみに限ることなく、その建物にかかわる周辺の事情と、事例が現実に向う過程もが明らかにされている。この点で建築にかかわる人達のみならず、ミッション関係の人々、また学校関係者、教育関係者にとっても貴重な資料として、本書は提供されていることになる。例えば関係の人脈も取り上げられているし、勿論ヴォーリズ自身の人柄を書くことを著者はいつも忘れてはいない。

その文章は、山形氏の人柄そのままにやさしさを漂わせている。それはヴォーリズの建築が「人を包み込むやさしい空間」である、という筆者の言葉と、共に通じるものがあるように感じる。永年にわたる研究の中で、筆者の人となりがヴォーリズの建築に似て来たのではないだろうかと思える程である。



ヴォーリズの建築
ミッション・ユートピアと都市の華

山形政昭著

創元社　1989年11月刊　四六判　342頁　2,400円

著者がここで書きたかったことは、このやさしさではなかったのかと思う。このやさしさがミッション建築というキリスト教伝道にかかわる宗教的な面から来るものと書いているようにも読める。宗教が、あたかも人の心を包み込むように、建物には刺激的でない形態が好んで用いられた。これは筆者がアメリカ西海岸で見た夕陽の中のミッション建築の印象であった。その建築の素材はオドービーと呼ばれる日乾レンガ、まさに土そのものである。土を固めて作られた形態は、土着的で、人にやさしく接するものであった。ヴォーリズの建築がそうしたやさしさを持つとすれば、一般的にアメリカ人が持つ人のよさとヴォーリズ個人の人間的な暖かさの両方から来るものであることは勿論であろう。やさしさを通しての、ミッション建築という、日本にとって、近江の国にとっての異文化の、ヴォーリズによる紹介を著者は語っているのである。日本の、しかも我々のごく身近かな文化の中へ流れ込むものとしての、アメリカ人による宗教活動の軌跡が追われ、その具体的事物として建築物が紹介される。しかもヴォーリズが手がけた建物のみが、または先行しながら語られるのではなく、広く題材は求められ記述されている。この意味で本書の内容は、ヴォーリズだけにとどまることなく、背景にあたるものへの広い多様な気くばりから来る読みものとしての幅の大きさを示すことになっている。建築関係者のみならず、一般人を読者に迎えることが出来る書物である。例えば近江の郷土資料ともなる。また増田彰久氏による写真、特に口絵写真は美しい。

（かわべ・さとし／京都工芸繊維大学教授・アメリカ建築史）

新　刊

吉村順三建築図集

全７巻＋別巻
■編集委員　大野　寛　白仁成昭
■図　　集　図面集：Ａ３判・並製・各240頁
　写真シート：Ａ３判・各16枚
■別　　巻　Ａ４判・上製・144頁



建築家・吉村順三の新旧16の作品を厳選し、手書きの鉛筆原図を復元。各作品のポイントは鮮明な写真で描出され、また、別巻には吉村の建築思想を表明するエッセイと設計過程を明らかにするエスキスが収録されている。（限定企画販売）

※問合せは、㈱同朋舎出版販売へ。TEL 075-343-0745



バークシティ本牧 中区本牧原 まちなみ部門
三井建設／三井・関・五洋・熊谷・奥村JV



マイカル本牧 中区本牧原 建築物部門
大成建設／大成・清水・奥村・西武・関JV



横浜マリタイムミュージアム、帆船日本丸 西区みなとみらい その他部門
三菱地所／大成・大林・フジタ・山岸・馬淵JV



大倉山エルム通り 港北区太尾 まちなみ部門
鹿島建設／鹿島道路



聘珍樓 中区山下町 建築物部門
丹青社／大成・丹青社JV



色彩復元した氷川丸 中区山下町 その他部門



かしの木台ハイツ、しいの木台ハイツ 緑区荏田南 まちなみ部門
日建ハウジングシステム／飛島・富士工・山岸JV（かしの木）、青木建設、宮本工務店、松尾工務店、大林組（しいの木）



横浜市開港記念会館 中区本町 建築物部門
城子代子（図面寄贈）／清水建設



磯子アベニュー 磯子区磯子 その他部門
象設計集団／加藤組、小原建設、寿建設工業



緑園都市四季の径 泉区緑園 まちなみ部門
相模鉄道／相鉄建設

第3回横浜まちなみ景観賞

平成元年度第3回横浜まちなみ景観賞の受賞物件が決定した。

今回のまちなみ景観賞への応募は96点（商業ビル30点、集合住宅15点、公共建築11点、広場・公園・橋10点、プロムナード8点、戸建て住宅地6点、商店街5点、その他11点）で、一次、二次審査を終えて、選定されたのはA部門（まちなみ）4点、B部門（建築物）3点、C部門（その他）3点の計10点。

なお同時に、横浜市では昭和60年度から横浜まちづくり顕賞事業も設けているが、まちづくりに顕著な功績のあった民間の個人または団体を表彰する「横浜まちづくり功労者賞」第5回受賞者として、横溝和子氏ほか8団体を発表している。

「バルセロナ & ヨコハマ シティ・クリエーション—BAY'90」

と　き　1990年4月28日(土)～7月1日(日)　木曜休み
10：00～21：00　5月7日から時間短縮

ところ　横浜市みなとみらい21地区
横浜美術館、グランモール公園周辺

テーマ　都市の創造性
①バルセロナからのメッセージ
②生活文化としてのデザイン戦略
③新しい都市文化のデザインへのアプローチ

内外の建築家、アーティスト、デザイナーによる実験都市の創造、またライブ、パフォーマンス、映像、美術展、実験劇場のある刺激に満ちた空間構造が出現。事務局は横浜市都市計画局内。

横浜アーバンデザイン国際コンペ「ウォーターフロントの再生に向けて—横浜海岸通り—」

横浜アーバンデザイン国際コンペは、横浜の都市空間を題材としてこれからの都市のあり方を探り、「都市のデザイン」を提案するアイデア・コンペで、第1回は、横浜馬車道に敷地を想定し、「建築からまちの姿を考える」というテーマで実施された。

第2回めの当コンペでは、課題を「ウォーターフロントの再生に向けて—横浜海岸通り—」とし、〝人と水〟〝建築と水際〟〝都市と港〟などの新しい関係を示したアーバンデザインのプランが求められている。コンペ開催要領は下記のとおり。

*

■対象地区——横浜市中区海岸通り
敷地面積／約10,450㎡、用途地域／商業地域・防火地区、指定容積率／400% の想定敷地内には、日本郵船横浜ビル、横浜ビル、川面倉庫がある。

■審査——審査委員長／槇文彦
委員／蓑原敬、陣内秀信、シー・ユー・チェン、リチャード・ベンダー、江口昭悟

■賞金
最優秀1点 100万円、優秀2点各50万円、佳作10点各10万円、別に日本郵船賞が副賞としてつく。

■登録・提出期限
応募登録は、1990年5月7日までに官製葉書にて。提出締切は5月21日(月)。当日消印有効。

■問い合わせ——横浜市都市計画局都市デザイン室

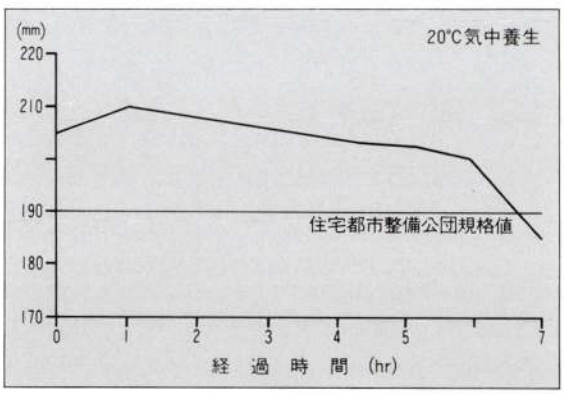
セメント系セルフレベリングモルタル材

エスレベル®

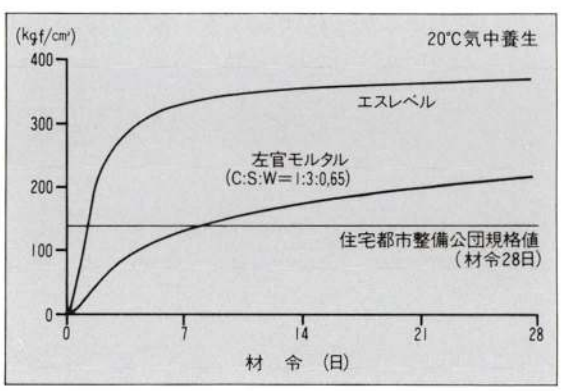


エスレベルは、セメントと砂を主成分とした既調合型自己水平性モルタル材で、所定量の水とともに高速モルタルミキサーで練り混ぜたスラリーを流し込むだけで水平度が高く、かつ短期間で硬化するモルタル層が形成できます。熟練工不足・現場省力化時代にふさわしい床下地モルタル材・ベースモルタル材です。

●フロー値



●圧縮強度



●特長

①抜群のセルフレベリング性と施工能率

②優れた物性

③モルタル塗りに匹敵する経済性

●用途

①床下地用——貼り床、塗り床、置床の下地モルタル材として使用できます。

②基礎天用——コンクリート造基礎のベースモルタル材として使用できます。

新日鐵化学株式会社

本　　社

〒104　東京都中央区銀座5丁目13番16号　TEL(03)542-1321(代表)

大阪支店

〒530　大阪市北区中之島3丁目2番4号(朝日新聞ビル)　TEL(06)202-5251

風が運ぶホームラン

財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台5－8－1 〒565
電　　話…(06)872－0391 FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：9：00～17：00
土曜：9：00～12：00(第2、第4土曜休日)

「春は選抜から」といわれる春の全国高校野球大会が甲子園球場でまもなく始まります。最近では、ドーム球場が話題になり、そこではいかなる気象条件のもとでも野球が楽しめるようになりましたが、高校球児達は雨や陽光や風など自然の気象条件の下で熱闘に汗を流すわけですから、時には意外な自然のいたずらが勝敗を左右することもあります。甲子園球場では浜風（海からの風）が吹くと雨になるといわれ、かなり強い風が吹くことがあります。その風の影響でフェンス際の飛球が思う程度延びなかったとか、打った瞬間は平凡な外野フライと思ったのに風に乗ってホームランといったケースもよく見られます。では、打球に与える風の影響はどの程度なのでしょうか。簡単な計算をしてみましょう。

飛球の弾道計算の例は文献(1)に紹介され、文献(2)にも収録されています。その例を**図－1**に示します。計算手法がわかりませんが、水平に風が吹く場合、水平距離が延びたり、縮んだりすることがわかります。風が水平に吹くので、球に与える風力は水平力だけを考え、最高高さは風によって変化することはありません。滞空時間も変わりません。ですが、それは本当なのでしょうか？

運動方程式を作って考えてみましょう。簡単にするために、次の4つの大きな仮定をします。

①風は水平方向にのみ一様に吹く。
②球の回転による力は考えない。
　実際には、多くの場合球にはバックスピンがかかり、その回転力（マグヌス効果）によって若干飛距離が延びる。
③球に作用する空気力は球と風の相対速度の自乗に比例し、球と空気の摩擦力は考えない。
④球の空気力係数（抗力係数）は相対風速（つまり、レイノルズ数）によって変化しない。

さて、水平方向をx軸、鉛直上向きをy軸とし、ホームベース上を原点とします(**図－2**)。また、座標(x, y)の位置における球の速度をvとし、その点での風速をwとします。球は$V=v-w$の相対速度で運動すると考えられますから、空気の抵抗力Fの大きさは、

$$F = C_D \cdot A \cdot 1/2 \rho V^2$$

で表わされることになります。ここで、C_Dは球の抗力係数、Aは球の投影面積、ρは空気密度です。Fをx成分F_xおよびy成分F_yに分解すると、

$$\begin{cases} Fx = F \cdot \dfrac{Vx}{V} = -C_D A \dfrac{1}{2} \rho V V x = -C_D A \dfrac{1}{2} \rho V (v_x - w) \\ Fy = F \cdot \dfrac{Vy}{V} = -C_D A \dfrac{1}{2} \rho V v_y \end{cases}$$

ただし、$V = \sqrt{(v_x - w)^2 + v_y^2}$

v_x, v_yは球の速度のx成分およびy成分を表わす。
結局、球の運動方程式は次のように表わすことができます。

$$\begin{cases} m \dfrac{d^2x}{dt^2} = -C_D A \dfrac{1}{2} \rho V (v_x - w) \\ m \dfrac{d^2y}{dt^2} = -mg - C_D A \dfrac{1}{2} \rho V v_y \end{cases}$$

この式は非線形方程式ですので、0.01秒毎に数値計算をして球の弾道を求めます。計算に用いた定数は次のとおりです。

　球　：重量145ｇ、直径7.4cm，抗力係数$C_D=0.44$
球の初速：45m/sec
空気の密度：$\rho = \frac{1}{8}$kg･sec^2/m^4
重力の加速度：$g=9.8$m/sec^2
初期高さ：1ｍ

計算結果を見るといろいろと面白いことがわかります。**図－3**は無風時の打ち上げ角度による飛球の軌跡の違いを表わしていますが、高校の物理の時間に習ったように球は45°の角度で上がったときが一番遠くまで飛ぶのではなくて、40°くらいで上がったときが最も飛距離が延びます。これは空気の抵抗を考えたためです。また、風の影響を受けても最高点に達するまでは、軌跡にはほとんど変わりがありませんが、落下するときになって急に差が現れます。飛球が風で押し戻されたり、風に乗って距離が延びたりすることが納得できます。

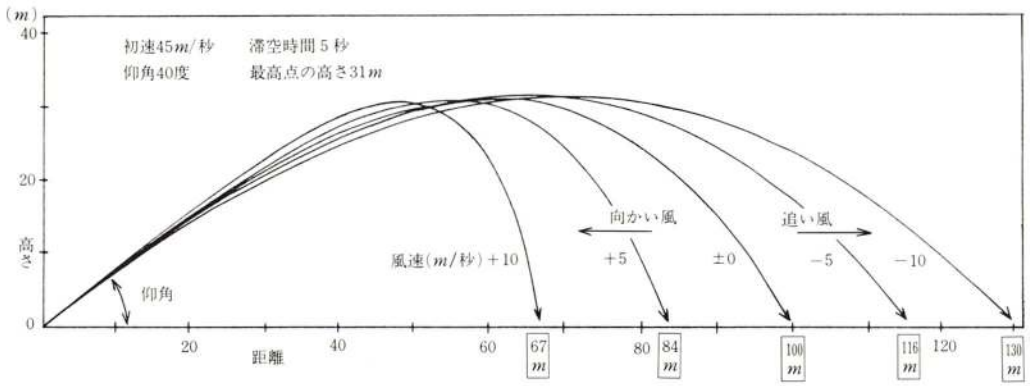
さて、**図－4**を**図－1**と見比べてください。風が水平にしか吹いていないと仮定したにも拘らず、**図－4**では最高高さが変化することがわかります。これは、**図－4**では、球と風の相対速度と相対角度によって空気の抵抗力が決まるとしたのに対し、**図－1**では恐らく、単に風の力を水平に足したためでしょう。

5ｍ毎秒の風といえば、旗が水平になびく程度です（グランド内では風はもっと弱い）が、飛球がフェンス際で数ｍも延び、勝敗を決するホームランが生まれることもあるのです。さてさて、今年の選抜ではどのようなドラマが起こるのでしょうか。

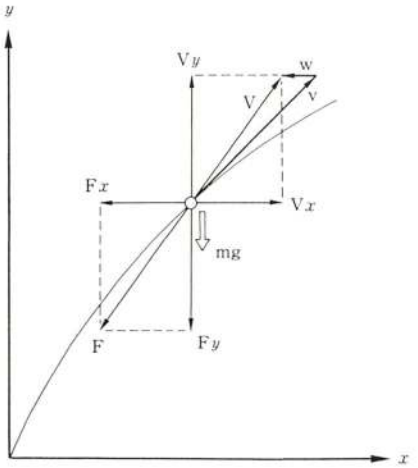
青空に大きく舞い上がった白球、懸命に後退するセンター、振り向き、構えて・・・アッ！

風洞試験係　西村宏昭

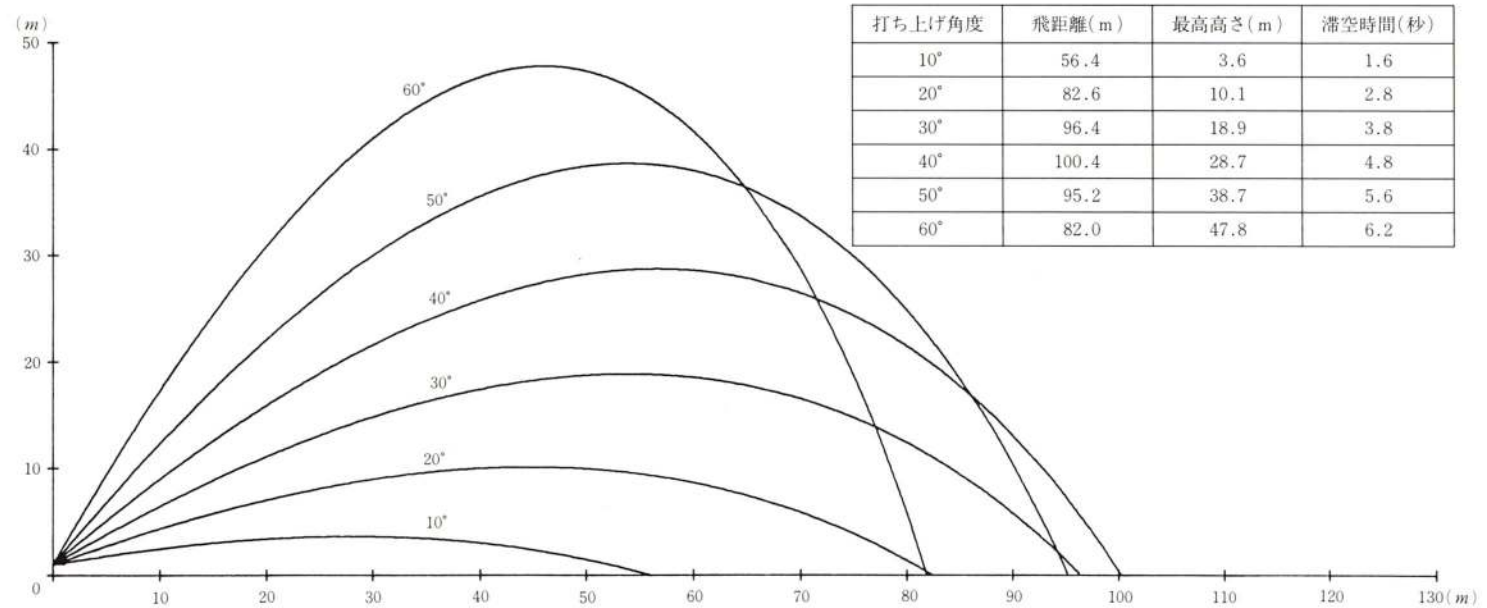
(引用文献)
(1) 矢島幸雄、実験データが語る風の威力、読売新聞1982年6月9日
(2) 高木隆司、スポーツの力学、講談社ブルーバックス、昭和58年



図－1　無風で100m飛ぶ打球が、追い風(－)、向い風(＋)を受けたときの飛距離の変化

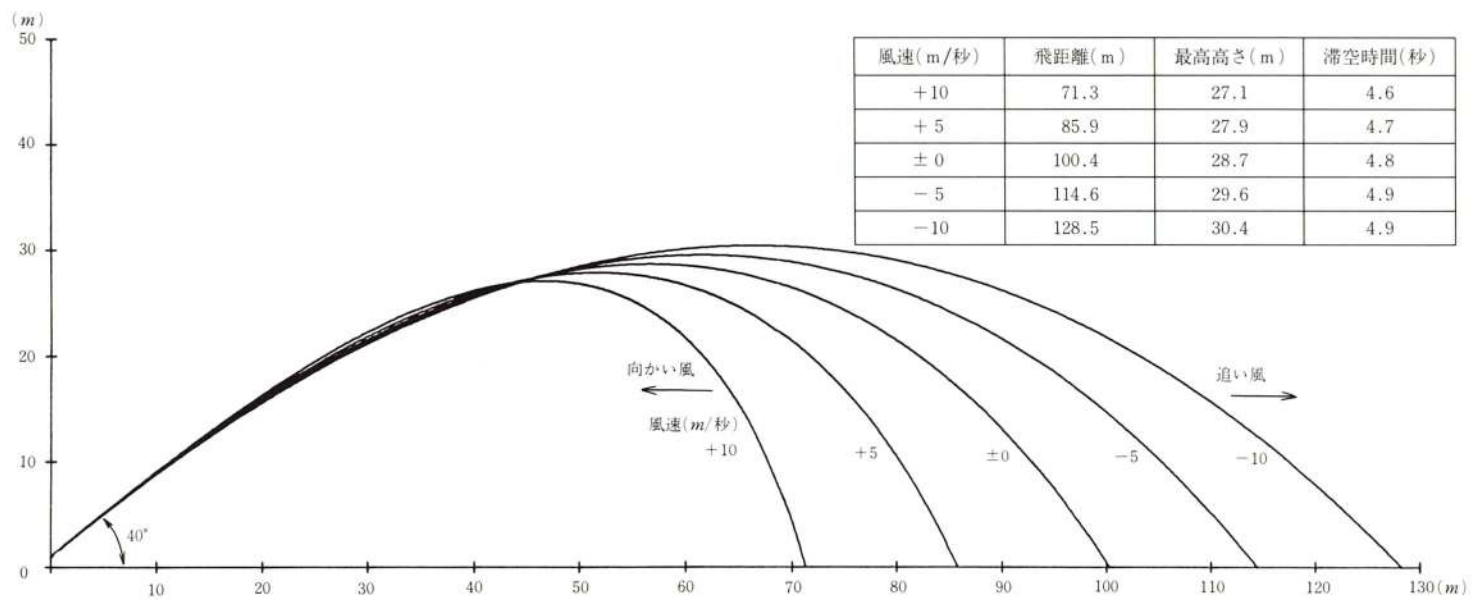


図－2　飛球に加わる力の釣り合い



打ち上げ角度	飛距離(m)	最高高さ(m)	滞空時間(秒)
10°	56.4	3.6	1.6
20°	82.6	10.1	2.8
30°	96.4	18.9	3.8
40°	100.4	28.7	4.8
50°	95.2	38.7	5.6
60°	82.0	47.8	6.2

図－3　打ち上げ角度による飛球の軌跡



風速(m/秒)	飛距離(m)	最高高さ(m)	滞空時間(秒)
+10	71.3	27.1	4.6
+ 5	85.9	27.9	4.7
± 0	100.4	28.7	4.8
− 5	114.6	29.6	4.9
−10	128.5	30.4	4.9

図－4　風による飛球の影響

法令コーナー

編集委員会法令分科会

246

すこやかな社会づくりのためのまちづくり整備指針

高度経済成長期までは、まちづくりは都市機能の高度化・機能化を図るためのもので、健常者を中心とした考え方でなりたっていた。しかし高度経済成長期以降は、ノーマライゼーションの理念が定着し、住宅や都市施設の整備に当たっては高齢者や障害者の方々へ配慮をする必要のあることが広く理解されるようになってきた。

兵庫県では、昭和54年10月に県立施設を対象とした「老人・身体障害者のための建築施設整備の手引」、昭和60年９月には「高齢者を配慮した住宅設計の手引」をそれぞれ発行し、高齢者や障害者が暮らしやすいまちづくりを進めてきたところである。このようなまちづくりをより一層推進するため、平成元年９月にすべての県民を対象とした「すこやかな社会づくりのためのまちづくり整備指針」を作成・公表した。

この指針は、望ましい生活環境の基準を示し、県民が広く利用する公共的施設などについて、高齢者や障害者その他ハンディキャップを持つ人々の利用に配慮した整備のガイドラインや指針を定めるとともに、県、市町その他の関係団体の責務を明らかにしたものである。また、住宅編は、これからの長寿社会に向けて、すべての県民が生きがいのある生活を過ごすことができる住まいづくりを進めるために、住宅を建築・改造する際に配慮すべき事項などを参考として掲げている。

指針の作成に当たっては、平成元年３月に「試案」を公表し、県民をはじめ各方面からの広範な意見を頂戴した。

まちづくり整備指針の概要

１．基本理念および目的

本格的な長寿社会の到来に備え、高齢者も障害者もできる限り住み慣れた家庭や地域社会の中で、若者や健常者とともに自立した生活が送れるよう条件を整え援護する、ノーマライゼーションを実現することが肝要である。

この指針は、高齢者や障害者にとって住みやすいまちはあらゆる世代の人々にとっても安全で快適であるという考え方に立って、だれもが住みやすい生活環境を創出し、高齢者等が自由に外出し社会参加できるよう条件づくりを進めることを目的とするものである。

２．対象施設

この指針は、次の施設を対象とする。

(1)　公共的施設

①不特定多数が利用する建築物（**表１**）

②道路、公園・緑地および公共交通機関

(2)　住宅（共同住宅の住戸内を含む）

３．施設整備標準

県民が広く利用する公共的施設等について、高齢者、障害者（児）その他ハンディキャップを持つ人々の利用に配慮した構造・設備等の整備標準を定める。（**表２**、**３**参照）

４．施設整備方針

(1)　施設整備標準は、施設の新設（新築）、増設（増築）等に際して適用するが、既存の施設についても可能な限り適用するものとする。

(2)　施設整備標準の適用に当たっては、施設の用途、規模等を勘案するものとする。ただし、整備が困難な場合には、代替的または補完的措置を講ずるものとする。

(3)　主として高齢者等の利用を目的とした施設については、施設整備標準に加え、さらに配慮するよう努めるものとする。

５．県・市町等の責務

(1)　県は、その設置・管理する対象施設が施設整備標準に適合するよう努める。

(2)　市町は、まちづくり整備指針に準じた指針を定め、その設置・管理する公共的施設等の整備に際してこれに適合するよう努めるとともに、事前協議の手続き等を定めた指導要綱等を制定し、当該地区における公共的施設の設置者または管理者に対し、必要な指導・助言を行うよう努めるものとする。

(3)　県・市町以外の施設設置者等は、公共的施設の新設等を行うときは、市町が制定する指導要綱等の定めに従い、高齢者等の利用に配慮した整備

表1　まちづくり整備指針の対象建築物

(1)　病院、診療所等
(2)　百貨店、スーパーマーケットその他の物品販売業を営む店舗等
(3)　飲食店等
(4)　理容店、美容院、公衆浴場等
(5)　遊技場等
(6)　劇場、映画館、演芸場、観覧場等
(7)　公会堂、集会場等
(8)　図書館、美術館、博物館、展示館等
(9)　体育館、プール等
(10)　銀行、信用金庫、郵便局、電報電話局等
(11)　ホテル、旅館等
(12)　官公庁庁舎、官公庁出張所等
(13)　老人福祉施設、保育所その他の社会福祉施設等
(14)　幼稚園、小学校、中学校、高等学校、高等専門学校、大学、専修学校、各種学校等
(15)　共同住宅、寄宿舎等（ただし住戸内は除く）
(16)　事務所、工場等
(17)　その他不特定多数が利用する建築物で知事が特に必要と認めたもの

（注）
(1)から(5)までに掲げる建築物については、用途面積がおおむね 500㎡以上のもの、(11)に掲げる建築物については、おおむね1000㎡以上のもの、(15)および(16)に掲げる建築物については、おおむね3000㎡以上のものを対象に考えている。

表2　対象建築物に関する施設整備標準（抜すい）

駐車場

スペース
●障害者用駐車スペースには、車体分のスペースの右側に幅120cmの乗降用スペースを確保する。
標示・誘導
●進入口に障害者用駐車スペースが設置されていることがわかるような標示をする。また、進入口から障害者用駐車スペースまでの誘導標示を行う。
●車体用の床面には障害者用シンボルマークを、乗降用スペースの床面には斜線を塗装標示する。
●見通しの悪いカーブなどには、ミラーを設置する。

スロープ（斜路）

踊り場
●始点、終点、曲がりの部分、折り返しの部分、他の通路との交差部分や高低差が100cmを超えるごとに、踊り場（長さ150cm程度の水平部）を設ける。
立ち上がり
●車いすの脱輪などを防止するため、５cm以上の立ち上がり、または側壁を設ける。
標示
●始終点の手すりの端には、現在位置を点字で標示する。

出入り口（戸）

自動ドア
●自動ドアを設ける場合は、引き戸または引分け式が望ましく、車いす使用者の通行を配慮し、扉の開放時間は十分に確保する。開閉起動装置は、感知域を広げ、視覚障害者、車いす使用者などの通行について、支障なく作動するように配慮する。
ドアハンドル
●ドアハンドルは使いやすい形状のものとし、床面から85cm程度の所に設けることが望ましい。

便所（車いす用）

出入り口
●便所および便房に入るための通路、出入り口は、段差その他の障害物がないよう配慮する。
便房のスペース
●便房は、入り口より便器まで直進でき、車いすが回転できるスペース（直径150cmの円が内接できる程度）を確保することが望ましく、広さ200cm×200cmを基準とする。ただし、建築物の用途などから設けられない場合は、広さ120cm×180cm～140cm×160cm程度とする。

エレベーター

乗り場
●乗り場ボタンの高さは100cm程度とする。
●出入り口の開口幅員は、有効幅員で80cm以上、建物床とかごとのすきまは２cm程度とし、段差をなくすため自動着床調整装置を設ける。
かご内部
●手すりは、かごの両側面に設ける。
●かごの壁面に床上35cm程度まで車いす当たりをつける。
標示
●一般操作盤、インターホンなどには点字標示を行う。

表3　住宅に関する施設整備標準（抜すい）

	特　性	機能の変化	主な設計上の配慮
1	全般的機能の低下	●全体的に虚弱	●日照、通風など自然的条件のよい老人室の確保 ●冬期の住宅内での過ごし方に考慮 ●モビリティー性の追求
2	骨格の脆弱化筋力の低下	●体が全体的に小さくなっている ●骨がもろく、骨折しやすい ●上肢、指先の力が衰えている ●足腰が弱っている ●脚力も弱まり、敏しょう性が乏しくなっている	●体の寸法を考える（収納高さ、作業面高さ） ●床は水にぬれても滑りにくい材質のもの ●水栓器具はレバーハンドルなど使いやすいもの ●便器は腰掛け式便器がよい ●ドアの開き勝手や器具配置に配慮
3	視覚、聴覚などの低下	●視力は60歳代で平均 0.4縮小し、夜間視機能も低下し、成人の２倍の光源が必要 ●可聴距離が狭まり、難聴者が増加する ●温冷感覚の反応が鈍る	●寝室から便所までの夜間照明 ●浴室は十分明るく ●老人室は全体に明るく照明も均整をとる ●室換気がしやすい設計 ●ガス警報機、電磁式コンロ ●冬期は高めの暖房 ●シャワーなどは温度調整しやすいもの
4	平衡感覚、中枢系機能の低下	●転び立ちくらみが多くなる ●反応時間が遅くなり、睡眠は浅く覚せいしやすい	●手すりの配慮 ●できるだけ段差のない設計 ●踏み台を使わなくてもよい収納高さ ●老人室の防音的な設計上の配慮
5	内部器官の機能低下	●そしゃく力の低下に伴い消化力が弱まり、便秘、痔が多くなる ●高血圧、心臓病が増える。脳卒中はガンに次ぐ死因 ●夜尿回数が増える ●ぜんそくにもかかりやすい	●老人室の近くに便所を設置 ●便所・脱衣室の暖房などにより、急激な温度変化を避ける
6	疾病、障害の増加	●緊急事態が発生しやすい ●防災、防犯	●非常通報システムを確保 ●ドアの内開きは避け、外開き、または引き戸とする。
7	生活構造の変化	●余暇時間が多く、住居内での生活時間が長い ●過去とのつながりを大切にする ●思考の柔軟性が失われていき、反応が遅くなる ●新しいものへの適応が困難 ●経験、生活の知恵が豊富	●十分な居室の広さと、縁側などの併設 ●座った位置から庭や、外部が眺められる ●くつろぎやすい設計や、色彩計画とする ●十分で使いやすい収納スペース ●仏壇置き場も考慮

を行うよう努めるものとする。

6．県民の参加

県民は、高齢者等が安心して快適に対象施設を利用できるよう必要な協力を行い、自らの住宅についてもまちづくり整備指針に配慮し、潤いとやすらぎのある生活環境の整備に積極的に参加するものとする。

だれもが住みやすいまちづくりに向けて

まちづくり整備指針の実効性を担保するため、現在、県下各市町において平成２年４月１日施行を目途に、民間の施設設置者に対する指導要綱等の策定に取り組んでいる。なお、公共的建築物が指導要綱等により定められる整備標準に適合した場合、市町がシンボルマークを交付することとしており、昨年12月に公募により図案を決定したところである。（**図１**）



図1　シンボルマーク

また兵庫県では、この指針が公共的施設の新築・改築に際してのガイドラインであるにとどまらず、既存施設の整備も含めて、だれもが住みよい、潤いとやすらぎのある生活環境を創出するための契機となるよう、県民、市町その他の関係団体の協力を得て、すこやかな社会づくりのためのまちづくり推進計画を策定することとしている。

（兵庫県生活文化部長寿社会政策局高齢社会企画室）

●ニュース

コンペ方式によるまちづくりマニュアルを作成―大阪府―

従来、ともすればコンペ方式は建築物単体の設計や事業化を目的とするものに片寄る傾向が見られたが、大阪府では、交野市星田地区の一戸建て住宅を中心とするコンペ、貝塚市二色の浜地区の中高層集合住宅のコンペなどの実績をもとに、さらにゆとりとうるおいのあるまちづくりを進めるため、まちづくりにコンペ方式を導入することを主眼にして、昨年末に、その実施マニュアルを作成した。題して「21世紀大阪バウプラン－コンペ方式によるまちづくりの推進」。

コンペ方式によるまちづくりには、以下のような効果が期待される。

①まちづくりに多くの人々の英知を結集することにより、社会環境の変化に対応した新しいアイデアや、魅力ある都市景観の形成に寄与する優れたデザインを得ることができる。

②民間に蓄積された企画力、事業力を生かしつつ、地域の活性化を図ることができる。

③まちづくりにイベント性を導入することにより、府民の関心を高めることができる。

以上のような効果を期待して、「21世紀大阪バウプラン推進協議会」の２ヵ年にわたる検討の結果作成された本プランは、

●第Ⅰ「コンペ方式によるまちづくり指針」
――まちづくりにコンペを導入する目的や効果、大阪府がとるべき推進方策等

●第Ⅱ「まちづくりコンペの実施マニュアル」
――コンペを実施する際の各段階での留意事項等の２部からなっている。

因みに、〝バウ〟とはドイツ語で「建造物」を意味し、まちづくりにコンペ方式を導入し、街全体を展示場に見立てて、そこで繰り広げられる建築活動それ自体を市民や世界に提示する西ドイツの施策は〝インターバウ〟と名付けられている。本プランは、これに因んで名付けられたもの。

本件および小冊子についての問い合わせは、大阪府建築部建築指導課（Tel06－941－3749）へ。

大阪市、平成２年度緑化施設の推せん募集

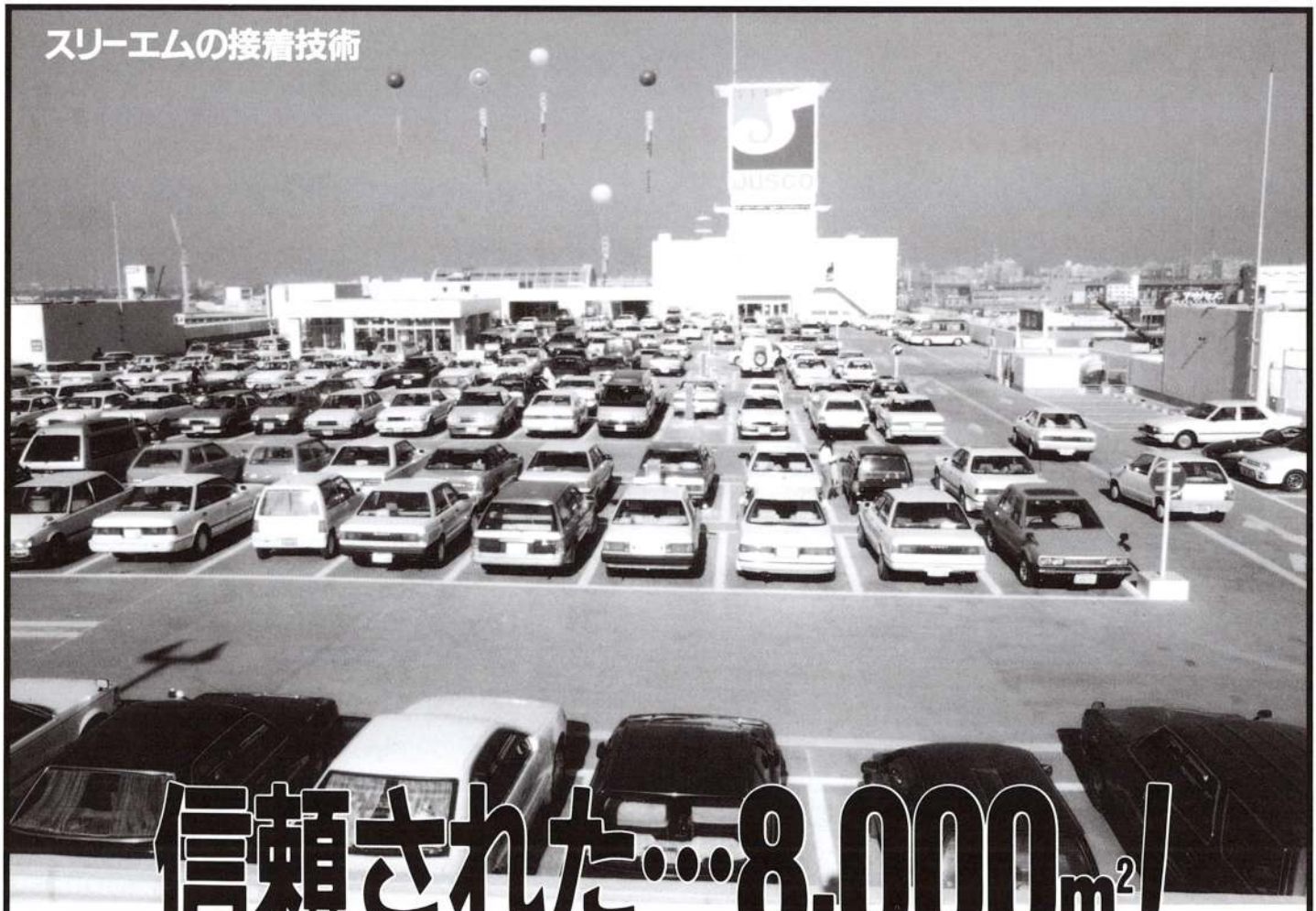
大阪市は、建築物に付属する優秀な緑化施設の第21回表彰のため、表彰に価する施設の推せんを広く募っている。

◀表彰の範囲：大阪市内で最近５ヵ年以内に設置され、設置後１年以上を経過した建築物に付属する緑化施設で、企画、設計、管理に優れ、市街地の環境改善に貢献すると認められるもの。ただし、個人住宅の庭園、公共施設に付属するもの、利用が有料であるもの、設置が一時的なものは除く。

◀表彰対象：緑化施設所有者or管理者、設計者

推せんは、①建築物名、②位置、③所有者または管理者および設計者、④竣工年月日を書き添えて、４月７日までに大阪市計画局建築指導部指導課普及係（Tel06－208－9281）へ。

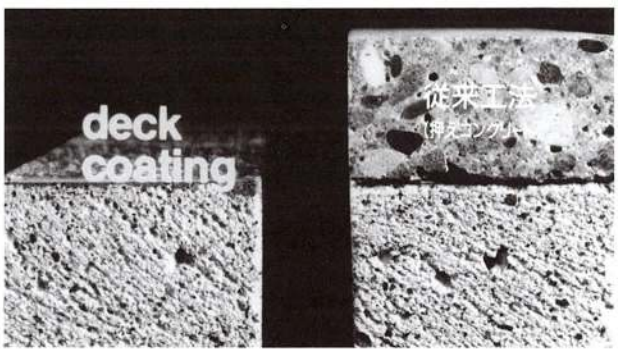
スリーエムの接着技術



信頼された…8,000m²!

大型ショッピングセンター屋上駐車場に施工!!

完全露出工法!



- ●車の通行に耐える強靱さ、耐久性!
  - ●15年の実績
- ●大幅な軽量化を実現!
  - ●コストダウン
  - ●設計の自由度が拡がる
- ●下地のクラックにも柔軟に対応!
  - ●幅1.6㎜まで(米国実績)
- ●つぎ目のない美しい仕上がり!
- ●一液タイプで容易な施工!
- ●万一のトラブルも補修が簡単!
- ●3M指定の施工業者が行う"安心な責任施工"!

強い!軽い!美しい!理想の防水工法

デッキコーティング防水システム

《主な用途》
- ●駐車場専用ビル。一般ビルの屋上駐車場。
- ●防水を必要とする一般ビルの屋上、通路、斜路。
- ●バルコニー。ベランダ。屋内防水通路。
- ●配送センター。スタジアム。

住友スリーエム株式会社 3M
接着剤製品事業部
本　　社 158東京都世田谷区玉川台2-33-1
東京支店 107東京都港区赤坂7-1-21(スリーエムビル)　電話 (03)423-7331
大阪支店 532大阪市淀川区西中島4-1-1(日清食品ビル)　電話 (06)305-3134
名古屋支店 454名古屋市中川区西日置2-3-5(名鉄交通ビル)　電話(052)322-9629

3M

スコッチクラッド

デッキコーティング防水システム

露出で駐車場用途にも使用できる塗膜防水材

住友スリーエム株式会社 3M
接着剤製品事業部
本　　社 158東京都世田谷区玉川台2-23-1
東京支店 107東京都港区赤坂7-1-21(スリーエムビル)　電話 (03)423-7330
大阪支店 532大阪市淀川区西中島4-1-1(日清食品ビル)　電話 (06)305-3134

■はじめに

1970年米国スリーエム社で開発され、ヒューストン空港で使用されて以来、米国では約2600万㎡の実績を持つ。1液のウレタンをベースにする塗膜防水材で保護層を必要とせず、そのまま駐車場床としても使用できる耐摩耗性を有する。また、ゴム弾性体で下地の動きに対し高い追従性を示す。日本でもテスト使用された駐車場で15年の歳月を経ており、耐久性でも信頼がおける防水材と言える。

■主な用途

駐車場用途防水（一般部、斜路）
歩行用途防水（重歩行、軽歩行）
屋上防水
バルコニー、階段
スタジアム、ヘリポート等

■特長

1．傑出した耐摩耗性を持つ。
2．強い下地への接着力と、クラック追従性を持つ。
3．軽量化によりトータルコストが低減できる。
4．露出防水でメンテナンスが容易である。
5．1液タイプで作業が早く、工期が短縮できる。
6．ふくれ、はがれに強く、改修工事に適する。

■工法の概要

デッキコーティングは使用部位・摩耗度合いに、応じレギュラータイプ、ハードタイプ、スーパータイプの3タイプがある。

防水層を構成するベースコートの上に、保護層として、グリットコート、トップコートを施しているが、各層共1液変成ポリウレタンからなる。

強い接着力を得るため、コンクリート面を専用の研磨機で研磨し、プライマー塗布後ベースコートを塗る。レギュラータイプはこの上に保護層として、トップコートを塗布するが、同時に滑り止めとしてシリコーンカーバイト粒が散布される。ハードタイプ、スーパータイプは保護層として厚さを変えたグリットコートを塗布し、滑り止めにシリカサンドを散布した後、フィニッシュコートが塗布される。

■まとめ

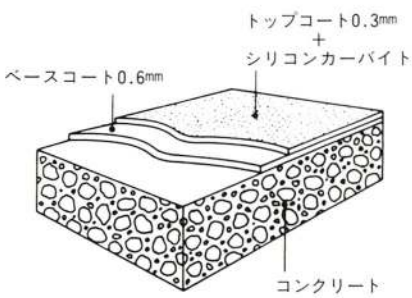
最近、ビルの屋上が多機能になり、ショッピングセンターに代表される駐車場及び歩行通路、スポーツ施設、ヘリポートなどに利用される機会がますます増加している。そのような用途には使いやすい防水材である。

万が一のトラブル、屋上の改修工事にも、塗膜防水のため、塗り重ねが可能で比較的安心して使用できる。また、複雑な屋根形状にも、追随できるなどの利点をもち、期待される防水材である。

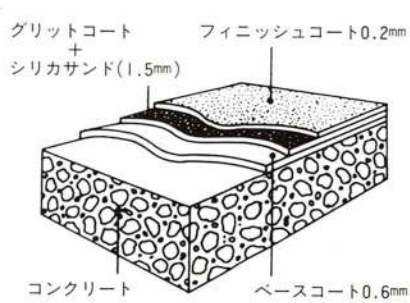
（猪野達雄／建材委員）

■デッキコーティング防水の種類

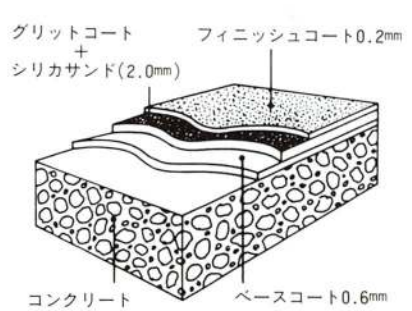
レギュラータイプ
- 一般ビルの屋上駐車場(兼防水)Ⓟ部分
- 歩行用屋上防水
- 一般住宅屋上防水
- バルコニー、ベランダ
- 室内防水(通路)



ハードタイプ
- 駐車場専用ビル通路
- 防水を必要とする通路
- 一般ビルの屋上駐車場(兼防水)
- 配送センター
- 屋内防水通路
- スタジアム



スーパータイプ
- 駐車場専用ビルの斜路、通路
- 一般ビルの屋上駐車場の斜路、通路
- 防水を必要とする通路
- 配送センター
- スタジアム



■物　性

項　目	試験方法	ベースコート	グリットコート	トップコート
基　材	―	ウレタン共重合物	ウレタン共重合物	ウレタン共重合物
比　重	ASTM D-70	1.2±0.1	―	1.2±0.1
不揮発分	ASTM D-1353 94℃のオーブンで18時間乾燥後、測定。	最低 75%	最低 63%	最低 72%
粘　度	ASTM D-1353 ブルックフィールド粘度計RVF型で測定。	セルフレベリングタイプ 700～6,000 ノンフロータイプ 8,000～50,000	セルフレベリングタイプ 900～4,000 ノンフロータイプ 4,000～6,000	900～4,000
指触乾燥時間	ASTM D-1640 25℃、50%湿度で乾燥。	最大 16時間	最大 16時間	最大 16時間
完全乾燥時間	ASTM D-1640 25℃、50%湿度で乾燥。	最大 30時間	最大 36時間	最大 25時間
引火点	ASTM D-1310 温度を小刻みに上昇させ小炎を通過させる。	7.3℃	51℃	37.7℃
カタサ	ASTM D-2240 25℃、50%湿度で一週間乾燥後、硬度計で測定。	60～80	74～80	75～95

■一般性能

試験項目	試験方法	ベースコート	グリットコート	トップコート
引張り強さ	ASTM D-414 C型ダンベルで打ちぬいたサンプルをテンシロン型引張り試験機で測定。(引張り速度 50cm/分)	59.8kg/cm	151.3kg/cm	200kg/cm
破断時の伸び率	ASTM D-414 上記引張り試験において、試験片の破断時の伸び率。	340%	390%	290%
引きはがし強さ	ASTM D-903 キャンバスに塗布したベースコートを25℃、50%湿度で一週間乾燥後、引張り試験機で測定。	8.2kg/2.5cm	―	―
引き裂き強さ	ASTM D-573 カタサ試験と同様に養生したフィルムをダンベルで打ち抜き、テンシロン型引張り試験機で測定。	40.9kg/2.5cm	68.1kg/2.5cm	136.2kg/2.5cm
耐候性	ASTM D-822 7日間乾燥後、ウエザーメーターで350時間照射。	変化なし	変化なし	変化なし
耐摩耗性	ASTM D-501 10×10cmのアルミパネルに膜厚0.75㎜のデッキコーティングを塗布し、摩耗試験機で1000回転。	重量変化なし	重量変化なし	重量変化なし
耐熱老化性	ASTM D-573 引張り強さ、破断伸び率と同様の試験片を71℃で28日間老化後、テンシロン型引張り試験機で測定。	引張り強さ 59.8kg/cm 破断時の伸び 340%	引張り強さ 145.2kg/cm 破断時の伸び 360%	引張り強さ 131.4kg/cm 破断時の伸び 365%
耐塩性	ASTM D-117 上記と同様の試験片を37.8℃で5%の塩水に浸し、28日後測定。	引張り強さ 59.8kg/cm 破断時の伸び 340%	―	引張り強さ 136.2kg/cm 破断時の伸び 290%
耐モーターオイル性	上記と同様の試験片をモーターオイルに24℃で、21ヶ月浸漬し、膨潤状態を観察。	変化なし	変化なし	変化なし
耐ガソリン性	上記と同様	ほんのわずか膨潤	変化なし	変化なし

＊詳しい技術資料は別途ご相談ください。

建築の眼



前川道郎
九州大学教授

森岡進
大阪市建設局咲くやこの花館
展示課長代理

徳岡昌克
徳岡昌克建築設計事務所代表取締役

楠正世
戸田建設大阪支店設計室長

建てられた形と建築

前号で私は、「建築」と「建物」は同一の建造物を捉える視点の差異にすぎないといった。その際、建物とは単体としての建造物だけを指すといっているのではない。本当は「建物」とよぶのは不適切であろう。私がその著作を愛読しているノルベルグ＝シュルツのいう「建てられた形」のことである。何らかの建造物によって構成される「場所」（ロクス、トポス）といえばよかろう。いいかえれば、人間のために人間によって構築された空間である。

かって私は、建築とは「人間によって生きられる空間を構造化することである」と定義した。（この定義の理論的不確かさには今は立ち入らない。）村落も都市も、そこに人間の精神活動を認めるとき、それは建築とよびうるだろう。個々の建物にしろ生活環境施設にしろ、それらは人間の外にある単なるものとしてではなく、実存的人間の精神的営為の場所として、そしてその所産として、つねに建築を求めて設計され建てられなければならない。大学において建築学科という名称がすこしづつ消えゆくとき、この視点が稀薄にならないことを、建築の意味の確認が忘却されないことを、心から願っている。

（M．M）

咲くやこの花館(III)

春３月。花の季節の到来である。花の万博もいよいよオープンである。咲くやこの花館では、２月下旬に、南米アマゾン原産オオオニバスが大きな葉を広げ、白い花を夜中に咲かせた。また、高山植物室（冷室）では、ヒマラヤの青いケシ、メコノプシスが鮮やかなブルーの花を咲かせた。咲くやこの花館は、一つの建物内に冷室と温室を併せもつ大温室である。当館では、冷・温室の温度条件を確保するため、別に設備棟を設け、館近くの市のゴミ焼却工場の焼却熱を利用した電気エネルギーを動力源として、また、近くの下水処理場の処理水を熱源として採熱し、ヒートポンプにより、温水（80℃）と冷水（４℃）を製造する方式を採用し、省エネルギーにも配慮している。大温室内では、これらにより得られた冷・温水を地中に埋設したパイプに通水し、地中加温、及び地中冷却を行うと共に、ベースボードヒーターによる暖房、空調機とミスト発生装置による冷房などを行い、栽培展示している植物にとっての最適生育温度をつくっている。館内には、他にイベントなどができ、休憩場所ともなるフラワーホール、植物模型や映像ギャラリーなどを展示する展示室などを設けているが、これらの室の冷暖房にも、活用させている。花の万博では、世界の植物が展示される。当館でも大温室内で世界の様々な環境条件のもとで、世界の植物を約2600種、15000株を展示する予定である。

（S．M）

私が建築創りに考えること　(3)個人について――能力と良い人柄

苗木を育てるのに必要な一番の目標は、将来の成長にそなえた樹形づくりであろう。一般的には３本ほどの主流枝をバランスよく配し、それぞれに亜主流の枝が育つように配慮する。一本の枝のみが大きく育ちすぎ樹形がくずれると将来に風でバランスを失い樹が倒れてしまったり、又寒い時期に剪定をすると凍害にかかったり、切りこみが深すぎると樹の勢いが落ち病虫害におかされたりして樹を枯らしてしまうことにもなる。樹形が出来上ると後はその形を保ちながら、大きく、たくましく樹を育てることを目標にして収穫をあせらないことだ。貧弱な樹からは良い果実が得られる筈もない。昔は果樹を痛みつけて作ったこともあるようだ、このため、わざと瓦礫の上に樹を植えて根元を踏みかためて育てる、こうすると樹が早く老化して甘い実が早く穫れるといわれた。どのような職業でも、すぐれた能力と良い人柄の仲間を育てる必要がある。苗木を立派に育てるには適切な肥料が欠かせないことはいうまでもない、でないと知識はついても、いやしい人柄に育つ恐れがある。さて、自然が相手の仕事は怖い。花の咲く時期の遅い霜や収穫期の嵐等。「この秋は雨か嵐か知らねども、今日の勤めの田草取るなり」、この２月に91歳で逝った父が口づさんでいたのが想い出される。白梅の凛凛しさにその遺志を継ごうと思う。

（M．T）

資源保護と建築

２月10日ＴＶで女優八千草薫さんが戦中戦後の体験から、出された食べ物を残すことが出来ないし、ご飯があればそれだけでも十分と話されていた。又、別の番組で津川雅彦氏がヨーロッパでは50年単位で修理用部品が用意されているが日本は数年単位であるとも話されていた。リッチな御二人の使い捨てを批判するこの話を意外に感じると共におおいに共鳴した。

建築でも田舎の古い民家は何代にもわたり受継がれており不必要にも思える太い軸組材は数百年の使用に耐えるばかりでなく、移築され両三度のつとめを果している例も少なくない。これら余分とも思えるメンバーは、かえって資源を保護する結果となっていたようだ。大き目のメンバーとざっくりした空間は、計算された最近の住空間にくらべ、さしたる仕掛けはなくともリッチな印象を与えてくれる。私の住む新興住宅地は20年の間に増改築は勿論撤去新築が随所にみられる。内需振興とこれらのあり方はわが業界に追い風をもたらしているが、地球保護の立場からは、永い耐用年数と再利用出来る資材の使い方を創出すべきと考える。

（M．K）

特集　東海の都市景観

作　品	アサヒビール株式会社名古屋工場
	水明館臨川閣
	法隆寺金堂壁画模写展示館
	邦和セミナープラザ
	ライオンズリゾート浜名湖ホテル白砂亭
	中央アルプス高原マンションユニテック木曾駒
	中工ビル
	美和ビル
	グルメビル「エアリ」
	パルネス前後(豊明前後駅前市街地再開発事業)
	東海記念病院
	嶽之下宮御社殿
	平井精密大垣工場光棟
	花の木カントリークラブ クラブハウス
	浜名湖カントリークラブ クラブハウス
座談会	東海の都市景観
	北原理雄・山口守彦・桜井大吾・中島　一
論　文	都市景観の現状とこれから
	古橋国夫(愛知県)・山口守彦(名古屋市)
	久米貞夫・杉山延治(岡崎市)・安藤　勇(豊田市)
建築地場産業ルポ	19．七宝焼　ー七宝町ー
	20．植木・苗木　ー稲沢市ー
	21．刃物　ー関ー
	22．三河材　ー東加茂郡・足助ー

本誌特集企画　日本建築協会東海支部特別編集委員会



アサヒビール株式会社名古屋工場

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　大林組名古屋支店

所 在 地　名古屋市守山区西川原町318番地
敷地面積　151,922.73㎡

	事務所棟	濾過・厚生棟	新製品棟
建築面積	815.02㎡	1,641.83㎡	4,042.24㎡
延床面積	1,498.86㎡	5,482.34㎡	8,881.48㎡
構造規模	RC、3F	S、5F	SRC、4F

工　　期　1987年11月～1989年11月
最 寄 駅　JR中央線新守山駅

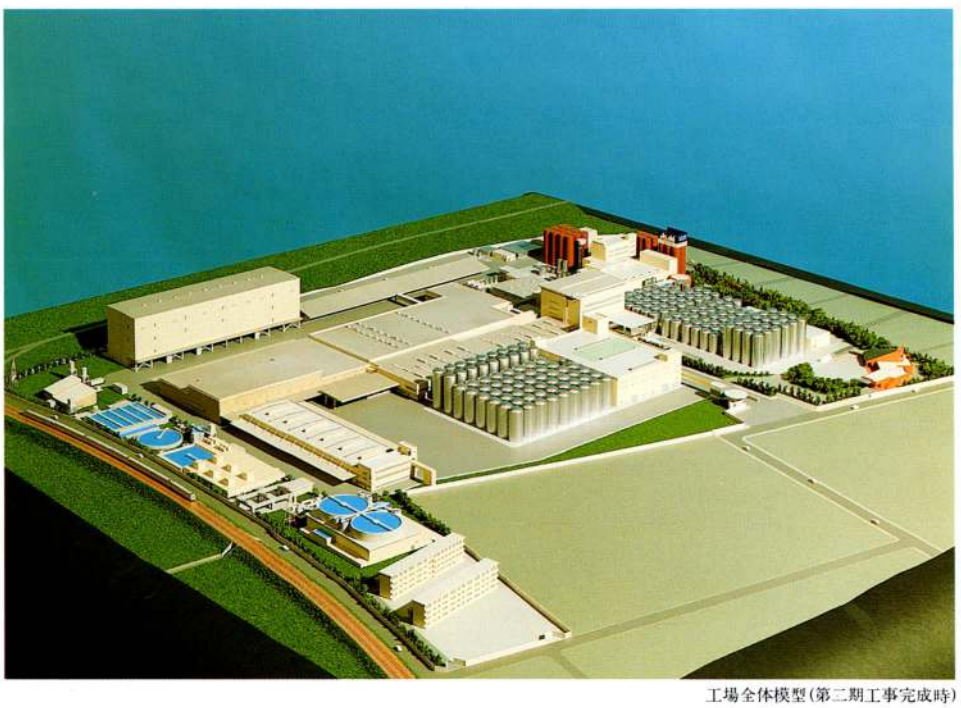
撮　　影　SS名古屋



濾過・厚生棟及事務所棟全景



新製品棟東面外観



工場全体模型(第二期工事完成時)

ビールの流れを変えたといわれるスーパードライでお馴染みのアサヒビール株式会社名古屋工場の二期目の増設である。場所は、名古屋市の北部庄内川沿いにあり、ＪＲ東海中央本線にも隣接している。一期・二期をあわせると、名古屋工場創設時の約６倍の生産能力となる。

仕込・醗酵・貯酒・濾過・装製・出荷という生産ラインを、基準の緑地と空地を確保しつつ配置し、生産を止めないで増設工事をしなければならないという事で、大変難しい計画・工事となった。

今回完成した３棟の内、事務所棟は、名古屋工場の顔とも言うべき接客部門と事務部門が入っている。濾過・厚生棟は、１階に生産ラインの濾過室が、２階から５階に厚生部門の食堂・ラウンジ・更衣室・体育館等が設けられ、職員がコミュニケーションを計り、心身ともにリフレッシュする為の施設として、大いに利用されている。新製品棟は、ビールの装製部門(缶・瓶詰ライン)とその周辺施設が入っている。工場内の建物は、機能上様々な材料と形態で構成されており、これに統一感を持たせる為に、ビール瓶の王冠をデフォルメして建物の頭頂部を始め内外デザインの統一モチーフとした。

食品工場という事で、使用材料・ディテール・建築計画において衛生上充分な配慮をするとともに、外観についても、明るいグレーと会社のカラーであるブルーを基調とし、清潔感を強調した。見学者のコースも一新され、音と映像によるビールの製造ラインの説明も、楽しく解かり易いと、来場者の方にも好評である。

(高木淳一郎・小田義彦／伊藤建築設計事務所)



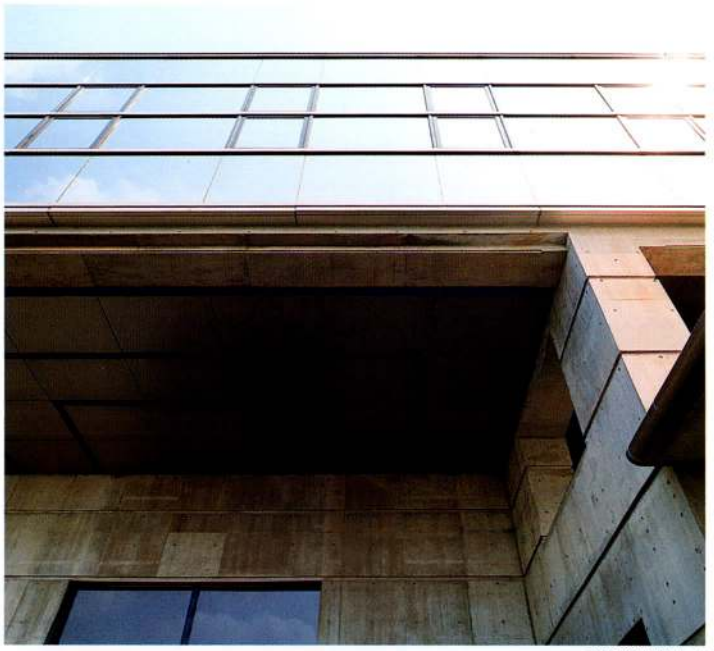
事務所棟外観



事務所棟2F休憩ロビー(見学者通路)



新製品棟・濾過厚生棟・事務所棟全景



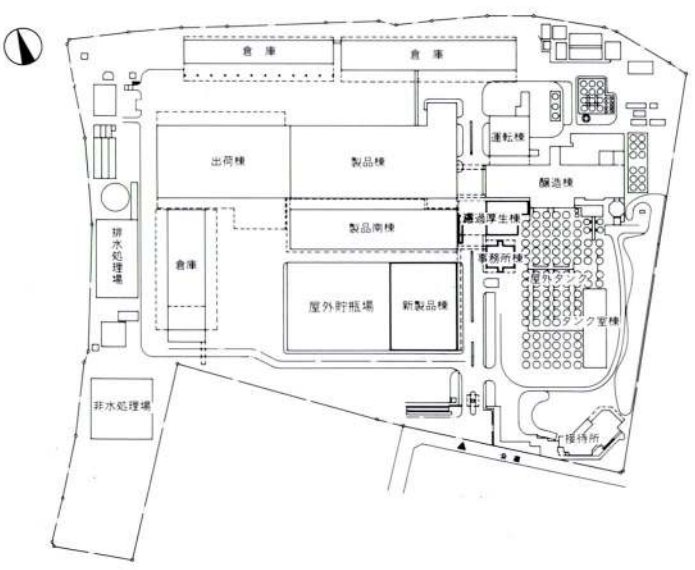
事務所棟見上げ



事務所棟エントランス



濾過・厚生棟5F体育館



配置図　1：18,000



見学者通路(泡のトンネル)





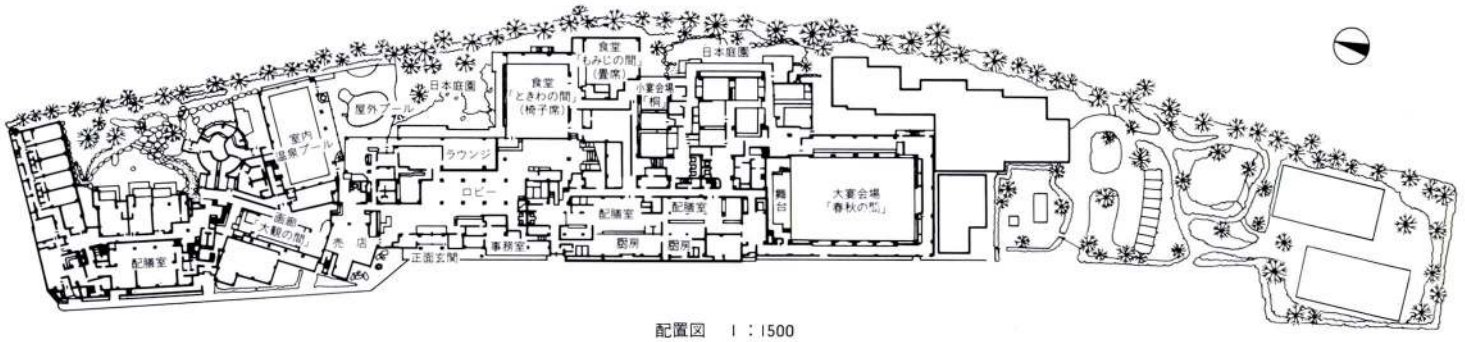
水明館臨川閣

設計施工　竹中工務店

所 在 地　岐阜県益田郡下呂町幸田1268番地
敷地面積　19,889.88㎡
建築面積　5,876.06㎡
延床面積　22,665.27㎡
構造規模　SRC、RC、S、12F
工　　期　1987年6月－1989年3月
最 寄 駅　JR高山本線 下呂駅

撮　　影　フォトハウス田中

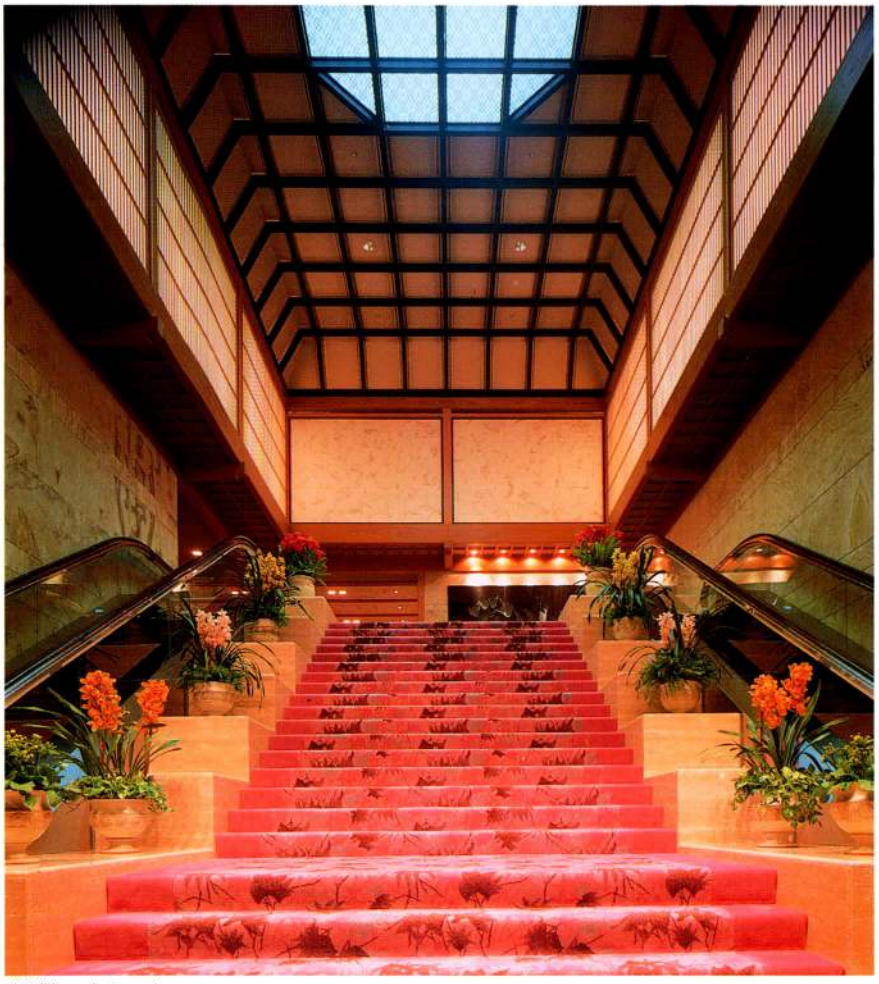
大浴場「山乃湯」



配置図　1：1500



メインロビーラウンジ



臨川閣エントランスホール

当館は天下の三名泉で名高いいで湯の里、下呂温泉を代表する旅館として、昭和７年に開業されました。事業の拡大とともに、大々的な施設の充実をはかられることとなり、今回の臨川閣は〝豊かな時代〟背景にもとづく、より高級なリゾートライフを満足させる施設として実現しました。個性化が強く望まれるリゾート施設として〝地域色豊かな木造りの郷の創造〟をメインテーマとし、建築主自らが５～６年かけて集められた、ひのき・けやき・まき・すぎ・とち・くり・いちいなどの地元産材、恵那さび石、美濃和紙、美濃焼などの県内産素材を充分に活かし、ひなびた味わいの中に格調高い飛騨の匠の心意気を創ることを主眼としました。

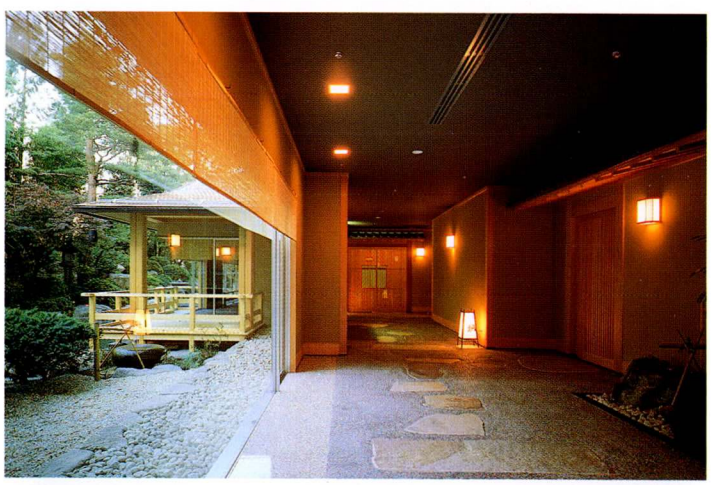
外観はゆるやかな入母屋屋根銅板葺とし、全客室には周辺が展望できるバルコニーを設け、彫りの深い伝統的な和風の趣きを表現しました。

平面計画は１階に全施設の中心となるシンボルコーナーを持つけやき造りのロビーラウンジ、レトロ調の室内温泉プール、プールサイドが広がった屋外ガーデンを中心に日本庭園を配しました。また、宴会施設は本格的木造りの500畳、すべて趣きを異にした中小宴会場11室を設けました。２階には県下最大の収容力を誇るけやき造りのコンベンションホールや、クラブ・カラオケバー・ディスコバーの二次会用施設の充実をはかりました。３階には柱・壁・天井すべてひのき造りの温泉大浴場を設けました。また、客室74室は最低85㎡の広さがあり、地元産ですべての造作をまとめ、浴室は高野槙を用い木の香が漂う木風呂としました。

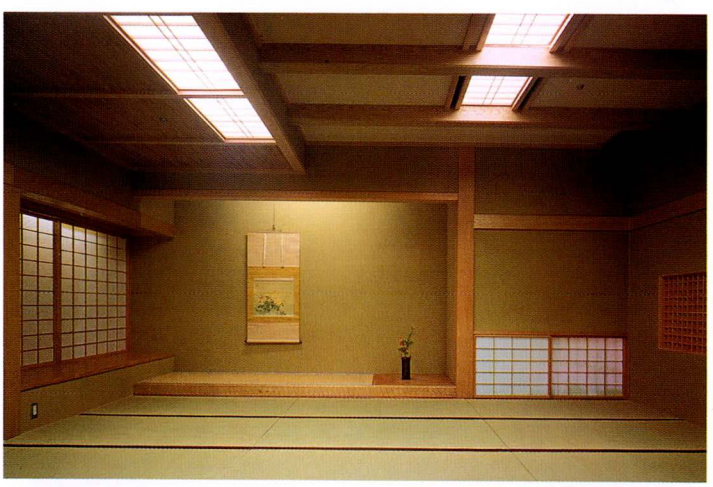
（坂　文雄／竹中工務店）



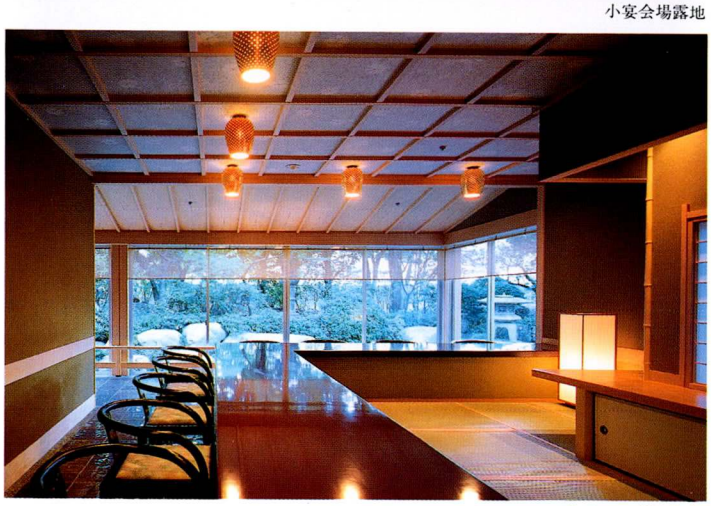
コンベンションホール



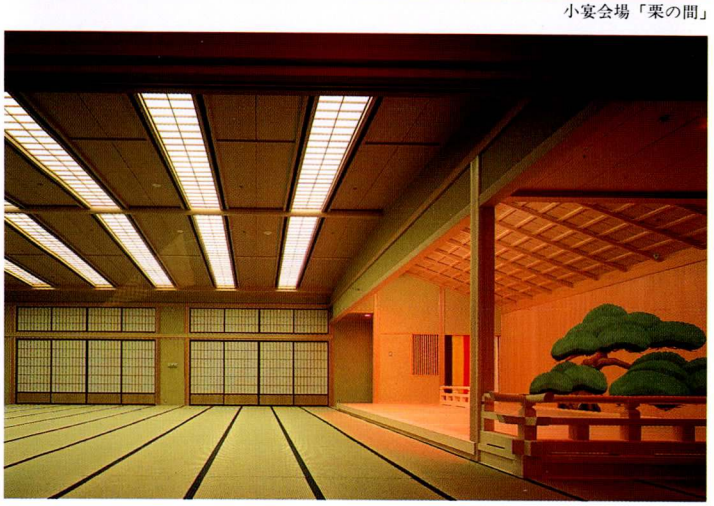
小宴会場露地



小宴会場「栗の間」



和風バー「観月亭」



中宴会場「松風の間」



法隆寺金堂壁画模写展示館

設計施工　竹中工務店

所 在 地　愛知県愛知郡長久手町大字岩作字三ヶ峰1－114
敷地面積　400,392.19㎡
建築面積　1,332.48㎡
延床面積　1,296.60㎡
構造規模　RC、平屋建
工　　期　1988年9月～1989年4月
最 寄 駅　地下鉄東山線 藤ヶ丘

撮　　影　車田写真事務所



エントランス



中庭



展示室

この展示館は、名古屋の東方に広がる丘陵の豊かな自然に恵まれた、愛知県立芸術大学のキャンパスの中にあります。大学の日本画教室が、長年手掛けて来た法隆寺金堂壁画模写事業の完成を機会に、壁画を常設展示し、広く一般に開放すると共に、古典美術品を収集、研究、保存修理を行ない、併せて、失なわれつつある技術を伝承し高めることを目的としています。

建築に当っては、その主旨に賛同した中部経済連合会が中心となり、広く一般から募金し、愛知県に寄贈されました。

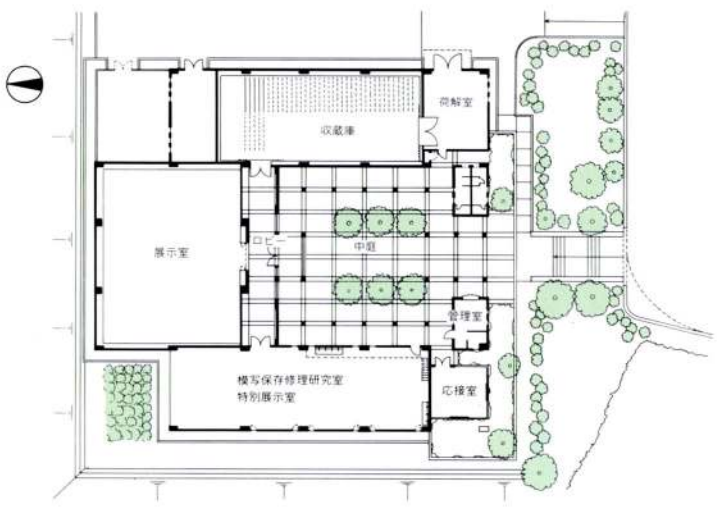
計画敷地は、既成のキャンパスの中にあり、また緑豊かな丘陵地です。その景観をこわすことなく、キャンパスの中に新しい息吹を吹込むことを、配置に当って狙いました。すなわち、〝キャンパスの持つ南北の軸線に沿うこと〟〝平屋建とし、樹冠以下の高さに抑えること〟とし、「法隆寺」のイメージを近代的なキャンパスの中に挿入するために、古典的空間が持つ対称性や廻廊構成を現代の手法で組立てることを目指しました。

建物の構成は、展示、研究、収蔵の用途をそれぞれのヴォリュームとし中庭を囲む形で配置し、それに廻廊・塀を加えて、一つの宇宙を形成し、アプローチから展示室へ到る視線の変化による気分の高まりを生み出すようにしました。

外装は光と陰の効果を意図し、庇、廻廊を深くし、土塗壁の雰囲気を出すと共に学校建築であるため、メンテナンスのいらない小形のタイルを使用し、意図を達成しました。

建物の内部は、ロビー、展示室、模写保存修理研究室、応接室、管理室、収蔵庫で構成されています。展示室は法隆寺金堂の壁画模写を12面常設展示しており、濃色のナラフローリングや間接照明により落着いた雰囲気で鑑賞出来るようにしました。

（宮武　仁／竹中工務店）



配置図　1：800



ロビー



邦和セミナープラザ

設計施工　竹中工務店

所 在 地　名古屋市港区港栄1-8-23
敷地面積　18,996㎡
建築面積　 1,544㎡
延床面積　 7,333㎡
構造規模　RC、B1、5F、P1
工　　期　1988年9月～1989年10月
最 寄 駅　地下鉄名城線 港区役所

撮　　影　車田写真事務所



1階平面図　1：800

名古屋市港区にある、邦和スポーツランドの4期工事として、「邦和セミナープラザ」が、オープンした。

当計画については、社会の多様化を反映し、既存スポーツ施設の機能拡大や、複合化等が要求された。

地下1階には多目的室と浴室が、1階はセミナープラザのフロント及びロビー、食堂、2階は研修室、3・4階は宿泊室、5階には談話室を設け幅広い社内研修や、経営セミナー等を支援出来る総合施設である。

外観は、中庭（ライトコート）のある、越屋根（ステンドグラス入）を設けた切妻屋根とし、落着いた表現とした。

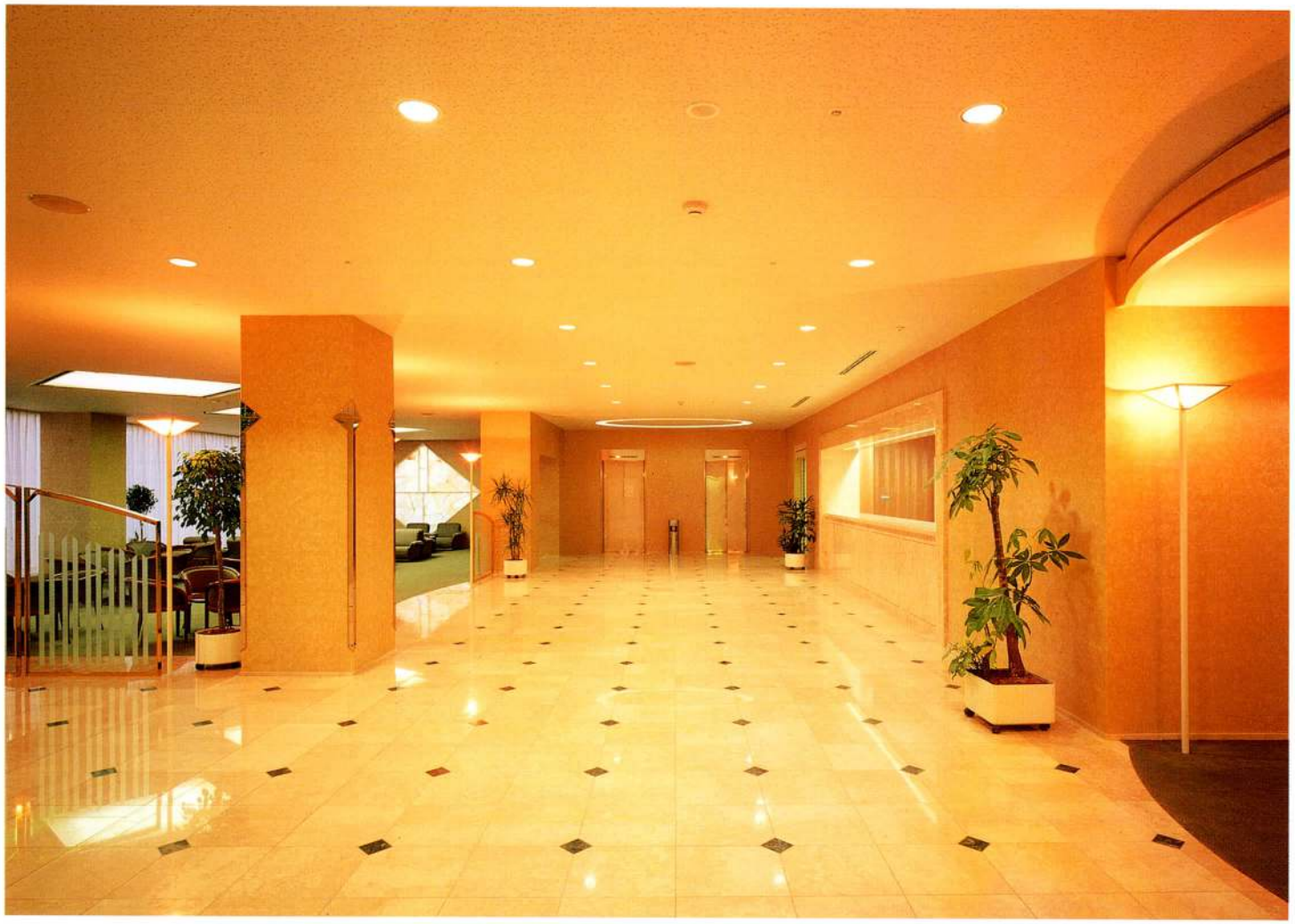
内部は、柔らかな色調とライトコートからの自然光でアットホームな、安らぎを感じられる快適な空間とした。

地下1階多目的室、浴室、1階ロビー、食堂など休養のための施設は、リラックス出来る雰囲気の中で、くつろぎとコミュニケーションが図れる開放的な空間を意図した。

2階ロビーは、自然光（ライトコート）を取り入れ、研修の一時の安らぎを与える楽しい空間で構成した。

3・4階宿泊室は、研修後の安らぎを考慮し、暖かみのあるシンプルなデザインとし、家具、什器、ベッドスプレッド等を同一モチーフにした。

（棚瀬嘉二／竹中工務店）



1Fエントランス



食　堂



5F談話室



宿泊室



2Fロビー

ライオンズリゾート浜名湖 ホテル白砂亭

設計施工　鹿島建設名古屋支店



南側外観

"弁天島に新しい風を！"――ホテル経営者と我々との合言葉であった。アール・デコをモチーフとしたデザイン展開が、"新しい風"を起した。最近のリゾートブームで、浜名湖周辺は脚光を浴びている。本建物は、革新を望む白砂亭と、リゾート開発に積極的な㈱大京との、共同作業として実現した。客室は分譲であるが、オーナーの使用しない時は、リースも併用され、即日完売に近い状況は、新時代のリゾートスタイルを予感させるものであった。

設計にあたって、厳しいコスト制約はあったが、数々の新しい試みが、施主或いは利用者から好評を得た。まず曲線を多様した。バルコニーの小さな曲線の連続は快いリズムを与え、内部のギャラリーや天井の大きな曲線は、ゆったりとした雰囲気を演出している。色使いも印象に残ることを旨とした。外観は、淡いピンク色にコーラルレッドのストライプを施した。内部、特に宴会部門は、朱・黒のコントラストが特徴である。更にグラフィック的処理として、アール・デコに出現する幾何学形態を、内外部にかなり意識的に用いている。照明も、何点もの特注品を制作した。

今回の手法は、今後も発展させ役立てることができると考えている。

（木野秀明、久野喜義／鹿島建設）

所在地　静岡県浜名郡舞阪町弁天島3285-88
敷地面積　2,585.24㎡
建築面積　1,699.85㎡
延床面積　10,339.55㎡
構造規模　SRC、13F
工　期　昭和63年5月～平成元年9月
最寄駅　JR東海道本線弁天島駅

撮　影　SOAR STUDIO



見上げ



プール



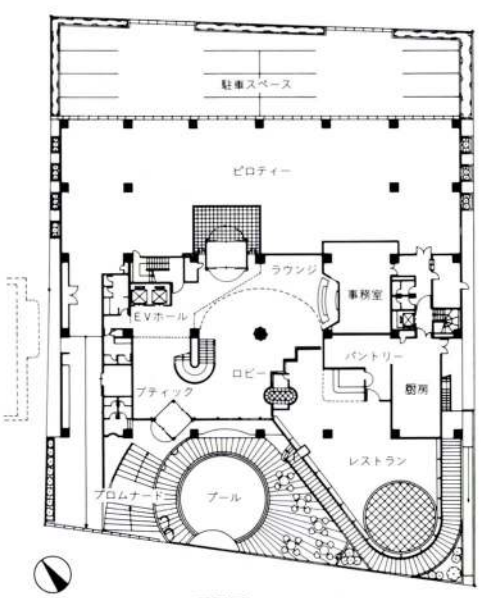
ロビー



小宴会場



客室(最上階)



平面図 1：800



レストラン



エントランス

中央アルプス高原マンションユニテック木曽駒

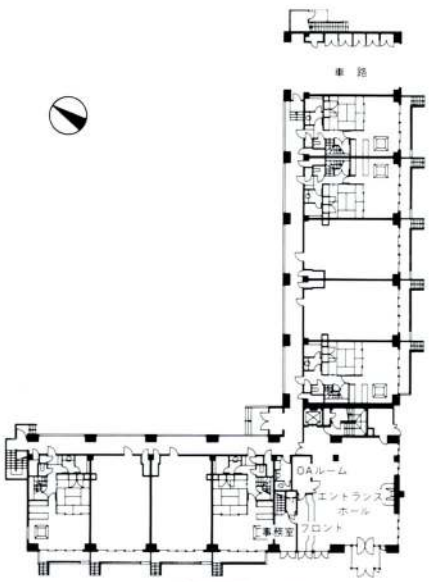
設計監理　アステック建築設計研究所
施　　工　大林組名古屋支店

所 在 地　長野県木曽郡日義村4914番地
敷地面積　3,766.78㎡
建築面積　1,205.10㎡
延床面積　9,239.82㎡
構造規模　SRC１F～5F、RC6F～10F
工　　期　昭和62年9月～平成元年6月
最 寄 駅　JR中央線木曽福島駅 おんたけ交通バス神明

撮　　影　SS名古屋

当建物は、中央アルプスの主峰・木曽駒ヶ岳の山麓に広がる木曽駒高原に位置し、西を仰げば霊峰、御岳山が屹立して見えます。
外観は、欧州のアルプス山脈の麓、ドイツ・バイエルン地方の民家をモティーフとし、当地方独自のハーフ・ティンバー(半木軸組)の様式に見られる、束・梁形式の骨組・切妻屋根・妻壁・軒出・片持梁・バルコニー・窓と各々の自律性の強い、木の部分を、コンクリート、鉄、アルミといった近代建築を構成する材料に置き換えてデザインしました。
また、平面的には、当地方の代表的な広間型式家屋に見られる中央に広い「身廊」を、ロビーに見たて、それが延びる両側に小寝室に相当する住居を配し、レンガを貼りつめた、開放的な暖炉を有するインテリアとなっています。住居は、1・2階及び最上階をメゾネット形式とし、1階は、妻籠、奈良井等、日本の代表的な宿場町の民家のスタイルを取り入れた民芸風なインテリアとし、9階は、アルプスの山小屋風スタイルで吹抜の居間と空間的に一体化した個室からも、トップサイドライトを通して、木曽の山々が一望に見渡せる様になっています。
近い将来、四季おりおりの多様な表情を見せる大自然をフィールドに、スポーツ・レジャー等に興じ、日頃のストレスを汗と一緒に流してしまえるような、文字通り、身心のリフレッシュゾーンとなることを期待しています。

（松村幸司／アステック建築設計研究所）



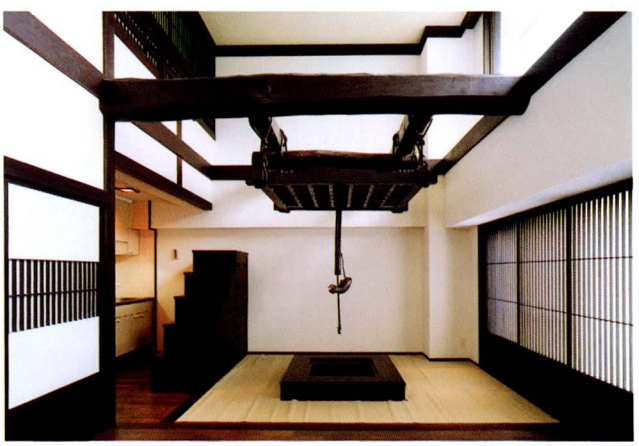
1階平面図 1：800



エントランスホール



遠望



リビングルーム



個室

中工ビル

設計監理　永楽開発設計・伊藤建築設計事務所
施　　工　建築・衛生工事　鹿島・戸田・永楽建設共同企業体
　　電　気　工　事　中電工事
　　空　調　工　事　中電工事
　　昇降機工事　三菱電機

所 在 地　名古屋市瑞穂区洲雲町4-45
敷地面積　1,685.20㎡
建築面積　1,012.06㎡
延床面積　8,339.82㎡
構造規模　SRC、B1、7F
工　　期　昭和62年10月～平成元年3月
最 寄 駅　市バス市大病院前

撮　　影　SS名古屋



外観南西面



公開空地



玄関ホール



役員会議室

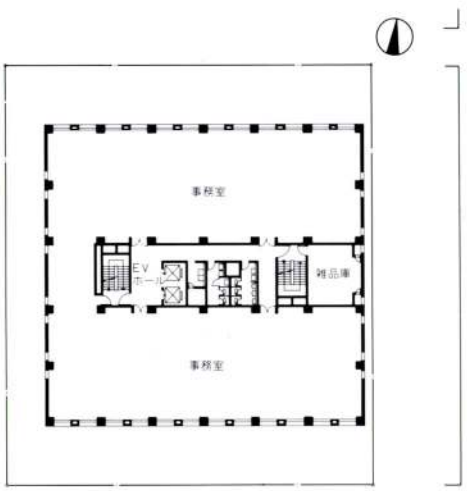
中工ビルは中電工事株式会社の本社社屋として建設された。

敷地は、名古屋市の中心部の南東で、地下鉄６号線の建設が進む、名古屋市桜山の幹線道路から一街区奥に入った、古くからの住宅と店舗が密集した地区にある。この地区は用途地域が商業地域に指定されていて、幹線道路沿いから漸次、商業施設への建替が進んでおり、商業業務地区として発展していくものと思われる。

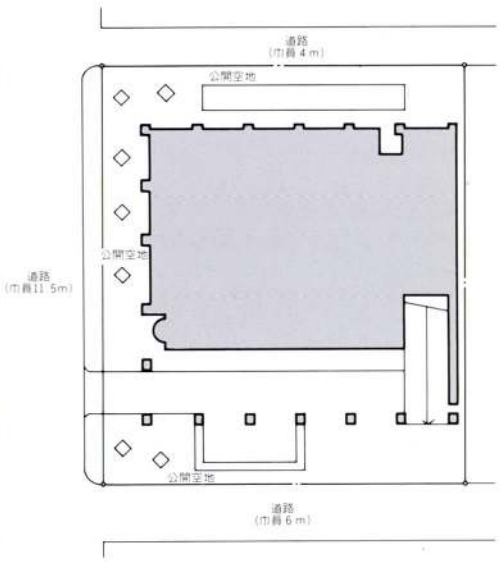
建設に際しては、敷地の三方が道路に面し、また、その規模が約 1,700㎡あることから、総合設計制度を採用し、前面道路からの高さ制限の緩和を受けた。これにより許容最大限の床面積を単純で効率の良い平面形として確保すると共に、建物全体の形も整ったものとすることができた。建物は西側の道路から約４ｍ、南北の道路からそれぞれ約６ｍ後退させ、建物と道路の間を公開空地とした。日溜まりの広場として、あるいは歩道として地域住民の日常生活の中で充分活用されている。

建物は、センターコアとして、基準階ではコアの南北にそれぞれ奥行12ｍ、約 400㎡の使い易い矩形の事務室を設けて、空調システムの工夫により約83%という高い有効事務室面積率を確保した。また、外部に面する建具をブラインド内蔵の二重窓としたり、事務室の床をカーペット張としたり、さらに屋上庭園を設けるなど快適なオフィスづくりをすると共に、高度情報化社会に対応できるインテリジェントビルとしての各種の装備も盛り込んだ。公開空地を設けたことにより、低層の建物の建ち並ぶ地区で、この大きな建物は威圧感を感じさせることなく町並みに溶け込んでいる。この計画手法は、古い町から新しい町へ脱皮しつつある地区で、良好な環境を確保しつつ、大規模な施設を建設する際に相応しい手法であると思われる。

（森口雅文、鈴木慶智／伊藤建築設計事務所）



6階平面図 1：800



配置図 1：800

美和ビル

設計監理　伊藤建築設計事務所
施　　工　大栄住宅



南面外観



事務所玄関

独自のディスクシリンダーを開発し、本締付モノロックから電気錠によるビル総合鍵管理システムまでを扱う鍵のトップメーカー、美和ロック株式会社が、住宅・都市整備公団の民賃制度を利用して、自社名古屋支店と高級賃貸マンションを建設したものである。

当地は、建築総合展等様々な催物が開かれる中小企業振興会館（通称吹上ホール）と、若宮大通りを挟んで北向かいにあたり、建築関係者にとって非常に馴染みの深い所であり、建材メーカーとしては願ってもない場所である。

5階から10階までは、全戸ゆったりとした1DKが各階2戸計12戸入り、電気錠やセキュリティーホームテレホンを駆使したインテリジェントマンションとして計画した。名古屋支店は、地下を駐車場、1階を倉庫、2階を事務室、3階を鍵のショールームと接客スペースとして使っている。

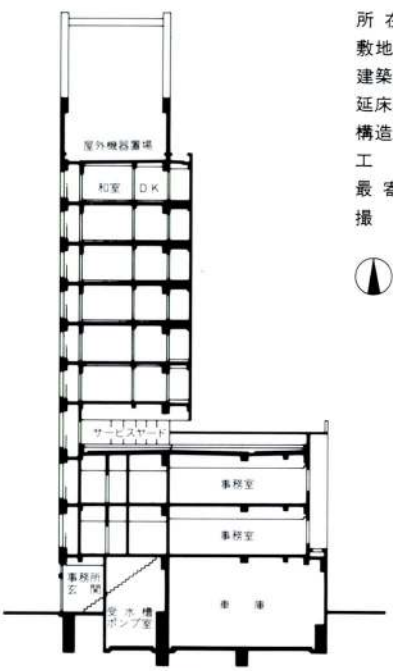
計画上では、1階の限られた間口に、事務所玄関とマンションの玄関とトラックの荷捌をいかに機能的に並べるかがポイントであった。4階には屋根付屋上広場を設け、住居の配管をまとめるとともに、住居部と事務室部との緩衝地帯の役割を持たせた。

5階以上の高層部は出来るだけ南へ寄せ、近隣への日照阻害を極力押さえる配置とした。塔屋の直角三角形二つ合わせの形は、隣地斜線をクリアーしつつ塔状の形態を強調するデザインであり、遠くからもよく目立ち、附近のランドマークとなっている。

外装は、明るいグレーを基調としてまとめ、若宮大通り公園の緑に映え、変わりつつある周囲の町並にインパクトを与えている。

（高木淳一郎・小田義彦／伊藤建築設計事務所）

所在地　名古屋市千種区千種3－3708－1
敷地面積　266.42㎡
建築面積　235.17㎡
延床面積　1,304.84㎡
構造規模　SRC、B1、10F
工　　期　1987年6月－1988年8月
最寄駅　JR中央線鶴舞駅
撮　　影　アーキフォト KATO



断面図



1：1300　1階平面図


MIWA

グルメビル「エアリ」

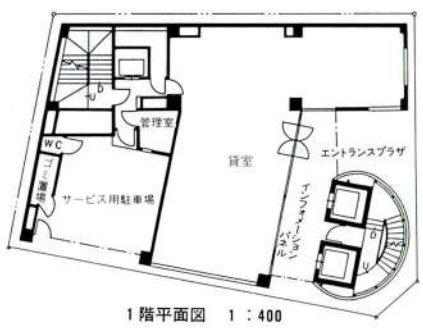
設計施工　竹中工務店



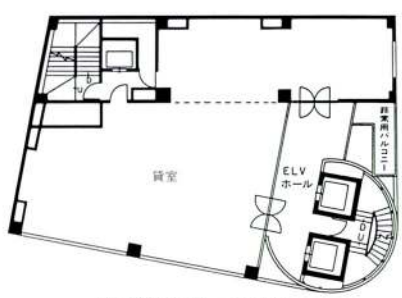


所 在 地　名古屋市中区栄４－５－８
敷地面積　304.82㎡
建築面積　263.11㎡
延床面積　2447.80㎡
構造規模　SRC、S、BI、9F、PI
工　　期　1988年５月～1989年７月
最 寄 駅　地下鉄東山線 栄駅

撮　　影　車田写真事務所



1階平面図　1：400



2～9階平面図　1：400

数年前より商業建築／商業空間が、都市空間を彩るものとして話題を提供している。今や都市の街路に対して主たる表現を与えているものは、これらの建築であり、その意味で現代文化のひとつの集約的な表現になりつつあると言っても過言ではないと思う。

当ビルは、全面グルメビルとして計画され、名古屋市の中心、栄の繁華街のメインストリートの角地に計画された。

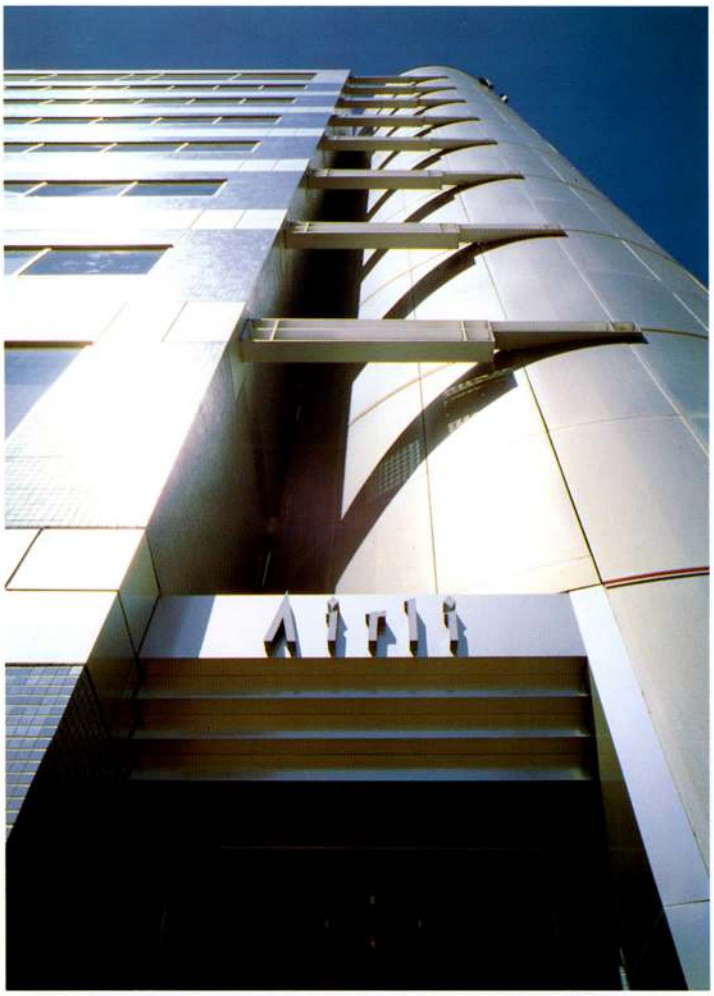
「ハイタッチな表皮のデザイン」と「光の塔のパフォーマンス」をメインテーマとし、昼と夜の顔をつくり、話題性と意外性を提供し、当街区のランドマークとなる建物を目指した。

敷地コーナーにエレベーターと屋外避難階段を取り込んだ円形シリンダー部を配し、エレベーターホールと非常用進入バルコニーを支える鉄骨フレームで建物と繋げることにより、建物との連続性をもたせ、街路角地に自然な形で建てるようにした。アルミパンチングメタルで覆われたシリンダー内に３種類の照明を配置し、全点灯をはじめ数種類の点灯パターンにより、「光の塔」のパフォーマンスを創り出している。アルミパネル・ラスタータイル・ガラス・鉄骨で構成したハイタッチな外観は新しいデザインの方向づけであり、これからの商業建築として都市の街路に対して新しい表現が出せたと思う。

光の塔のシリンダーと店舗入口の間に生じた空間は、１階においては通り抜けの路になり、１階を含め各階の空間は出合いの場として使われている。

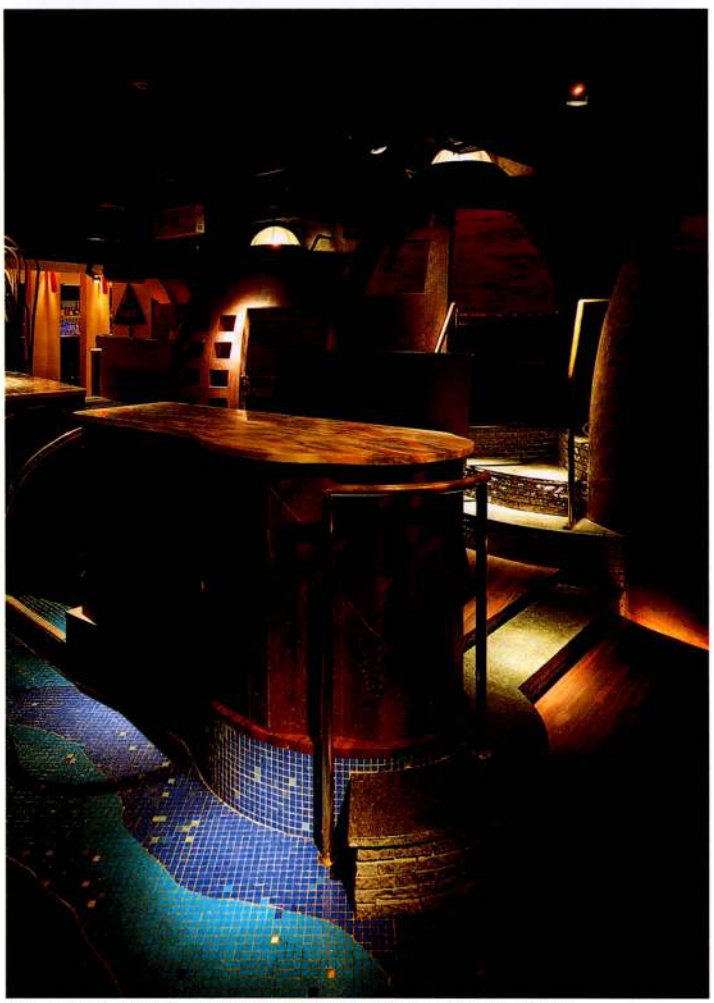
（後藤浩美／竹中工務店）







B1階 テナント「膳丸」（内装設計 伊藤建築設計研究室　撮影 アトム写真 北爪幸雄）



9階 テナント「ILUZ」（内装設計 有建築設計事務所　撮影 加斗タカオ）

パルネス前後(豊明前後駅前第一種市街地再開発事業)

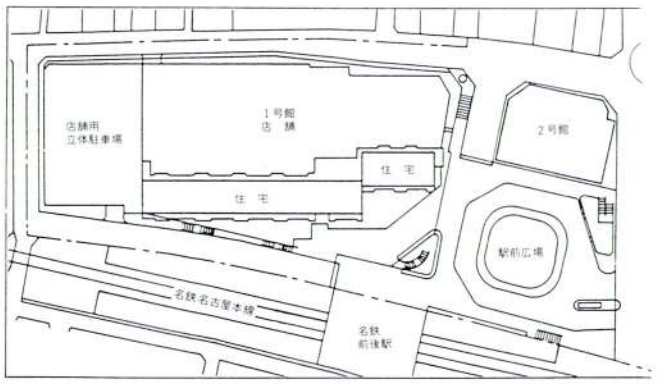
設　　計　住宅・都市整備公団　アール・アイ・エ　伊藤建築設計事務所
監　　理　住宅・都市整備公団　中部都市整備センター　伊藤建築設計事務所
施　　工　東海・矢作・近藤・丸三JV(1号館)　日本国土・郡界JV(2号館)



全景鳥瞰



1階平面図



施設配置図



前後駅とバスターミナル

所在地	愛知県豊明市前後町善江1676番地ほか	
	1号館	2号館
敷地面積	約 7,800㎡	約1,000㎡
建築面積	約 7,000㎡	約 900㎡
延床面積	約28,000㎡	約4,500㎡
構造規模	SRC、B1、8F	SRC、B1、4F
工期	昭和62年9月～平成元年11月	
最寄駅	名鉄名古屋本線前後駅	
撮影	及川知也	

愛知県豊明市は名古屋市の都心部から15km圏内に位置する、いわゆる大都市圏の近郊住宅都市として発展してきたまちである。

古くは鎌倉街道や東海道、そして現在は国道1号線という東西の文化・経済が行き交う交通の要所に位置している。

この豊明市の名鉄豊明前後駅前に平成元年10月、16年の歳月をかけた市街地再開発事業が完成、新たな街〝パルネス〟が誕生した。

この市街地再開発事業は、住宅・都市整備公団、豊明市、地元権利者の三者が一体となり、旧東海道に接した約18ヘクタールの区域を対象として施行されたもので、施設計画のうち、昭和62年12月にまず豊明前後駅の移設と駅前広場の一部がオープン。駅前広場は2層に構成され、上層部はバスターミナルと歩行者広場とし、都市計画道路と接続。また、下層部の広場は駅前1号、2号線などの道路と連結し、タクシーのりば、駐車場などを設けている。

また、性格が異なるA・Bふたつの街区を整備、商業・住宅を中心としたA街区のパルネス1号館は地下1階から2階までを商業施設、3階から8階までのフロアーを住宅――3LDK54戸を含む3タイプ90戸の賃貸住宅――として構成。

また、主に公益業務施設で構成されるB街区のパルネス2号館には、銀行・クリニック・事務所・集会所（豊明市南部公民館）・図書館などが設けられ、それぞれが名鉄前後駅と一体的に整備された、いわゆる商業・業務・住宅・コミュニティーセンターなど、複合機能をあわせもつまちづくりとなっている。

〝パルネス〟の誕生により、豊明市は愛知県下における中堅都市として今後ますますの発展が期待される。



駅前広場からパルネス(1号館)を見る

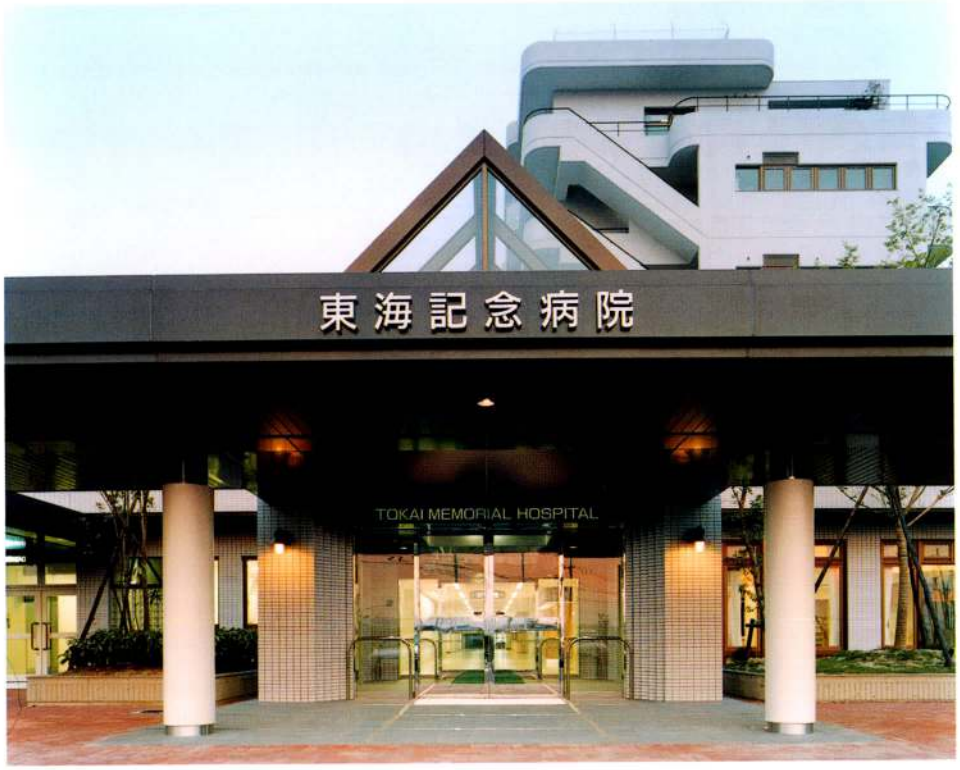


パルネス2号館


店舗

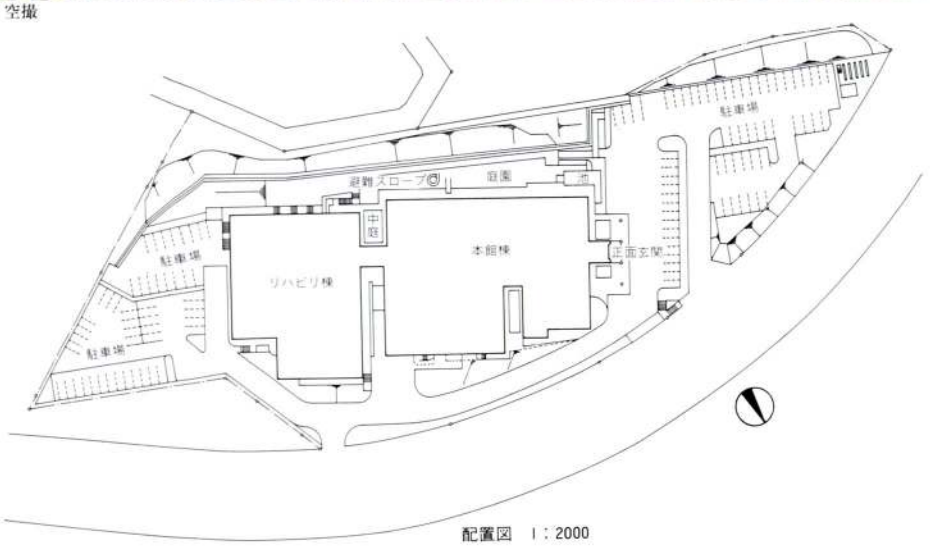
東海記念病院

設計監理　田中綜合設計
施　　工　大林組名古屋支店



エントランス


空撮



配置図　1：2000

所 在 地　愛知県春日井市廻間町字大洞681-46他
敷地面積　12,823.20㎡
建築面積　本館棟2,268.26㎡　リハビリ棟1,376.27㎡
延床面積　本館棟8,031.65㎡　リハビリ棟1,975.53㎡
構造規模　RC、B1、6F　RC、B1、1F
工　　期　昭和63年4月～平成1年6月
最 寄 駅　JR中央線高蔵寺駅

撮　　影　SS名古屋

当敷地は春日井インターチェンジより東北約4kmほどにあり、人口5万余人を有する高蔵寺ニュータウンの西玄関口に位置している。
尾張北部の丘陵地は高蔵寺ニュータウンの他、建設地西約5kmほどに計画人口4万人の桃花台団地があり、名古屋のベッドタウンとして発展中の地域である。
敷地は北側に巾27mの市道、南に6mの団地内道路に接した丘の頂にあり、緑と住宅地に囲まれた閑静な場所である。高低差が16m以上に及ぶ北下りの敷地を最大限に生かした土地利用をはかるため、各々の施設配置ならびに屋外動線の計画には特に関係者一同検討を繰り返した。
三段に造成し、最下段の第一のレベルは市道へのアクセスと駐車場及びリハビリ棟、第二のレベルはメインアプローチ及び駐車場、第三のレベルは庭園及び散策路という計画で、周辺道路並びに隣接地にすり合せ、建物と地形との馴染をもたせた。
建物は大別して本館棟、総合リハビリ棟からなり主テーマとして配置計画では、アプローチのしやすい単純明解な配置とし、さらに避難計画を重視した。B1階にはサービス部門、1階には外来診療部門、1、2階には中央診療部門と管理部門を設け、2階から5階までを病棟とした。1階の配置については玄関から本館棟、リハビリ棟を結ぶ東西の幹線をメイン廊下として一直線に通し、各部門の利用者、使用時間、設備要求、将来への成長等整理して支線計画を行なった。
オーナーの意向である、病院内での「まち造り」（ホスピタウン）の構想に基ずき、6階には展望レストランと展望浴場等を設けた。
全ての病室にはバルコニーを設け緊急時の通路を確保すると共に、ゆとりのスペースとして活用する事を考えた。建物には平面的な曲線を意識的に出し全体として従来の病院の冷たいイメージから脱皮し、ヒューマンスケールな建築をめざした。
おわりに設計監理に際しご協力、ご指導いただいた医療法人喜峰会はじめ関係各位に誌面を借りてお礼を申し上げます。

（佐藤東亜男／田中綜合設計）

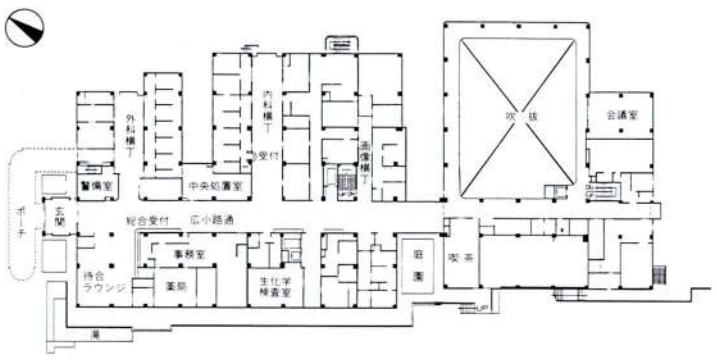
北面外観



玄関ロビー



待合ラウンジ



1階平面図　1：1200



受付

嶽之下宮御社殿

設計監理　竹中工務店
設計監修　近藤　豊
（御本殿）
施　　工　竹中・大成共同企業体

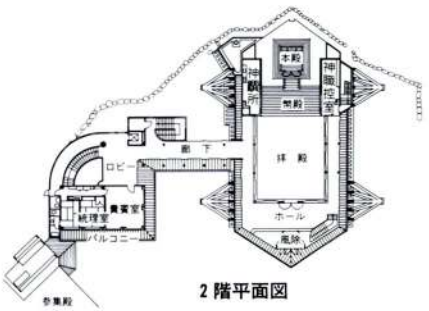
所 在 地　静岡県駿東郡小山町竹の下2291
敷地面積　2,844.60㎡
建築面積　841.50㎡
延床面積　1,497.03㎡
構造規模　S、RC、SRC、2F
工　　期　1988年5月～1989年11月
最 寄 駅　JR御殿場線 足柄駅

撮　　影　アーキフォトKATO

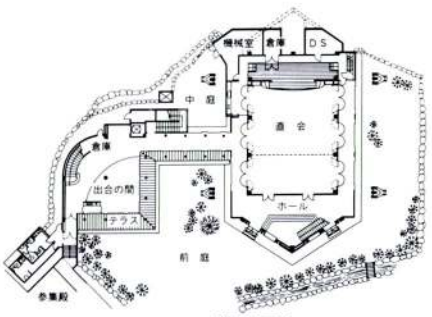

御社殿南正面

「他に類をみない独創的な御社殿」をという建築主の要望に添って「伝統と現代の融合」を基本テーマとして設計した。神社建築の範である伊勢神宮を基本とし、現代の最新の材料と工法でアレンジして、現代の新しい神社建築を形作っている。
御社殿外部は、合掌の形をとった金色に輝くチタン板一文字葺の大屋根及び正面と背面のカーテンウォールで構成し、透明なガラスを通して、崇敬者と自然、そして神が一体化する崇高な神社建築にしている。また御社殿の内部には、緑の山を背景に妻入神明造り（総檜）の御本殿が鎮座し、その屋根に調和した大天井、座札用の椅子などすべて白木で統一し、敬虔な拝礼の場に相応しいものとしている。

（三井富雄・嶋　俊己／竹中工務店）



2階平面図



1階平面図


出会いの間


▲神の御手をイメージした柱

御本殿と拝殿▶



平井精密大垣工場光棟

設計施工　鹿島建設名古屋支店



南東面外観



電気炉室

所 在 地　岐阜県大垣市横曽根4-26
敷地面積　2,046.08㎡
建築面積　1,408.77㎡
延床面積　1,406.97㎡
構造規模　RC(一部S)、1F
工　　期　昭和63年7月～平成1年2月
最 寄 駅　JR東海道本線 大垣駅

撮　　影　SOAR STUDIO

「豊かな光と空間の中で製品生産を行ないたい。」というオーナーの思想を原点にして、このドーム型工場は誕生した。

平井精密は、連続金メッキ、ガラスと金属の焼結等の最先端技術により、世界中に製品を送り出している精密電子部品メーカーである。今回の建物は光通信用半導体レーザー部門の拡大に伴なって建設された最新鋭工場で「光棟」と呼ばれる。

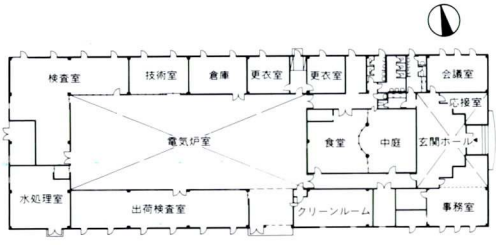
計画のコンセプトは、精密作業に従事する人々が人間性豊かで快適に過ごせる、アメニティ重視の環境をつくり上げる事であった。

外観を特徴づけている直径13mの半円形ドームは玄関ホールと、建物中央の電気炉室に位置している。頭上に広がる豊かな空間は、屋根面からの自然採光と相まって、明るく開放的な雰囲気をつくり出し、細かい作業に従事する人々の緊張感の緩和に役立っている。また、食堂は光と緑あふれるライトコートに面し、コーディネートされた仕上材、家具により、快適でリッチなリフレッシュ空間となっている。他の各室も、作業の疲労感を和らげ目に優しい色・質感の仕上を選定している。

緑色のドーム屋根は、夜間は室内の照明により明るく浮かび上がり、その名の通り「光棟」として田園風景の中のシンボリックな点景として、周囲の環境に溶け込んでいる。

竣工後、地元で反響を呼び、見学者が後を絶たないとの事で、この建物が工場建築の未来像へのひとつの提案の役割を果たし得たと感じている。

（岩井　明／鹿島建設）



1階平面図 1：1000

夜景



食堂



クリーンルーム



玄関ホール

花の木ゴルフクラブ　クラブハウス

設計施工　大成建設名古屋支店



外観北面



外観夜景

この花の木ゴルフクラブは、名古屋テレビが創立20周年記念事業の一環として、東濃地域を一望できる自然環境に恵まれた場所に建設したものである。

コースは川田太二氏の設計によるものであり、自然を生かし造成のもっとも少ない形でのコース設計に挑戦した一つと言える。

クラブハウスは、背景として美しい北アルプス連峰の山脈に調和するため連続した方形屋根の構成を採用した。又、中央に立つ塔は周辺の山脈が全望できるとともに、ゴルフクラブのシンボルとして美しい景観をつくりだす事につとめた。又、塔の最上部からは、周辺ホールをテレビ中継できるよう設計されている。

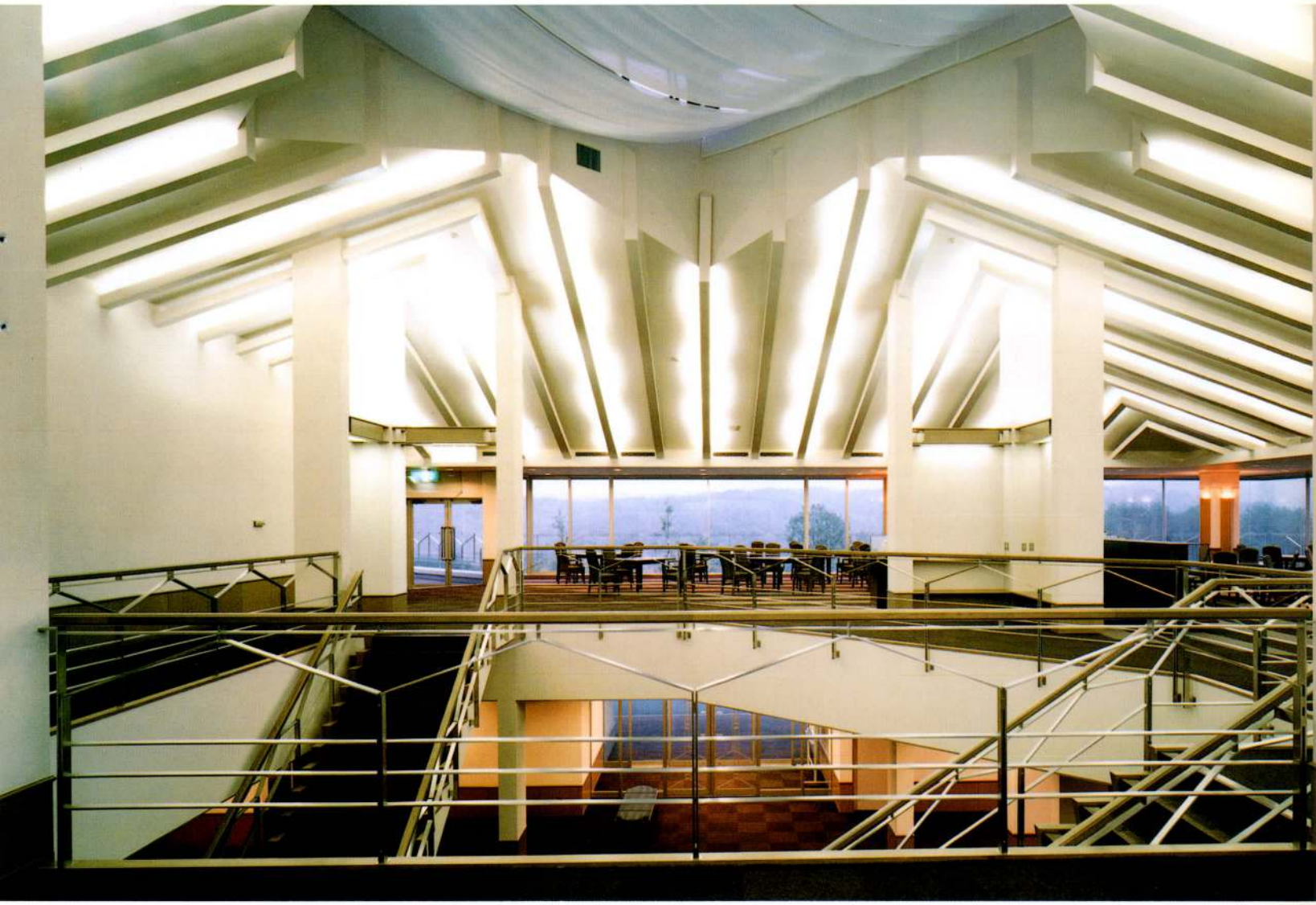
インテリアは白を基調とし、豪華さをおさえると共に、柔らかい落ち着いた空間を造り出し、カントリークラブとしてのイメージを強調している。

平面形状は、7.5 m を基本モジュールとし矩形によりプライマリーな形態を追求し、中央部にすべてトップライトを取る構成となっている。

2階レストラン部分からは18番ホールが一望でき、スポーツとしてのゴルフを満喫できる。　（大成建設名古屋支店）

所 在 地　岐阜県瑞浪市日吉町字鴨之巣8675番地 他
敷地面積　163,798.00㎡
建築面積　2,609.10㎡
延床面積　3,803.75㎡
構造規模　RC(一部S)、2F
工　　期　昭和63年9月～平成元年7月
最 寄 駅　JR中央線土岐市駅

撮　　影　センターフォト



2階ホール吹抜



2階平面図　1：1500



1階平面図　1：1500



2階西廊下



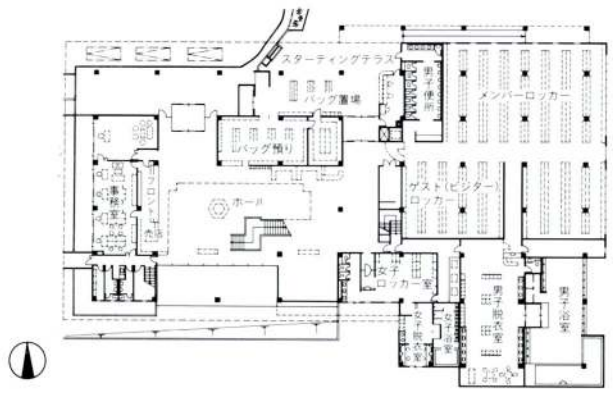
外観

浜名湖カントリークラブ　クラブハウス

設計施工　大成建設名古屋支店

所 在 地　静岡県湖西市白須賀字元町北5759－1 他
敷地面積　10,776.07㎡
建築面積　2,746.37㎡
延床面積　4,496.27㎡
構造規模　RC、S、BIF、2F
工　　期　平成元年3月～平成元年12月
最 寄 駅　JR鷲津駅

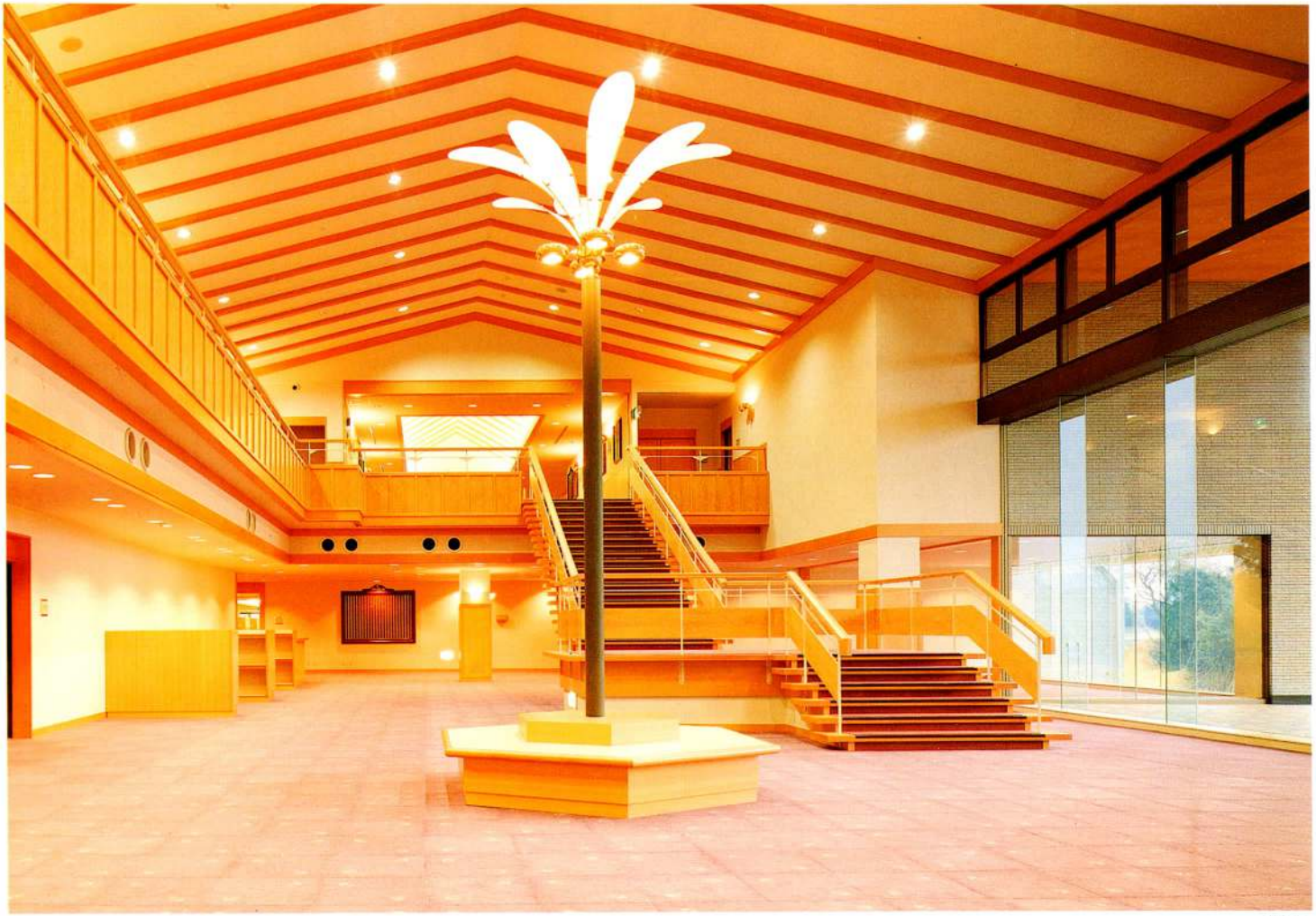
撮　　影　SS名古屋



1階平面図　1：1000

浜名湖カントリークラブは、昭和36年にオープンした静岡県でも有数な名門コースです。
以前のクラブハウスも、3階に展望台を持ち、そこから海を望むことのできるユニークな建物でしたが、年月の経過と共に、老朽化したので、開場30周年を記念して、建替えることになりました。
新しいクラブハウスに対する施主の要望は、玄関、ロビーは吹抜きとすること、食堂・談話室・浴室から海を望むことができること、外観は落ちついた大屋根スタイルとすることでした。
新クラブハウスは、海の見える中央ロビーを設け、吹抜空間とし、これを中心に食堂・コンペルーム等の諸室を配し、有機的に結び、豊かな空間を創りだしています。天然スレートで敷かれた大屋根を、アプローチ側では平家風に納め、とかく大規模なスケールとなりがちな外観を、ヒューマンなスケールでまとめあげています。また、内部においては、木等の素材感のある材料を使用し、暖かみのある空間を創りだしています。

（大成建設名古屋支店）



ロビー



食堂



会議室



浴室



ロッカールーム

座談会

東海の都市景観

出席者

北原理雄
（三重大学助教授）
桜井大吾
（アール・アイ・エー）
山口守彦
（名古屋市計画局都市景観室長）

司会

中島　一
（愛知工業大学教授、本会東海支部長）

（敬称略）

とき
平成2年1月11日(木)　15:30～16:30
ところ
愛知県建築技術研究会会議室

司会(中島)　日本建築協会東海支部の企画・編集による特集として、他の地域よりも先進的に都市の景観形成に取り組んでいる東海地方の都市の景観を、今回は取り上げたいと思います。
東海地域は都市景観形成に非常に熱心で、実践もしています。これは行政主導であろうと、市民主導であろうと、あるいはそれがうまく合い乗りしまして、共通の理念のもとに進んでいるものだと思っております。
そういったこの地域の状況を踏まえて、これからの都市は、都市景観を中心にしてどう発展していかなければいけないのか、きょうはお話しあい願いたいと思います。

基礎体力を蓄えた都市景観づくり

北原　“都市景観”ということが言われるようになって、もう10年ぐらいの時間が経過しました。“景観”についてはいろいろな定義がされていますし、時間がたつに従って、研究のレベルとか、実践の手法がどんどん洗練されてきているように思います。けれども、基本的に景観というのは、そんなに難しいものではないんじゃないかという気が、私としてはしています。ひらたく言えば、景観というのは、目に見えるまちの姿なんだ。そういうだれにも分かりやすい出発点を、どんなに手法が洗練されて、学問的にレベルが上がっても、きっちり抑えておく必要があります。それは、都市景観の整備ということがなぜ出てきたかという原点にかかわることだと思うんです。
従来行われてきた都市計画のシステムは高度に専門化してきて、まちを舞台にしている住民の生活とは別の次元のところで、ものごとが進むようになってしまった。そういう住民とのギャップが痛切に感じられている中で、人々の目に見える分かりやすいまちの姿を通して、もう一度まちづくりを市民に身近なレベルで、市民の手に取り戻そうという問題意識が最初にあったと思うんです。そういう意味では、都市景観というのは、目に見えるまちの姿を整備することなんですが、それと同時に実は上辺のお化粧だけじゃなくて、分かりやすい視覚的な都市の整備を通じて、そこから総合的なまちづくりに入っていこうという問題意識が出発点にあったわけです。そのような総合性を忘れない、そのスタンスが、大変重要な点として第一にあると思います。
第二の点としては、都市景観の整備というのは、大体、どこでもそうですが、そのまちの顔になる部分、駅前ですとか、中心街とか、そういうところから始まります。みんなの目に一番触れやすいまちの表舞台をきれいにしていくのは、都市景観を整備すると、まちがきれいになって楽しくなるということを、分かりやすく示すという意味で大切なことです。しかし、それで終わりになってはいけないと思います。都市の顔をお化粧するだけではなくて、都市景観は、基礎体力の面でも頑張らないといけない。普通の人たちが住んでい

る普通の場所でも、都市景観の側面から整備が進められることが大切です。どうも現状では、景観整備の先進都市を見ても、まだ顔の段階で止まっている。

第三に、そのような日常生活の場に入っていくうえで大切なことは、景観整備を、事業ではなく運動として捉えることだと思います。事業として行政が整備できる部分というのは、あくまでも表の顔だと思います。普通の人たちが生活している舞台の景観を整備していくとなると、住民の日常の活動が大きな役割を果たすようになります。

司会　愛知県では昭和59年３月に建築部が中心になり、街並景観形成検討委員会が作られました。さらに、“街にうるおいとやすらぎを、建築美観誘導指針”を昭和61年３月に、“都市景観形成マニュアル”を昭和63年11月に、研究成果として発刊しています。このことは、とりあえずは行政が一つの音頭を取るような形で進められた最初のように思います。

それに先だち、昭和55年には名古屋市では都市の景観について、計画局が主体になり、おやりになってこられたというような経過と存じているんですが…。

山口　実は名古屋市の都市景観行政の基本的な理念だとか、基本的な方向づくりを取りまとめていただいたのが北原先生なんかでして、私どもは、それをいかに実務の中で、まちづくりの中へ定着させるかということを今やっているわけです。

名古屋市におきましては、調和のとれた魅力ある都市景観の推進を図るというタイトルを掲げまして、都市景観懇談会を設置しました。座長は水野宏先生（名大名誉教授）です。そこで１年半ほど、都市景観施策についても考えていただき、57年に政策提言をいただいております。

政策提言では、一つは、都市景観整備に本格的に取り組むなら、初めから組織をきちっと作るべきだという考えを提示されたわけです。これを受けて、昭和58年の４月から都市景観室という独立の部屋を計画局の中に設置して、そこで今後の施策の体系化だとか、あるいは指針となるべく方向づけを検討いたしました。

二点目は、やはり初めからきちっとした施策の体系化を図るべきだという提言を受けて、昭和59年の４月から都市景観条例をスタートさせております。

第三点目に、それまで全国的にも実践レベルで具体的に都市景観行政がやられているのは少なかったわけですが、アドバイスをいただいて制度をより定着化させるべきだという提言を受け、60年の２月から都市景観アドバイザーとして、建築の分野だとか、グラフィックの分野とか、環境デザインの分野の先生方に週１回ずつ都市景観室に来ていただき、そこで実際にアドバイスをしていただくという制度を定着させたわけです。

そして第四点目は最も肝心なところですが、指針の明示といいますか、方向づけを明らかにすべきだということで、都市景観基本計画を62年の３月に策定いたしました。この都市景観基本計画では、基本理念として、ふれあいと調和をうたっております。



1940年　名古屋市に生まれる
1963年　明治大学政治経済学部卒業
1963年　名古屋市役所計画局に奉職
1982年　計画局主幹
（特定土地区画整理事業担当）
1985年　計画局筒井都市整備事務所長
1987年　計画局都市景観室長、現在に至る。

山口守彦氏

このふれあいと調和を目指して、歴史、伝統、文化、自然的条件などのそれぞれの地域特性を生かしながら、快適で魅力ある都市景観の形成を図るということが一つ。それからもう一つは、まちのデザインの向上。それから三点目に市民の手による都市景観の形成を図るといった、この基本方針は、そのまま63年８月に策定された名古屋市の新基本計画に取り入れられております。

新基本計画の中では、都市景観整備は、顔の部分だけではだめだと、名古屋市のポイントごとに地域特性を生かすということこそこれからの課題だとうたっております。世界デザイン博覧会を一つの節目としますと、そこまでを一応の顔の整備とし、ポストデザイン博としては、それぞれの地域特性を生かした各地域の界隈づくり、ポイントとなるような魅力の空間を生み出すことが特に大切ではなかろうか。これが今の行政課題です。

点・線・面から都市景観形成をチェックする

司会　実際、ものを創る、形を創る立場で、桜井さん、いかがでしょうか。

桜井　感じていることを率直に申しますと、都市景観形成ということで実際に成果を上げていっている例はまだ少ないと思います。現段階は、良好な都市景観形成を目指すうえでの試行中なんではないかと思います。

分かりやすく「点」、「線」、「面」ということで空間を分けて、どのくらい進んでいるかということを簡単にチェックしてみますと、自治体レベルで景観賞という形で顕彰しながら景観形成を進めている場合は、ほとんど「点」であって、少し進んでいる。「線」ということになりますと、成果を上げているのは二、三で、極めて少数ですね。この間うち完成しました大曽根の街並みなども、その一つです。

先ほど北原先生が、空間というのは総合性のあるものだと言われましたが、景観形成については、そういう意味で面的な広がりの中で

実りがあるというイメージを持つわけですけれども、「面」ということでは具体的にはまだほとんど実現していないんじゃないかと思うんです。
けれども、計画検討とか、調査というのはいろいろなされています。私どもも携わる場面がありますが、正直言って、いつももどかしさを感じます。いろんな理由があると思いますが、現場からのフィードバックがまだありませんから、計画の方法の適否が検証できない点が一つあります。コンサルというのは実施されれば、それでうれしいわけですけれども、ただそれだけではなく、住み手だとか、使い手が満足する必要があります。そういった点で、計画対象地区の関係者全体がどういうふうに評価されておられるのか、まるで分かりませんし、次の計画策定に生かすことができません。事例が少ないからやむを得ないと思いますが…。
それから、これは計画者自身の力量の問題があると思います。まだ新しいテーマであるだけに先進的な試みを参考にして計画を構築するというようなやり方が自分でも多いと反省しているんです。言わば、借りものの方法による計画づくりであって、もう一つ、その場にあった固有の方法にまで煮詰めたものとはなっていません。

意図して景観をつくる

桜井　そういう反省を踏まえますと、少なくとも計画づくりに携わるコンサルの課題ということでは、あまり計画の技法的なところにとらわれるんじゃなくて、創造の源をもっと探らないとだめじゃないか。そのため、対象の地区をもっといろんな角度から研究することが重要です。表層的なもの、深層的なものも全部含めて徹底してその場の特性を把握することが大事ですね。そういうものが明らかにされていきますと、創造性が高まり、そこのまち、そこの都市でしかあり得ようのない景観形成というのがおのずと導き出せると考えます。
望ましい都市景観を形成していく上では、実際の当事者の側にも大きな課題があります。景観形成の実際の担い手である建築主や商店街などの団体に、都市の景観をつくるという前提なり方針があるか疑問に思います。コンサルが一方的に計画提案するなり、あるいは行政が提案するなりということで、景観形成の方向が定められる場合が多いでしょう。市民一人ひとり意図して景観をつくるという歴史が浅いわけですが、なにがしかは意識してきたと思います。その場合、「景観」という言葉でものを考えるのではなくて、もっと日常的な言葉で意識し表現してきたと思いますが、その過程では見過ごされているものもたくさんあり、「景観」のセンスとしては磨かれてきていないと思います。これはある程度トレーニングしないとなかなか備わりません。
これが現状ですので、当事者が本当にまちを美しく、あるいは豊かにつくっていく上で、どれだけその努力をしているかというと、お



1941年　福岡県に生まれる
1965年　名古屋工業大学建築学科卒業
1967年　名古屋工業大学大学院修了
1970年　株式会社RIA建築綜合研究所（現アール・アイ・エー）に入所、現在に至る。

桜井大吾 氏

寒い限りであると思います。コンサルばかりが悪いんじゃない（笑い）。専門家も含めまして誰もが、そうしたセンスを持ち合わせるようにするためには、やはり創造性を大いに刺激するような、その場所の持つ特性、景観、資源をもっと研究することが有効であり、早道ではないかと考えます。

司会　私どもがお手伝いをさせていただいた岡崎市の都市景観環境条例は、環境の中に都市の景観というものがあるべきだ、たとえば流れるせせらぎの音を聞きながら、心が豊かになるんじゃないか、だから水辺の親水空間をこうしたらどうかというような問いかけをやっているわけです。３月にはこれまた私どもが関わっている豊田市が都市景観条例を出します。そして名古屋市の条例。これらを分析しながら拝見していますと、ハードな面が先行しているような気がしているんです。で、都市に魅力を持たせるための手法として、建物の形態だとか、色彩だけではなくて、もっとほかにベーシックなものがあって、その目的のための一つの手法として、都市の景観形成があるんじゃないか、というように思うのですし、いろいろなところでお話をしたり、聞いたりしていますと、そういった声が強いんですけど…。

活用できるストックを都市景観施策に展開する

山口　一つは、都市景観施策が全国ほとんど同一施策になりつつあるわけです。私どもも都市景観条例をつくるときには、当時、指定都市で都市景観条例を持っておったのは神戸市だけでしたので、神戸市の条例もお借りしながら、どれだけ新しい施策が打ち出せるかということでやったわけです。私どもの条例が策定されますと、今度は、やはり全国会議だとか、いろんな形の中で、この条例をご紹介申し上げるわけです。そうすると他都市の条例も大体それに似ちゃう。行政の一番の欠点である前例踏襲主義が、そういったところに如実に現れておると思うんです。

名古屋市は中央に大きな川がないし、平坦な都市だということがよく言われますので、緑と水、この二つを柱に掲げて、緑豊かで、身近に水に親しめるようなうるおいのある景観の実現を図るということを目標にしています。名古屋市の場合は、たまたまハードな面で基盤整備のストックが他都市に比べてしっかりしており、このストックをうまく活用することにより、名古屋市の景観形成の特色を出したいと考えています。道路の基盤がしっかり整備されていたということは、名古屋市の施策の展開に有利であったんじゃないかと思います。

そして、公共空間に余力があるだけに、平面なら平面の中のデザインの工夫の余地が、名古屋市は他都市よりはあるんじゃないかと思っております。

いろいろな施策を通じて、私が言いたいことは、いわゆる全国一律ではいかんということ。しかし、制度の中でどこの都市でも活用するものもありますよというようなことです。

個性を解読する眼差し

司会　アメリカのカリフォルニアのサンジェゴにホートン地区という非常に個性豊かなまちが出来たわけです。ここでは、都心に人をもう一遍集めようということで、とんでもないものを作ったんです。人は集まってきましたけれど、また最近は、それは必ずしも市民性に合わないということで、少しずつ廃退しつつあるんです。また、西ドイツのローテンブルグに行きますと、非常に古い石造りの建物が残っています。若者がいっぱい観光に来るわけです。あれも個性だろうと思うんです。

ある種の都市景観の中で個性豊かにというようなことと言いますと、一体何だろうかという気がするんですが、これは北原先生にご説明いただいた方がよさそうですので……。

北原　景観整備というと必ず個性という言葉が出てきますね。皮肉なもので、景観を整備すると、どこも似たようになっていく面があります。例えば道を整備すると、どこでも同じようなインターロッキングブロックの舗装になってしまって(笑い)、景観の整備をするたびに、また均質化が進んでいくのかという気もしないではない。そういう中で個性と言ったとき、そのまちが持っている歴史、これはかけがえのないもので、今からではつくれない。その意味で個性の最大の資源だと思いますね。それをうまく生かすと、先ほどのローテンブルグのような整備も可能になります。日本でもたとえば神戸がうまくやっているのは、幕末に港が開かれて、外国人居留地が出来てという、神戸固有の歴史を生かしているのが個性に結びついていると思います。ですから、歴史というのは景観整備をしていくときの個性の資源だと思うんですが、現状では、歴史というと古い町並みの保存整備という形で、これまた手法が均質化しているんですね(笑い)。どこへ行っても同じような妻籠や倉敷のコピーが出来



歴史的環境の保存・修景の好例(愛知県足助町)

ている(笑い)。だから歴史性と言っても、それが時代劇風書き割りのような均質化したイメージしか生まないとすると、歴史もさして個性の資源にはならない。

たとえば、名古屋と歴史と言ったときは、有松とか、古い城下町時代の歴史も、もちろん一つの資源ではあるけれど、それだけではなく、その後の近代化していくプロセスにも名古屋の歴史があるわけです。それをうまく生かしていっていいんじゃないか。工業都市・名古屋ならではのストック、近代工業が勃興し、特に重工業が持っていた壮大なスケールの遺産が今も残っているわけです。それをもっとうまく生かしていくと、名古屋特有の、骨太のスケールを持った景観が生み出せると思います。

それから、個性といったとき、そういうキャッチフレーズは、割合に簡単に出るんですね。ただ、そのキャッチフレーズを実体化していくときに、みな同じパターンでしか考えられないと、個性であるはずのものが、単なる看板で終わってしまう。だから、何が個性になり得るのかということを、きちんと解読していく眼差しが必要だろう。そのような眼差しを豊かに持っている都市と持っていない都市、それが文化の蓄積のある都市とない都市の差ということになると思います。

質のいい空間は新しい行動パターンを生む

北原　そういう意味で、市民の文化が大切なわけですが、昔のように旦那衆がいて、道楽で文化を育てていくという社会システムが今の日本にはありませんから、現在の市民社会の中で文化を育てようとすると、行政が率先していいものを作る、モデルを作るという役割を果たしていくことが非常に大切になってくると思います。いいモデルが市民の意識を変えるという点では、これは行政がやったことではありませんが、たとえば東急ホテルができて、名古屋人のホテル観が変わったということがあります。それまで名古屋のホテルというのは、要するに泊まるところ、宴会するところ、それだけのところだとみんな思っていたんですね。だけど東急が出来て、アトリウムが出来て、そこが一種のファッション・スポットになってきた。ホテルにはリッチな空間があって、そこは若い人たちにとってシティライフの舞台の一部だという、新しい考え方が出てきたと思うんです。質のいい空間を創ると…。あれが本当に質がいいかどうか非常に疑問な点もありますが…(笑い)、それはさておいて、質のいい空間を創ると、それによって新しい行動のパターンや、ライフスタイルが生み出される。いいモデルが出来れば、それに触発されて人々の行動パターンや、ライフスタイルが変わる。それが定着していけば文化になるんだと思います。

それから、もう一つ、コンサルタントや、建築家は何をするべきかというと、市民がいいものが欲しいと思ったときに、豊富なメニューを持っていて欲しい。それがないと、市民がもっと楽しい歩道が欲しいといったとき、どこでもインターロッキングブロックになっちゃうわけですよね(笑い)。市民が文化を育てようとする。デザイン博覧会は、そういう市民の気運を盛り上げる上で非常に大きな役割を果たしたと思うんですが、盛り上がった気運に適切な情報を与えていく作業を、行政や専門家がもっと積極的に進めていく必要があると思っています。



第三堀内ビルディング小路(名古屋市)



1947年　横浜市に生まれる
1970年　東京大学工学部都市工学科卒業
1977年　東京大学大学院工学系研究科修了(工学博士)、名古屋大学工学部建築学科助手
1983年　三重大学工学部建築学科助教授、現在に至る。
名古屋市都市景観審議会基本計画部会専門部員、愛知県街並景観形成検討委員会委員、津市都市デザイン委員会委員、四日市市都市景観形成推進協議会委員、建設省中部地方建設局シビックデザイン検討委員会委員などを務める。

北原理雄　氏

市民自らの努力、事業者の協力

司会　今アトリウムの話がありましたけど、大阪にあるヒルトンはすばらしいアトリウムを持っていますね。同じ外資系の同じヒルトンが、名古屋へ来ますと、そんなものは全然ない。これは非常に残念なんです。もちろん所有者が違うかも知れませんが、そういった意味で市民の理解というものは重要だと思うんです。山口さん、条例の中で市、需要者、市民の役割ということを明確にうたっていますね。その辺を、どういうふうに解釈したらいいでしょうか。

山口　確かに今、北原先生がおっしゃったように、行政の役割というものは、一つは先導的な役割ということです。これは景観基本計画の基本理念でもあります。いいものとのふれあいということですね。こういったことによって市民意識の高揚を図るということで、それに行政は力を入れるべきだと思っています。現在、久屋大通とか名古屋駅地区の指定と整備を行っていますが、これは、まさに先導的役割ということで、今、ある面では評価されているのではないですか。特に名古屋市のあちこちに点在する商店街の方々は商店街自身の時代のすう勢というか、伸び悩みだということもあって、その回復策として、こういった景観整備を目で見て、自分達の商店街の魅力向上策の一つに取り入れていこうという努力が見られるようになりました。

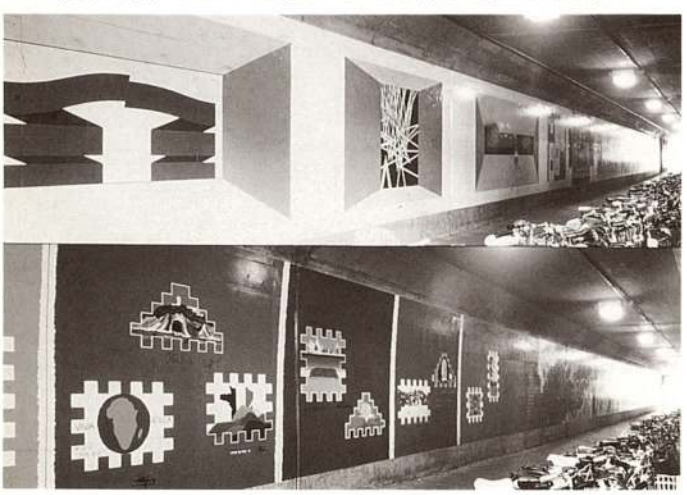
また、事業者は、そういった景観整備について、いろんな角度から協力していただくということが条例で言われております。たとえば一定の区画を再開発する場合、設計者とかあるいはゼネコンのような建設者だとかが、オーナーに対し、ここは公開空地、アトリウム空間等を取ってこうした方が、単純な床面積計算では損かもしれませんが、こういったいい空間を創れるとか、こういった材質のもの

をこういった形で配慮すれば、再開発としてのその地域というか、ビルというか、その一帯がさらに評価が高くなるとかを、積極的にアドバイスする。そういった事業者からの協力で、オーナーもただ単に採算ベースだけではないな！　もう一つプラスアルファがあるならそれに乗ろうじゃないかということになると思うんです。特に現在は高級化だとか、差別化だとか、個性化ということで、いわゆる内需拡大の波に乗っているときですので、こういった形で、市民意識の高揚を図ることは必要かと思います。

ここで、おれたちがまちをつくるんだという市民意識の一つの例をご紹介しましょう。皆さん方には飲み屋街で有名な錦三地区、錦三丁目地区ですが、あの地区は名古屋市でも唯一の都市景観協定を結んだ地区です。自らの手で協定を結び、ごみの搬入搬出はいつでなければいかん、あるいは歩道へ乗り上げた駐車はやめようとか、自転車も片づけるとかを、自分たちでそういった監視員というものを制度化し、委託して、ユニフォームまで自分たちで作って、巡回しながら、お互いに相互秩序を促してやっているわけです。これこそまさに市民自らの手による景観形成だというふうに思っております。条例では行政と事業者、市民それぞれの立場が、そういった形で明確にしかけられていると思います。



住民の努力により生垣の美しい"さつきが丘地"(愛知県長久手町)



外国人留学生によるイラストが高架鉄道下ガードの単調を破る(名古屋市)

デザインの差別化競争は続く

司会　そういった景観形成の努力も市民の中にはあるかもしれませんが、やはり形として出てくるのは、これは建築家の大きな役割なのです。これは私がかかわったところですけども、湖のそばに建っている建物が、北欧の風景を思い出させるような形にどんどん変わってきて、これは大変なことだと思っているんですが、建築家というのは、その周囲の環境だとか、あるいは状況によって形を創っていくべきものだと思いますが、やはり隣と同じものは嫌だとか、そういう考え方が多少あるんじゃないでしょうかね。

その続きに、歴史と伝統のある街道筋の古来からの大曽根再開発を一つ話していただきたいんです。

桜井　一時、計画策定に参画しておりましたから、話しずらいところがあります(笑い)。おそらく論点としては、「三角屋根」の導入の問題があると思います。

今、"デザインの消費"ということが言われています。デザインというのは、もともと消費するものじゃなくて、やっぱりいいもの、つまりストックを作るためのデザインが求められてきました。差別化



一斉建て替えにより生まれ変わった大曽根商店街"OZモール"

することが勝ちすぎる形で、デザインというのは用いられるべきでないという意見は当然あると思います。しかし、その判定基準はむつかしいですね。市民の常識、あるいは建築家の常識というものも確たるものが全然ないものですから、差別化の競争状態は続くと思います。

建築主や建築家もそういう常識、たとえば地域の風土や、おのずと暗黙のうちに備わっている地霊のようなものに応答しないといいものにならないのだという常識をみんなで共有することが重要でしょうね。

司会　どうも意味のないようなデザインをまちの中で見るわけです。しかし、形は、やはり後から出てくるものだと思うんです。珍しいものをつくることが都市の景観づくりだというようなことであれば、いささか奇異な感じがするんですが…。

多様性 ―その調和と混乱―

北原　都市の魅力は多様性にあるとよく言われますね。多様なものが共存しているというのは確かに都市の魅力なんですが、ただ、多様なものが共存していくためには調和が必要なんです。調和なしにあるのはただの混乱で、それではごみ箱と変わりません(笑い)。昔から都市にはいろんな地区があって、整然とした地区もあれば、ごちゃごちゃした地区もあって、その地区ごとの性格とかアクティビティを反映して、まちが出来ていました。ところが今の日本、特に東京なんかは非常に多様性のある都市であると言われていますが、あれは多様性じゃなくて、単なるカオスだという気がします。それから、多様性というためには、都市の中にいろいろなエリアがあって、そへぞれのエリアがサブカルチュアを持っている。そのサブカルチュアの上に、モノとしての都市の空間があるというのが多様性だと思うんです。ところが今の日本の都市は一見多様に見えるけれど、それはサブカルチュアなしに、モノとしての空間だけがあだ花のように形成されている。このままではいつまでたっても本当の都市としての成熟というのは得られないだろう。もちろん奇妙きてれつなことをやるのが個性だという地区があってもいいと思います。江戸時代からそういう地区というのは都市の中にあったわけです。けれども、都市全体がそうなったら、それはもう都市ではない。都市のエリアごとにコードを作っていく。そこで都市的な活動を営んで、その活動の舞台として物的な都市空間が出来て、そのための規範を自分たちで作っていく作業をしなければいけないと思うんです。そういうときに、規範がどういうものであるのかという合意を形成するうえで、目で見えるまちの形というのは一番分かりやすいから、そこから入っていこうというのが、都市景観の意義だと思います。それが名古屋市の景観基本計画の中でも言われている地域の個性ということです。だから、あなたのところの地域の個性はこうですよと、だれかが教えてくれるものではなくて、本来自分たちで見つけなければいけないものなんだろう。そういう見つける作業をしていく過程で、今の混乱があるコード範囲での多様性にだんだん落ちついていくんじゃないかなという気がしています。

法律と条例

司会　都市景観条例そのものは確かに評価されるべきものがありますけれど、もう一つ、その周辺にいろいろな法律があるんですね。たとえばいわゆる建築基準法の建築協定の問題もあるでしょうし、都市計画法で言うところの地区計画などがあります。そのほか道路法や都市計画道路の問題もあったりしますけど、そういったものと競合しあってはならないわけですし、こん然一体となり、都市景観の形成のため、各事業ごとにうまくトータルになされるように、それぞれのセクションで考えてもらわなければいけないわけです。その辺のところは、行政の姿勢というのはどうなっているでしょうか。

山口　条例というのは法律を超えるわけにはまいりません。たとえば、地区計画制度で当然いろんなことが出来るわけですね。都市景観条例に基づいて景観整備が出来るとした場合、競合すれば当然その部分は法律にゆだねるというようなシステムになっているわけです。ただ、法律の上乗せ基準というような中では、条例あるいは要綱で付加的な条件を付するということはありますが、ただ、それは景観施策のようなものにはあまり適用されないわけです。そうではなく、防災の面とかいったものでは、法律を超える基準は非常に理解されやすいわけですが、都市景観のプラスアルファの面については、やはり法律の枠を超えることはなかなかむつかしいのが実態です。

司会　ただ、そういった条例があって、その進むべき方向というものが示されておりますと、関係の官公庁もやっぱり理解を示すということは、これは現実にあるわけですね。そういう点では大変成果が出てきていると思います。

山口　たとえば一定の幅員の道路の中で、人中心のにぎわいの空間を演出しようと思いますと、歩行空間を拡大するというような具体的な事例が出てまいります。道路構造令で、1車線の幅員が何m何cmまで出ますが、今の構造令上なんともならないとかいった細かいこともあるわけです。それで、これを踏みはずすと、防災面から問題が出てくるということになりますと、それを押しのけてまでやれんなあというような壁は壁としてあるわけですが、中島先生がおっしゃったようにトータルとしては、例えば3車線も4車線もある道路なら1車線を停車帯にするとか、そういった形でのかなり前向きな検討はしていただけるようになりました。

まちは舞台、演じるのは市民、そしてプロデュースする建築家

司会　町並みの景観がよくなりますと、構えて行かないと気遅れして行きづらい、そんな感じの町もありますね。あれ、なぜでしょうか。

北原　景観を整備すると、どこもフォーマルにしなければいけないというような思い込みが今あるんですが、あれはやっぱり間違いだろう。フォーマルスーツで行けるところも町にはほしいし、ゆかたがけで行けるところもほしい。ジーンズで行く方がずっと楽しい場所もあってほしい。いろんなものがあるのが都市の楽しさです。それぞれの楽しさに応じた舞台がつくられる。それが本当の景観整備だと思うんです。だから夕涼みにフォーマルスーツを着ていかなければならないようなまちになってしまったら、これはやっぱりおかしいですよね(笑い)。

桜井　公開空地が名実とも公開空地になっていなくて、人がなか

なか入りにくいような設計になっている実態が新聞記事で明らかにされていましたね。私も実際歩いてみて、そう感じますし、パターン化していると思います。よそ行きの空間になってしまっている具体的な例の一つです。場の雰囲気にあった生き生きした公開空地をもっと研究する必要があると思いますね。

司会　そうですね。ああいう法律用語でやるもんですから、何かわざとらしくやるもんですから、“床の間”的な、室礼(しつらい)的な都市のデコレーションになっているんじゃないかという気がしますね。

桜井　名古屋の特徴である碁盤目の町、これはいい点、悪い点いろいろあると思いますが、それぞれの対応方向について検討・実践が足りないと思います。整備メニューも少ない。たとえば碁盤目の真ん中にある小さな神社などは注目すべき存在ですね。その神社がどうして今の形になったのか、戦災復興土地区画整理事業で換地するときに多分ああいう位置・形態に決められたのでしょうが…。

北原　あれはもとからあるんですよ。

桜井　もとからあるんですか、もとからあの位置だとすれば非常におもしろいですね。神社空間の使い方次第では、豊かな可能性がありますね。ほっておきますとビルの谷間に沈んでしまいますが、碁盤目の町でおもしろくない、もっと路地などをいろいろ作ったらいいという議論があります。けれども、神社空間とうまくかみ合わせるとユニークな空間になると思います。
その点で、行政の側に今一歩の努力をお願いしたいですね。たとえば街区データなんかいろいろ整備されていますが、街区単位でデータ化されています。あれを三分割か四分割で補そくできるようにしますと、広い通り沿いは高層化しているのに対して、一歩裏へ入るとまだ低層のままですから、そこは共同開発しようというような誘導目的の絞り方ができるわけです。そういうデータ整備もする必要があるし、さっき出ました多様でかつ魅力ある空間のメニューも、そこの場所でいろいろ工夫、抽出できると思います。どっかの参考書まる写しのものを作るんじゃなくて、実地に検討する中で、オリジナルな個性のある空間が出来ると考えます。ガイドラインとして行政が提案する必要があると思います。

司会　しかし、市民から言いますとね、そういった舞台を作ってくれることはありがたいけども、その舞台で役者になったり、あるいはスターになって、みんなと一緒にそれをうまく使おうというのも市民なんです。建築家というのは、その中でどんなかかわりをなすべきなのか、舞台だけ作って終わりというわけではないと思います。

北原　やはり一種のプロモーター的なね(笑い)、最近、まちづくりプロモーターみたいなのが流行していますけど、建築家も日常生活の中で市民が都市を楽しむソフトウェアをもっと積極的に提案していく必要がありますね。

桜井　お施主さんだとか、権利者と一緒にまちをデザインするという方法がないと、やっぱり独りよがりになっちゃうと思いますね。

司会　やはり主人公は市民だということを再認識し、再確認すると同時に、モノを作るだけでなくて、それをどう使いこなすかというところまで、建築家は深く入っていかないといけないんじゃないかという気がするんです。

北原　ある舞台が出来て、市民がそれを使おうとしたとき、いろんな障害があるんですね。例えば公開空地に屋台を置いてはいけないとか、あるいはカフェテラスにしちゃいけないとか。でも景観の整備というのは、整えられた舞台を活用するアクティビティがあって、初めて生きてくるんですよね。ですから舞台を使いたいという市民の欲求が出てきたときは、どうしたらそこを使えるだろうか、どうしたらバリアーをはずすことができるだろうか、それを行政は親身になって考えてほしいと思います。

山口　例えばカフェテラスも一つの景観資源と申しますか、名古屋のような広幅員道路の中で、そういったカフェテラスが点在するというのは、まち歩き空間を楽しくするわけですね。しかし、現実には、そのカフェテラスが歩道へ出てこられるかというと、現在の道路法の中ではむつかしい。その辺は、もう少し原点に返って掘り下げる必要があろうかと思います。

北原　錦三地区は道路までが商売の舞台になっているんですよ。お客さんを送り出してタクシーに乗せるまでが商売です。そういう意味で通りを使っているんです。使うと管理するんですね。だからほかのところも、どんどん使わせるといいと思うんです。使っているところは自分たちで管理しますよ。使わないで、人がいないから車がそこへ乗り上げて駐車しちゃう。悪循環になっちゃうんですね(笑い)。

桜井　道徳の問題というのは確かにありますけど、道徳を前面に出すやり方はうまくいかないと思います。実利面での共通認識が大事ですね。

北原　利用というのは、一種の実利です。そこで自分が広い意味で商売をする舞台だということになれば、管理の目がそこに向くようになります。

山口　確かに、利用をさせるというのは、一つの方法ですね。

司会　要は自分たちのまちだ、自分たちのものだという共有の考え方が、まずなければいけないでしょうね。個人消費じゃなくて、自分たち共有のものであって、その中で生かすための考えをみんなで出し合いましょうという、とういうところじゃないでしょうか。きょうはお忙しいところをありがとうございました。

左より、桜井大吾氏、山口守彦氏、北原理雄氏、司会の中島一氏



愛知県における都市景観行政の現況とこれから

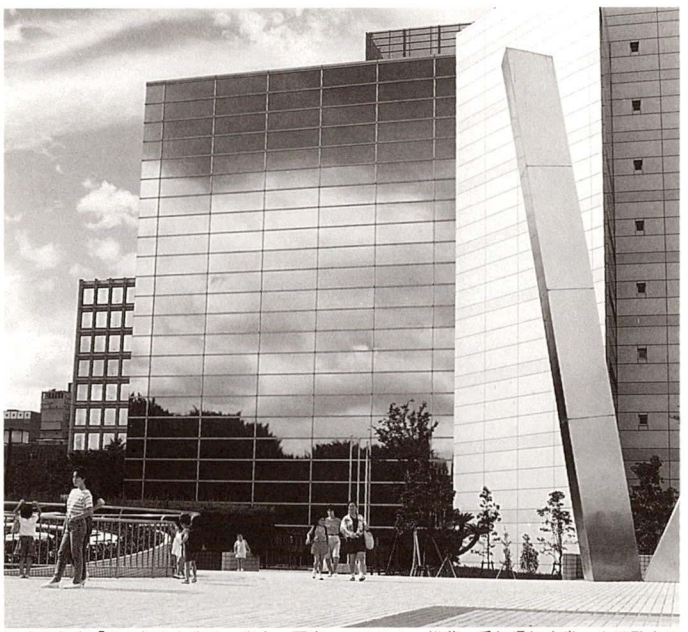
古橋国夫

はじめに

昭和50年代に入り、経済の安定成長への移行とともに、従来の、合理性、機能性を追求するあまり画一的になりがちなまちづくりへの反省から、都市環境に精神的、文化的充足を求めようとする動きがみられ、快適さやゆとり、潤いといった都市環境の質的向上に対するニーズが高まってきた。良好な都市景観の形成は、まさしくこの質的向上と一体のものであり、日当たりと同様に人間にとっての快適な生活環境の条件のひとつであるといえよう。なかでも中心市街地等における街並や景観の整備については、街のイメージアップや魅力づくり等を進める上で重要な要素でもあるため、都市景観についての行政施策の必要性が高くなってきている。

こうした情勢のなか、本県においても、昨年３月に策定された「愛知県21世紀計画」において主要プロジェクトのひとつに「あいち潤い空間形成プラン」を位置づけるとともに、本計画の「平成１－３推進計画」の主要事業計画においても「都市景観対策」を設け、良好な都市景観の形成を一層積極的に推進することとしているところである。

そこで、本稿では、これまでの本県の都市景観行政をふりかえるとともに、今後の景観行政のあり方を展望することとしたい。



平成元年度「私の好きな街並・街角」写真コンテスト　推薦・愛知県知事賞　山下登志子



県営篠岡住宅（桃花台ニュータウン）

1.愛知県の都市景観行政の経緯と現況

一口に景観といってもイメージを把握しづらく、根幹的な都市基盤整備に対してまだまだなじみが薄いため、一般県民や市町村等に広く理解とコンセンサスを得ることが不可欠である。また、景観には多くの要素が含まれていることから関連行政分野も多岐にわたり、それらの総合的、一体的な取組みが必要である。

本県では、「私の好きな街並・街角」写真コンテスト及び同入賞作品展（S.55年度から毎年度）や景観講演会を実施するとともに、「愛知県における街並景観の形成について」（S.59.3）、「街にうるおいとやすらぎを　建築美観誘導指針」（S.61.3）、「都市景観形成マニュアル」（S.63.11）等の一連の研究成果を発刊することにより、本県の景観のあり方や指針、景観計画の策定方法を示し、一般県民や市町村、事業者等に対して啓発・誘導を進めている。

また、庁内に「愛知県景観形成研究会」（S.59.5）及びその下部組織の「都市景観整備連絡会」（S.62.3）を設置し、総合的な連絡調整を図っている。

公共空間である道路、河川、公園・緑地等についても最近では景観への配慮がなされつつあり、道路景観整備事業（S.63年度～、岡崎市内県道）、堀川のマイタウン・マイリバー事業（S.63年度～）等、地域の個性を生かした魅力ある景観形成への取組みがみられる。

公共建築物については、既に「県の施設建築等に係る街並景観形成への提言」（S.58.10）をまとめ基本方針を示しており、一部の県営住宅や桃花台ニュータウン開発において、その具体化が図られつつある。

また、景観阻害要因のひとつである無秩序な屋外広告物については、従来から屋外広告物法に基づく愛知県屋外広告物条例で規制しているが、違反があとをたたないのが現状である。

一方、景観行政を市町村レベルで取り組むため、昭和60年度から３ヵ年にわたり、県と市と共同で具体的な次の６地区を対象に景観モデル基本計画を作成した。

○昭和60年度
- メインストリート地区（西尾市）
- 住宅地区（尾張旭市）

○昭和61年度
- 歴史的環境地区（犬山市）
- 商業業務地区（岡崎市）

○昭和62年度
- 駅前地区（大府市）
- 地場産業集中地区（常滑市）

これらの計画は、地元の意向もありいまだ具体化するに至っていないが、現在までに名古屋市、岡崎市が景観条例を制定し、また名古屋市、豊橋市、岡崎市、豊田市が景観基本計画を策定するなど、一定の波及効果はあったものと考えられる。特に、名古屋市は、市制100周年事業のメイン行事である世界デザイン博覧会（H.1.7～11）を契機として積極的に景観整備を進めており、名古屋駅前、桜通、若宮大通等の景観が一変したのは記憶に新しいところである。

2.今後の都市景観行政—その基本方針と展望

今後、さらに良好な都市景観の形成を推進していくには、多くの県民・事業者等の一層の理解を得るとともに、地域に即した手法等の開発・仕組みづくり、さらには、景観向上につながるような既存事業制定・手法の適切な応用を図る必要があろう。具体的には、次の点を基本方針として進めていきたい。

① 県、市町村、公益企業、事業者等からなる「愛知県景観形成連絡会議」を設立し（H.2年度）、総合的な連絡調整を図る。

② 総合的な景観整備の前提とすべく、改めて本県の景観形成の方向を示す「愛知県都市景観マスタープラン」（H.2年度予定）を策定する。

③ 県としては、景観の整備は、市町村を中心とした地域の自主的な取組みとして推進されることが望ましいと考えており、市町村の景観基本計画の作成を支援・促進し、その計画に基づく重点地区の景観整備については、関係機関が協力して支援していく。合わせて計画を担保するための景観条例等を制定することが有効であろう。

④ 公共事業においても、景観に配慮した公共施設の整備や、公共建築物の意匠向上等により、地域の個性を生かした魅力ある景観の形成を図る。

⑤ 屋外広告物については、条例に行政と地元住民が一体となって屋外広告物の適正化を推進する広告景観地区制度を創設する（H.1年度中予定）等、より効果的な施策を展開する。

⑥ 地区計画や建築協定、街なみ整備促進事業等、景観形成に資するような既存の事業制度・手法を、景観形成という観点から積極的かつ効果的に活用していく。

これらの方針をもとに、今後の景観行政のフローをまとめると、**図**のようになる。

3.おわりに

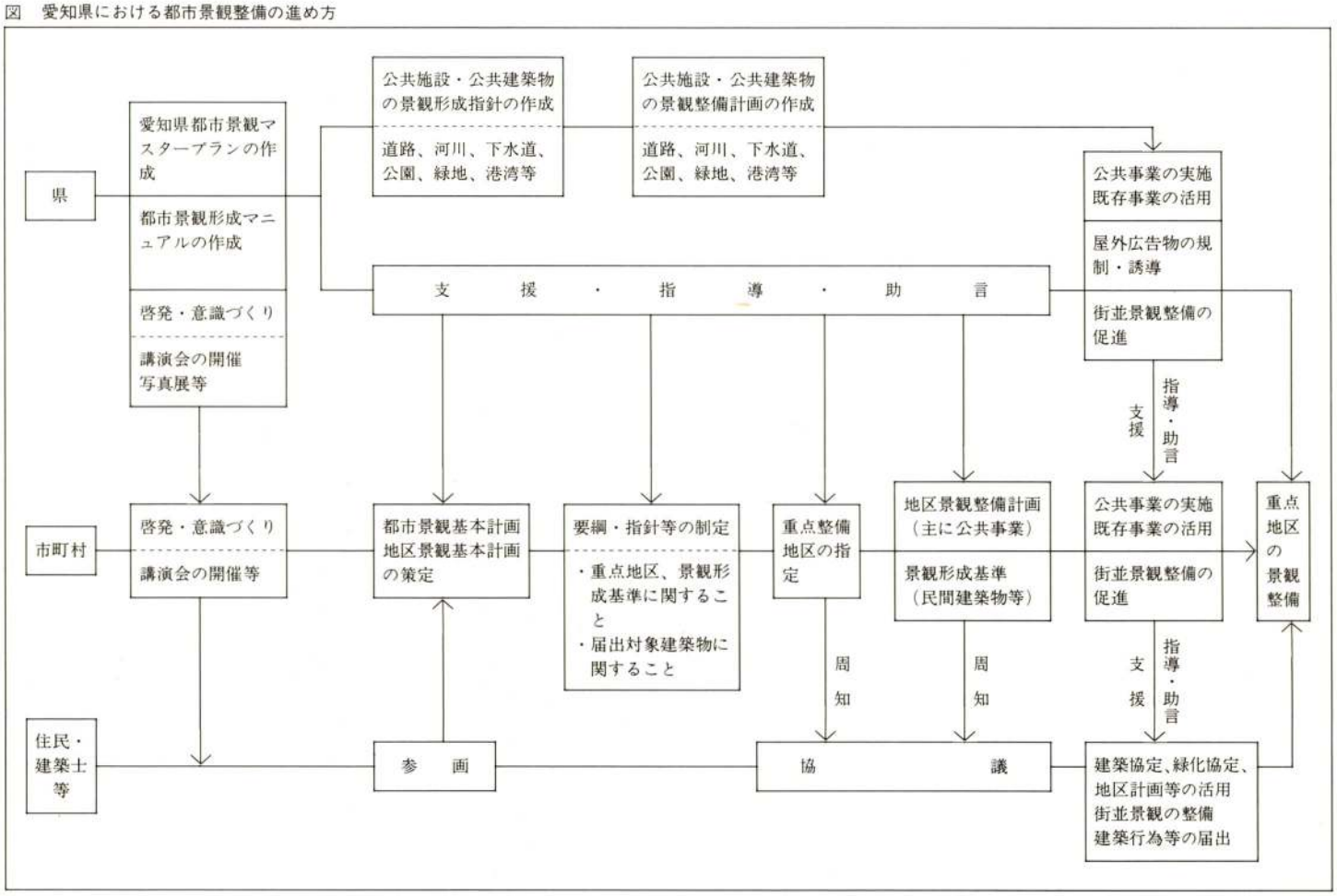
以上、本県の都市景観行政の概要と考え方を述べたわけであるが、そもそも景観（特に市街地景観）の大部分を占めるのは民間の建築物であり、良好な街並景観の創出には建築士等の設計者が非常に大きな役割を果たしているわけで、彼らに期待するところ大である。

ともあれ、景観形成は身近なちょっとした気配りや長期にわたる着実な努力の積み重ねが必要であり、一朝一夕にできるものではない。本稿をまとめながら、景観行政の重要性を改めて認識し、その推進の意を益々強くした次第である。

参考文献：「愛知県21世紀計画　平成1－3推進計画」（平成元年11月／愛知県）

（ふるはし・くにお／愛知県建築部建築指導課課長補佐）

図　愛知県における都市景観整備の進め方



名古屋の都市景観の現状とこれから

山口守彦

はじめに

最近、名古屋を訪れる人々から、「名古屋のまちがきれいになった。」という言葉がよく聞かれる。歩道からは電柱が消えるとともに、自然石やタイル等で舗装され、彫刻や噴水等のストリートファニチャーや緑も増えている。地下鉄の駅やバス停、道路標識も大きく変身し、しゃれたものとなっている。また、建築物もいままで以上にデザインを配慮し、緑と花の空間のためのオープンスペースを確保するなどしゃれたものになっている。

このように、名古屋のまちが見違える程きれいになったのは、昨年開催された世界デザイン博覧会に合わせてまちの整備を精力的に進めてきたこととともに、名古屋市が十年ほど前から積極的に取り組んできた都市景観行政の成果が実ってきたからではなかろうか。

名古屋市の都市景観行政のあゆみ

名古屋市は、先人達の努力により画期的な都市計画が実施され、機能的で活力に富んだ都市として成長してきた。しかし、時代の進展に伴い人々の価値観も多様化し、機能性や安全性を重視したまちづくりに加え、人間性を尊重した快適でうるおいのあるまちづくりが求められるようになってきた。

このため、昭和52年に「ゆとりとうるおいのあるまちづくり」をめざして名古屋市基本構想が策定され、「調和のとれた魅力ある都市景観の創造」を掲げ、都市景観行政の第一歩を踏み出し、昭和59年に都市景観条例を制定し、都市景観整備のための施策の体系化を図り、昭和62年に名古屋市都市景観基本計画を策定し、市民と市が協力して優れた都市景観を創造するための目標と指針を明らかにした。



世界デザイン博覧会場

名古屋市都市景観基本計画

都市景観とは、都市を構成する自然や人口的につくられたものの「眺め」にとどまらず、様々な都市活動や市民生活を反映したその都市の雰囲気、文化的香り、歴史性、ぬくもりなど目に見えないものを含む幅広いものであり、地域特性を生かした優れた都市景観は、都市の個性を生み、市民の心を豊かにし、愛着と誇りを感じさせるものである。

このような優れた都市景観をつくりだすため、都市景観基本計画では、「ふれあい」と「調和」を基本理念とし、「秩序ある都市空間の中にゆたかな自然をとり入れた美しいまち」「活気にみちた魅



さまざまなストリートファニチャー

力あるまち」「歴史の深みを感じさせるまち」「人びとの心遣いとときめきをかもしだすまち」という４つのめざすべき都市イメージを設定し、これを計画の基本目標としている。

この基本目標を達成するために、市内全域を景観上のまとまりから186の「景観自立地区」に分け、さらに景観自立地区をまとめて12の「景観基本ゾーン」を設定するとともに、都市の骨格を構成する大規模な道路、河川、旧街道などを11の「景観基本軸」として設定し、それぞれの自然条件や歴史、文化、町並みに応じて景観整備の基本目標や基本方針を明らかにした。

都市景観施策の展開

都市景観基本計画では、重点的に優れた都市景観を創造・保全する必要がある地区として19の「重点的地区」を定めており、この中から都市景観整備地区として順次指定を進めている。そして、関係住民などの参加のもとに、道路、公園などの公共施設の整備方針を定めた都市景観整備計画を策定し、公共空間における景観整備を推進するとともに、都市景観形成基準を定め、建築物、工作物、広告物の新設などに対して事前届出制を実施し、助言及び指導を行っている。このように、市と市民が協力して優れた都市景観づくりに積極的に取り組んでいることが本市の景観行政の特徴である。

現在、都市景観整備地区として、久屋大通地区、名古屋駅地区、名古屋の海の玄関である築地地区の３地区を指定しているが、今年中に広小路通・大津通地区を指定する予定である。



久屋大通公園



名古屋駅前モニュメント

久屋大通地区は、戦後名古屋のまちづくりのシンボルとなった100m道路の久屋大通を中心とする地区であり、昭和58年度より景観整備のモデル地区として、一部車道閉鎖等による公園部分の連続化、復興事業収束モニュメントの設置、御影石を敷き詰めた10.5m幅のゆとりある歩道の整備、デザインの統一されたストリートファニチャーの設置、歩行者系案内標識の設置などの整備を行い、名古屋の「顔」にふさわしい活気とにぎわいと親しみのある魅力ある都市空間づくりをめざしている。

名古屋駅地区では、地下鉄工事の路面復旧に合わせ、２つのモニュメントの設置、駅前広場・歩道の整備などを進め、名古屋の表玄関としてのイメージアップ、ターミナルとしての利便性、快適性の向上、都心商業・業務地としての活気と魅力づくりをめざしている。

一方、夜間の景観を演出するものとして、ライトアップにも積極的に取り組んでいる。ライトアップは、都市に奥行きや深み、広がりを醸し出し、都市に新しい魅力的な表情を創り出すことができる。現在、市が関係するものとしては、数十施設で行っているが、特に久屋大通地区におけるテレビ塔や樹木のライトアップ、モニュメントからテレビ塔へのレーザー光線の発射は多くの人々を楽しませ、久屋大通公園の夜の魅力を一層引き出している。



復興モニュメントとレーザー光線

今後の展望

名古屋は住みやすく、ゆとりがあると言われている。今後は、この長所を生かして、デザインの優れた、人間性豊かで温かみのある魅力的な都市空間を生み出すことが必要である。また、デザイン博を契機に市民の中にデザインマインドが大きく育まれたが、このデザインマインドを一層高めていくことも都市景観行政の課題である。

このためには、これまで進めてきた主に都心地区における魅力づくりだけではなく、市全体で地域の個性を生かした創意と特色あるまちづくりを進めていく必要がある。具体的には、都市景観整備地区の指定を一層精力的に進めていくとともに、地域のイメージアップを図るため、文化・商業施設などの集積する一定の地域における界わいづくりや景観の向上を図っていきたいと考えている。

（やまぐち・もりひこ／名古屋市計画局都市景観室長）

魅力ある快適な都市「おかざき」づくり

久米貞夫
杉山延治

はじめに

岡崎市は、三河山地の山なみを背景に、北から南に流れる矢作川に沿って平野が広がり、市中心部を東から西に流れる乙川の両側を、丘陵の緑が街の景観に彩りを添えている。また、水と緑に恵まれ、風光明媚と讃えられてきた本市は、徳川家ゆかりの歴史的遺産も多く、固有の伝統と風格に満ちた都市である。大正5年に市制が敷かれ、平成元年には人口が30万人を超えるなど「明るく豊かで住みよいおかざき」を目標に、新たな都市の魅力づくりが積極的に進められている。

岡崎城を中心とした城址公園の整備、多目的機能を有する中央総合公園の建設、本市の玄関にあたる東岡崎駅前地区の整備、そして新世紀にふさわしい都市づくりに向けた乙川リバーフロントやハイコンプレックス21の開発などの構想がいよいよ実現に向けて動き出そうとしている。

こうした新都市の創造にあたり、一方では、岡崎らしさを生かした都市景観づくりや快適な生活環境づくりが、市民参加のもとで取り組まれている。

1. 都市景観の現況

春は桜、夏は花火のイベント会場として賑わう乙川の水辺は、都市の貴重な憩いの空間であり、市制70周年を記念してつくられた大



岡崎城を背景とした乙川大噴水

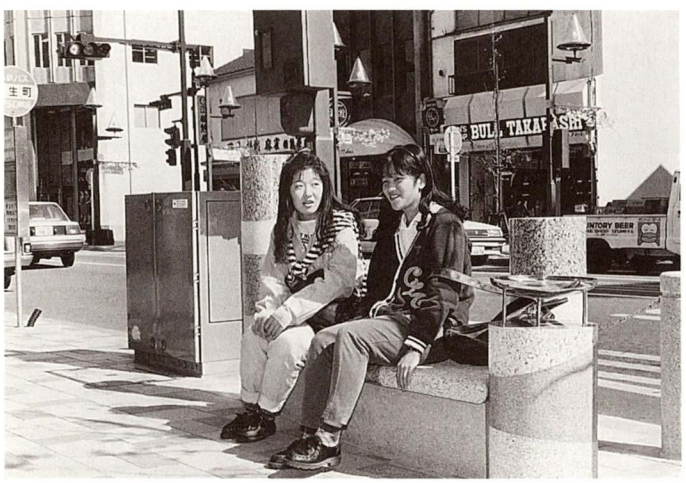


徳川家康由縁の岡崎城と桜

噴水と両岸の桜並木や丘陵の緑がつくりだす景観は、水と緑と坂のある街を象徴するシンボル景観であり、歴史的なシンボルとしての岡崎城を背景に大噴水の描くアーチが新たな風景を市民の心に刻みはじめている。

一方、大樹寺から望む岡崎城のロマンあふれる眺望は、歴史が残してくれた貴重な財産である。赤石山脈の先端に位置し、その形が竜の形に似て、いずれが尾かさき（頭）かわからないことから「おかざき」といわれるようになったという。こうした物語を持つ都市景観は、多くの市民の心に生き続けてゆく。大樹寺や殿橋から望む岡崎城の眺望は本市の都市景観のシンボルのひとつである。

都市のシンボル空間はずっと守りつづけられた自然と歴史の空間であり、そこに都市の魅力が作りあげられている。都市景観の中には市民の活動が欠かせない。都市生活の拠点である中心商業地…康生地区は、「歴史性」「話題性」を考える地区住民の熱意と自主的な整備により生まれ変わってきた。電線類の地中化、アーケードの撤去



康生通に設けられた石のベンチ・石のモニュメント

により歩行者空間は大きく広がり、石を素材としたベンチ、灰皿、ボラード、入念にデザインされた歩道舗装など石のまちをモチーフとした街並が整備された。街路樹にはアメリカ楓が選ばれるなど話題性と伝統文化を強調した街並形成が進められている。本市の玄関…東岡崎駅前地区も自主的な整備が積極的に行われている。電線類の地中化にあわせてアーケードが撤去され、見違えるほど通りが広くなった。街路樹にはナンジャモンジャの木が、街路灯にはガス灯が計画されてきている。デザインコンセプトはやはり自然と歴史を基調とした岡崎らしさの上に立っている。これらの地区整備にみられる景観整備は都市景観に対する市民意識の高まりから来るものであり、本市の新しい都市景観を形成しつつある。

2. 都市景観の課題

快適で住みよいまちをめざし中島一愛知工業大学教授らの指導をうけて昭和60年３月に岡崎市都市景観環境条例が制定され、以来、きれいな水の確保、緑とのふれあい、快適な居住環境の確保に係わる日常生活のルールの定着に向けた意識啓発が行われる一方、人々の視覚に映る街の建物や広告物などの私有空間に属するものの美観整備や道路・公園等の公共空間の景観形成にむけた整備が行政と住民の共同作業により進められている。

しかし、魅力ある快適な都市「おかざき」を実現するうえでの課題は多く、一つ一つの課題をクリアしてゆかねばならない。

(1) 建築美観の整備

建築美観に関する市民意識は、都市景観環境賞の実施や各種写真展により理解が深められ、地区整備も建築物の美観整備に重点がおかれつつある。公共建築物も外観のデザインが重視され、外観のデザインによって施設のイメージが大きく変わる。こうしたことから都市景観は、やはり個々の建物や広告物のデザインが基本であり、個々のデザインの質も高まることで魅力も美しさも醸し出されてくるものと思う。都市景観を向上させるには、街並のイメージを左右する建築物の整備を第一に考えるべきであろう。



先導的役割の中央クリーンセンター

(2) ふるさとの森の保存

豊かなみどりは都市に魅力を与え都市生活に憩いと潤いの場を提供してくれる。開発の進行とともに市街地の緑は徐々に姿を消してゆくが、幸いにも本市は多くのみどりが市街地に残っている。この貴重なみどりを「ふるさとの森」として保存し、都市の中に自然とふれあう空間を残すことが都市景観向上の礎となるものと思う。

(3) 水辺の景観整備

乙川に代表される河川をはじめ、本市にはため池も多く水辺空間に恵まれているのである。水辺は市民にとって大切なやすらぎの場であり生活空間の一部となってきた。したがって水と親しむ場の景観整備を進めることが、都市景観の向上に大きくかかわるものであり、岡崎らしさを育てるキーポイントの一つと思われる。

(4) 歴史的景観整備

三河武士や徳川家康にまつわる歴史的遺産の多い本市において、身近な歴史を感じさせるものの一つに旧東海道や道根往環などの歴史の道があげられる。モータリゼーションの発達により、歩くみちとしての空間が少なくなった現在、東海道53次の関係都市の共通テーマとして歴史的景観整備を考えることが望まれるし、本市においても、歴史的まちかど整備の実現が望まれるところである。

3. まとめ

最後に、魅力、個性、うるおい、そして活気のある都市が形成されるには、そこに住む人々が具体的、総合的、かつ継続的にまちづくりに参加できるかどうかが、ひとつの大きな鍵である。魅力ある快適な都市「おかざき」づくりは、行政が行う事業や民間の事業を個別的に取り組むのではなく、調和のとれた形で行うことによって質の高い都市景観が形成され、そうすることで身近な生活環境の快適性を確保できるものと思う。

（くめ・さだお／岡崎市開発部都市計画課課長補佐
すぎやま・のぶじ／　同上　主事）

産業文化交流都市をめざす豊田市の都市景観づくり

安藤　勇

はじめに

豊田市は、愛知県の平野部と山間地の中間に位置し、自然に恵まれた都市である。北・東部は緑豊かな山並と丘陵地が連らなり、南部は平坦な水田が広がる田園地帯を形づくっている。市の中心部を三河地方の水がめでもある矢作川が流れる緑と水のまちでもある。市域の中核をなす挙母地区は江戸期に城下町、明治以降はまゆの集散地で、典型的な農村集落を構成していた。昭和12年自動車工場の創立で、今日では、自動車産業を基幹とした工業都市に発展をみている。昭和30年以来、隣接の5町村を合併して市域を拡大した関係で、都心地区の小さい分散型のまちを形成しており、人口32万人の都市として市の顔となる中心市街地の創造と個性をもったまちづくりが課題といえる。

1.まちづくりと都市景観基本計画の策定

昭和60年、市議会での都市景観形成への質問を一つの契機として加藤助役（現市長）を会長とする都市景観対策研究会（庁内次長級職員20名）を設置、一年間にわたって、先進都市19市の調査視察を実施し、都市景観に対する基本的考え方をまとめた。昭和61年3月、学識者5人による座談会を開催し、都市景観行政の提言とした。同年4月都市景観懇話会（会長中島一愛知工業大学教授）を設け、2か年にわたって二十一世紀へのまちづくりの指針となる都市景観基本計画を策定した。基本計画の基本理念は、「緑ゆたかな・車のにあう・ふれあいのある都市」と設定し、車の町らしい個性ある快適なまちの創出をめざしている。本市は、昭和62年3月に都心地区を縦断する名鉄三河線の連続立体交差事業が 3.4km区間完成し、旧架線敷を緑陰歩道に活用し、970ｍを専用歩道として整備を行い、せせらぎの人工河川を造った。また、58年から始まった都心地区再開発事業のうち、駅西口地区の完成を63年10月にみて、名鉄、愛知環状鉄道を結ぶペデストリアンデッキも合せて完成した。都市景観形成事業は中心市街地の再開発事業や市域中心部を巡回する内外環状線や主要幹線の道路整備を主体とする二十一世紀へ向けてのまちづくりの事業と共に推進を図っている。

2.都市景観事業への取り組み

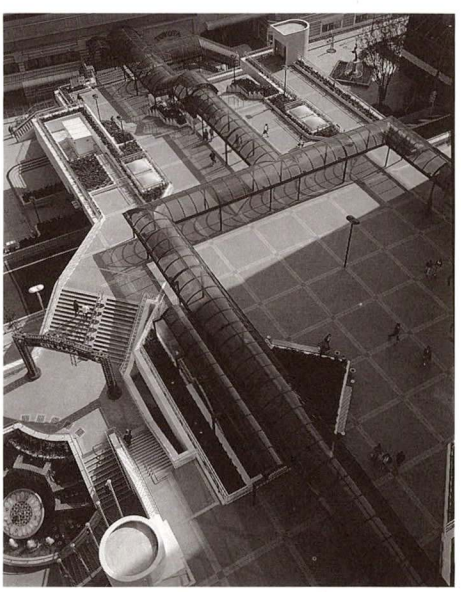
都市景観基本計画の提言を受けて63年4月以降、事業化に向けて広く周知の徹底の促進に努めた。具体策として都市景観シンポジウムの開催と都市景観賞の表彰を行った。都市景観賞は前年に愛知県



高架鉄道下の〝緑陰歩道〟
―名鉄豊田市駅付近―



名鉄豊田市駅と愛知環状鉄道をつなぐペデストリアンデッキとモニュメントのアーチ



ペデストリアンデッキの俯瞰

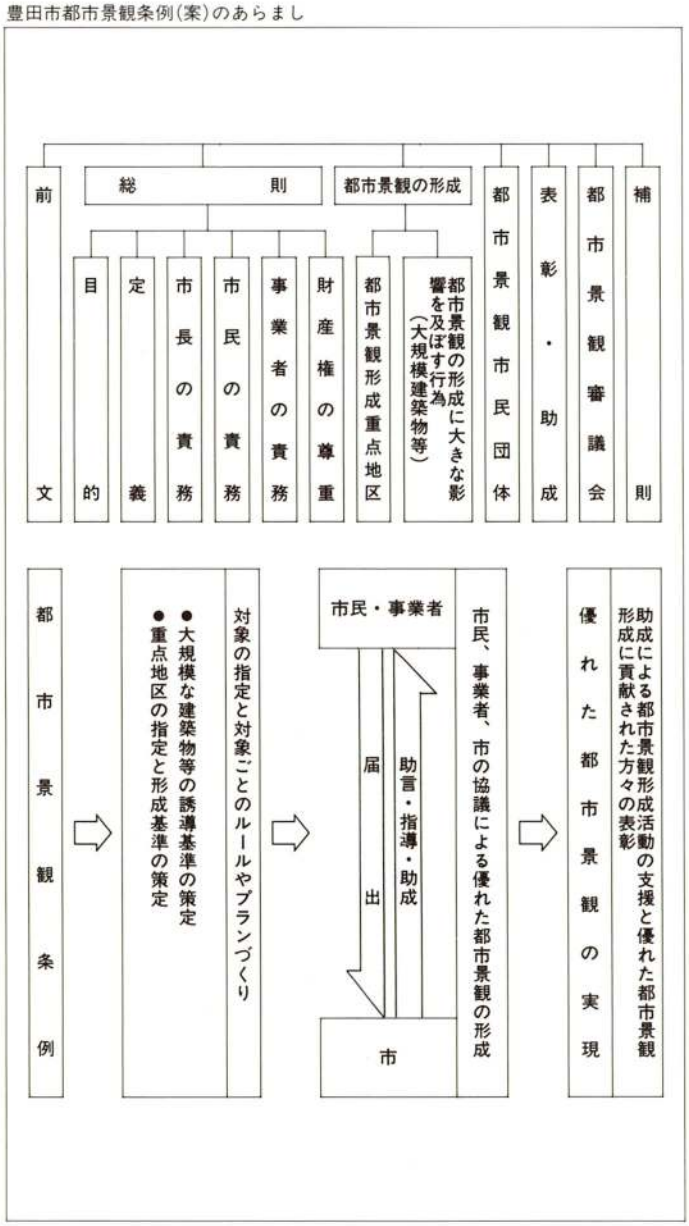
建築士事務所協会豊田支部によって実現し、市はこの事業を引き継いだ形となり、選考基準・選考方法も踏襲するように実施を進めた。今年度は景観意識を更に浸透するため、豊田のまちの良さの再発見とこれからのまちづくりへの課題を提言してもらう目的で、まちづくりウオッチングを開催し、200人近い参加を得た。

また、都市景観形成事業への第一歩として都市景観アドバイザー制度を設け、公共施設には民間への先導的役割を果たす責務について範を示す施策を強化した。民間には、周囲との調和や都市的環境形成への水準の引き上げをめざして、相談制度の定着化を図った。

この他、都市景観基本計画の基本的考え方を実現化していく方向の一つとして民間への先導役を果たすため、公共施設マニュアルを作成した。内容は、河川及び池・道路・公園緑地・公共施設など行政側が構築するものについて都市景観への配慮を強化するものである。アドバイザー相談制度とマニュアルの庁内への徹底を図り、民間では設計・施工を担当する建築士事務所協会・建設業界に対してアドバイザー制度への利用をＰＲした。現在、９か月を経過しているが、相談物件は100件をこえている。

行政側からの都市景観形成事業の姿勢を強化する施策を検討していく組織として、63年から庁内次長級職員で構成する都市景観検討委員会を発足させ、都市景観行政の総合的取り組みと都市景観条例制定への課題の協議を行った。

豊田市都市景観条例(案)のあらまし





トヨタ自動車㈱本社前のランドマークとしての大樹

3．都市景観条例制定へ向けて

都市景観条例は、基本計画策定の過程でも提言され、都市景観形成事業の制度化への支柱として位置づけられ、一年間にわたって、都市景観検討委員会においても内容の検討を行った。すでに条例を施行している都市の視察と並行して、市の実情に即した条文化も進めた。63年に市議会からの条例の必要性の質問があり、「条例制定への検討を始めている。」との市長答弁で、条例制定に向けて動きに拍車がかかった。条文化の段階で、庁内組織との協議や市議会との検討の他に都市景観賞選考委員会でも内容を提示し、助言及び指導をあおいだ。特に条文の中で、景観形成手法の二本柱である重点整備地区の指定・景観形成に重大な影響力をもつ大規模建築の届出制度について建築設計・施工の立場にある建築士事務所協会・建設業界に内容説明や意見交換を行い、協力を求めた。

条文内容の中で、市民・事業者・行政が一体となってのまちづくりを提言し、快適でうるおいとやすらぎを求めていく都市景観形成の主体が、まちに住む人々であることを認識してもらうために、三者共通の財産と、それぞれの役割を明確化している。商工会議所を通しての業界諸団体との協議と並行し、広く市民層への理解とまちづくりへの認識の高揚に向けて区長会への説明を行い、都市景観形成事業の重点地区の対象となる都心地区の区長会や商工会や発展会との協議も重要であり、条文施行に向けての話しあいを進めた。条例は、専門的機関を得て３月議会において審議をうけ、平成２年４月１日より施行する方向で市全体が動き始めている。

4．今後の方向について

本市では、都心地区再開発事業の進展と合せ、主要幹線道路整備、公共施設周辺と学校施設環境整備計画、新たに開発の住宅地区などの都市景観整備も計画している。特に二十一世紀に向けての未来計画への第５次総合計画が策定中で、緑と水の自然を生かした「産業文化交流都市」実現を図るため、総合的な都市づくりが展開されつつある。こうしたまちづくりへの事業化の中で、条文制定による意義も大きい存在となっていくことが期待されている。

（あんどう・いさむ／豊田市都市開発部都市計画課副主幹〈都市景観担当〉）

七宝焼
—七宝町—

東海の建築地場産業●ルポ19

水野安彦

七宝焼

七宝とは、仏典にある七つの宝物「金・銀・瑠璃・硨磲・瑪瑙・真珠・玫瑰」のことで、七宝焼の美しさが七種の貴重品に似て絢爛で高貴であるところからこの名がつけられた。七宝焼は、古くから七宝町に伝わる伝統的な窯業であり、その作品の一つひとつは手仕事に頼る専門工程と精緻な技術で丹念に仕上げられる。

また、この地の人々が七宝焼に愛着を持っていたところから七宝村（七宝町）と名づけられた。

七宝焼のおこり

七宝焼は、もともと遠く紀元前古代エジプトにおいて、その同類が見受けられ、その多くはインド・中国・朝鮮をへて我国に伝来したものとされている。我国でもすでに奈良時代正倉院の宝物の中に「金銀七宝十二稜鏡」のような作品があり、その後慶長の頃、京都の平田道仁が一子相伝の秘法として伝えていたが、いつの間にか絶えてしまった。

天保年間（1830年頃）尾張国海東郡服部村（現在の名古屋市中川区富田町服部）に住んで金属焼付を業としていた梶常吉は、古書に書かれている七宝焼は、珊瑚、玻璃、瑪瑙、琥珀、琦瑰及び水晶からつくることを知って長い間研究したが、七宝焼は、古書に書かれているような簡単なものではなく完成にはいたらなかった。また、天保３年（1832年）名古屋末広町の骨董商から、オランダ船が持ってきた一枚の七宝皿を得て研究したが容易に会得できず、ついにそれを破砕分析し、銅胎植線施釉の構成を知り、それに近い精巧な七宝焼を製作した。その後、天保６年海東郡遠島村の農家に生まれた林庄五郎は、ある時、梶常吉が七宝焼の改良発明をしたことを聞き、商業上の関係もあることから、これに非常に興味を覚え、しばしば梶家を訪問し、七宝焼製造についての伝授方を懇請したが許されなかった。その頃、同郡下萱津村（現在の甚目寺町）の吉村泰治がすでに梶常吉から七宝焼の全技術を伝授されたと聞き、その願望は増々激しくなった。丁度その頃、井和村（現在の秋竹）の新田伊三郎が常大工として梶家へ出入りすることを知り、その仲介により安政３年10月ついに梶常吉の孫佐太郎より伝授され、本望を成しとげた。その後梶家の孫は、七宝焼の製作に従事していたが、大正年間に入って消息を断ち、また吉村泰治は、他に伝授することなく一代で終った。ただ、林庄五郎のみがその技法を塚本貝助や塚本儀三郎をはじめ幾人かに伝えることにより、後継者が現在の七宝町遠島に続々輩出して、今日の隆盛をみるにいたった。

（みずの・やすひこ／愛知県立芸術大学大学院）



七宝町産業会館パンフレット「七宝」より



林庄五郎翁顕碑



七宝焼起源碑



七宝焼原産地の道標



七宝町産業会館



（同左）常設展示ホール

林庄五郎翁顕碑
遠島八幡神社内にあり、七宝焼の秘法を会得し当地方に発達させた先覚者として、その功績をたたえて昭和37年に建てられた。

七宝焼原産地の道標
明治28年に建てられ上部にローマ字で「Shippoyaki Toshima」と記され、大変珍らしいもので、当時、外国人がここに買い付けに来ていたことを偲ばせている。



愛知県植木センター







植木・苗木
—稲沢市—

東海の建築地場産業●ルポ20

水野安彦

稲沢の植木生産の始まり

愛知県稲沢市は、中京地区における植木生産の中心地で、戦前から我国植木四大産地の一つに数えられていた。また、稲沢は植木の産地であると同時に果樹苗木、桑苗木の一大産地でもあった。

稲沢の植木の生産は、嘉暦3年（1328年）柏奄和尚が鎌倉より明治村矢合（現在の稲沢市矢合）の円興寺に来住し、国分寺の再興に努めたのち唐へ渡り、勉学のかたわらかんきつの接木法を修得し、帰国に際し、かの地の種子を持ち帰り、矢合地方の里人に栽培させ、接木の方法を伝授したことから始まるといわれている。しかしこの記録のみから植木生産が当時すでに始められていたとするのは疑問に思われる。なぜなら、柏奄和尚が農民に教えたのはかんきつの接木技術だからである。

稲沢の植木生産開始の時期は、以上の理由ではっきりしないが、江戸後期には矢合が植木村として産地化されていたことは事実である。それは宝暦年間（1751～1764年）に、ときの尾張藩主の命により矢合の橋本甚佐衛門が植木苗木を御用立てしていること、また文政10年（1827年）にはその子孫徳右衛門家にときの尾張侯が視察し、当時下付された感謝状が現存しているからである。幕末には、矢合のほかに千代田村（現・稲沢市）の堀之内、井堀、目比に果樹苗木とともに植木生産が行われるようになり、明治初期頃からは桑苗生産と養蚕の多かった船橋、法花寺、山口方面（いずれも現・稲沢市）にも生産が拡大していった。

稲沢市における産地化の要因

稲沢の矢合が江戸時代に植木の産地になったのは、名古屋の発展に関係している。尾張62万石を支配する尾張侯を頂点とする武士階級の庭園需要と富裕な商人の庭園、あるいは私的非作庭需要は江戸時代においてすでにかなりの需要を形成していたと思われる。とくに名古屋は茶の湯が盛んなところであり、これに関連して庭園の需要が多かった城下町の一つであった。

明治以後、名古屋は、貿易港、工業都市としていちじるしい発展をした。その人口も明治初年の11万人から大正9年には61万人にも増大した。このような名古屋の発展を背景に、植木の産地は矢合を中心に稲沢市の各地に増大していった。

稲沢は名古屋から歩いて片道半日の距離（約15km）にあり、交通地位に恵まれていたことが、名古屋の植木需要に対応できた大きな要因である。しかし当時の交通手段からみて、庭園に需要される大型完成木の供給地には最近までなりえなかった。そのような完成木の供給者は名古屋の庭師であり、稲沢は名古屋の庭師への素材供給地という受身的な立場にあったからである。

しかし、名古屋の発展は庭園を媒介にしない庶民の私的非作庭需要（小型の養成木）を徐々に作り出したので、この需要を対象にした植木の引き売りが生産者の手で行われるようになった。

東海道線が明治22年に全通し、稲沢駅がわが国三大操作場の一つになるにおよんで、植木の供給圏は苗木や養成木を中心に拡大した。稲沢の植木生産者は、このような全国的販路の拡大とともに、名古屋の植木需要を対象に庭師、露天商、業者などとそれぞれ結びつき、またみずから引き売りを行いながら販路の拡張に成功した。これらが産地発展の第一要因である。

第二の要因は、この地区が植木生産の適地だったことである。稲沢は日光川、青木川、五条川など旧木曽川分流が形成した自然堤防の発達しているところであり、自然堤防の間に後背湿地や旧河道の低地が残っていて、それらが沖積層の砂壌土、壌土腐植壌土でとくに植木苗木の生産に適していた。また気象は気温（平均気温14～15度内外）、雨量（年間1500ミリ）とも植木の育成に適し、とくに「伊吹おろし」の影響による気温低下と夏の高温との関係は健苗育成に好影響を与えているといわれる。

第3の要因は、前述したようにかんきつ苗木の接木技術がこの地で成立したからである。かんきつ苗木や桑苗木の技術の普及化が、植木と苗木とその養成生産を可能にしたのである。

以上のことから、稲沢における植木の産地は、自然的条件、技術的条件、交通条件、販売条件などの優位制を背景に形成され発展したものである。

順位	市町村名	面積 (a)	愛知県内比(%)
1	田主丸町（福岡）	88,200	
2	鈴鹿市（三重）	56,438	
3	久留米市（福岡）	39,550	
4	横浜市（神奈川）	35,710	
5	**稲沢市（愛知）**	**33,847**	(41.8)
6	浜北市（静岡）	30,635	
7	川口市（埼玉）	29,549	
8	池田市（大阪）	25,000	
9	鹿屋市（鹿児島）	21,275	
10	東金市（千葉）	21,200	
その他	**祖父江町**	**12,121**	(15.0)
	西尾市	**11,540**	(14.2)
	一宮市	**3,492**	(4.3)
	尾西市	**2,731**	(3.4)

市町村別生産面積 上位10

資料提供：愛知県植木センター

愛知の植木生産はいま……

（生産者戸数はどうなったか） 愛知の構成比が12.4％とここ数年上昇の傾向があるが、これは全国的な減少傾向による相対的増加であり、現実には59戸の減となっている。

（生産面積はどうなったか） 全国的には微増のなかにありながら愛知は微減の傾向が続いており、上位5位からはずれてしまった。上位10位のなかで減少傾向にあるが、埼玉と愛知だけであるのも気になるところだ。

（栽培本数はどうなったか） 愛知は、全国的に減少傾向が続くなか、昨年に続き49万本の増加であり、構成比も10.2％と上昇した。面積は減少しながら、本数は増加するという愛知の小中本生産の特徴がより進んだともいえよう。

全国主要産地の順位に変化はなく、愛知の生産第1位は稲沢市であり、全国順位でも5位に入る。県内比でみると、稲沢を中心とした尾張地区の構成比が高い。しかしいずれも面積は減少しており、これが県生産面積減少の原因となっている。

（みずの・やすひこ／愛知県立芸術大学大学院）

参考文献：日本緑化センター「昭和63年度緑化樹木の生産状況報告書」

刃物
—関—

東海の建築地場産業●ルポ21

榎並靖史

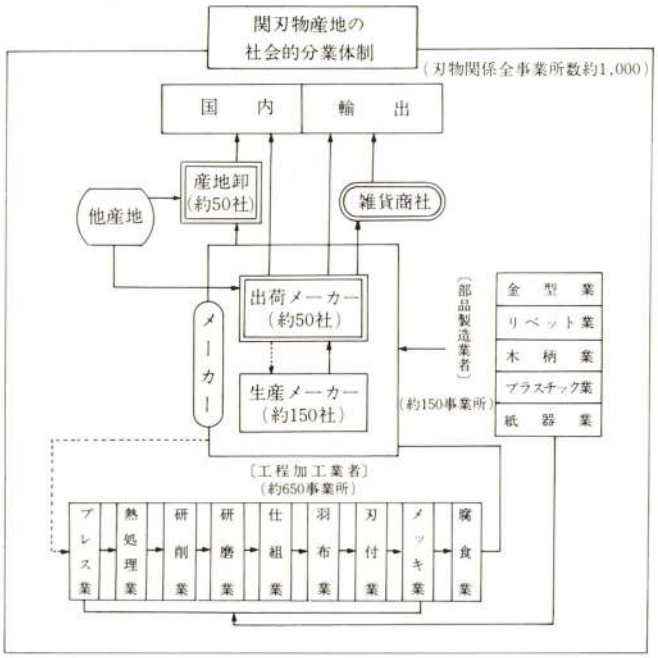
関の刃物生産の歴史と推移

関の刃物生産は、弘長３年（1263年）九州太宰府の利刀の名人、六郎左衛門尉「元重」が、亀山天皇の時、京へ召されて御番鍛冶を勤めた後、関へ来て住み、関鍛冶の祖となったことに始まる。その後、関には多くの名匠が輩出し、関は日本刀の産地として有名になった。志津三郎兼氏、孫六兼元などはあまりにも有名である。

康応年間（1389年）には、関鍛冶七派の鍛冶頭が掟を定め、全てを合議する業界組織が作られた。幕府や大名に庇護された他産地と異なり、鍛冶自らが需要を獲得し、生産して出荷したのである。日本刀だけでなく、包丁、はさみなどの家庭用打刃物も、刀匠によって作られた。この時期に、現在の関市刃物業界の原型が形造されたと言えよう。

明治９年に廃刀令が出されると、関では一早く鉄物商組合が組織され、家庭用打刃物を中心とした生産が続けられた。大正８年にスプーン・フォーク・ナイフなどを生産する洋食器工場が、昭和７年には替刃カミソリ工場ができ、戦前まで、関刃物産地では打刃物を中心に、国内の需要に応じた生産を行うのみならず、東南アジアへの輸出も行ってきた。戦後は、欧米等世界各国へ広く輸出が行われるようになり、ステンレス鋼材が使用されるようになると共に、生産方法も近代工業化され、また関特有の分業加工形態が発達したのである。

このような歴史からうかがえる様に、関市刃物産地の発展は、刃物生産の職人気質と、内外の需要に対応する商売センスに支えられ、地場産業としての地位を確立してきたと言える。関市刃物産地は、刃物の品質、機能、デザイン開発、各市場の需要と流通、商品動向までも把握する、生産から販売までの完結型産地であると言えよう。



産地ブランド「セキ」

SEKI

関市では、昭和55年10月に産地ブランドを制定した。このブランドは、当市で生産された優れた刃物製品につけられるもので、品質基準に合格したものに使用が許されている。また、このブランドは、刃物のまち「関」を象徴するもので、「関の三本杉」といわれる日本刀の代表的な刃紋が図案されている。文字下の波模様が刃紋を、その下が刀身を表わしている。



Forging of Japanese Swords.　日本刀鍛練

日本の刃物生産

刃物は生活必需品であり、全国各地にそれぞれ歴史的背景と特殊性を持った産地があり、多種の刃物が生産されている。それらのメーカーは全て中小企業に属し、小規模な事業所が多い。我国の刃物生産高は、約 650 億円と推定されるが、関市はそのうち 488 億円を生産し、生産高に於けるシェアは75%に達する文字通り日本一の産地である。輸出は全国で 282 億円であるが、関市は 272 億円、96%とさらに大きなシェアを占めている。

（えなみ・やすし／愛知工業大学大学院）

資料提供／関市役所、日本輸出刃物工業組合

- 「関市の工業」
- 「新時代へ如何に調和するか刃物地場産業」
- 「関の刃物」
- 「刀都への誘い」

関市刃物生産品目

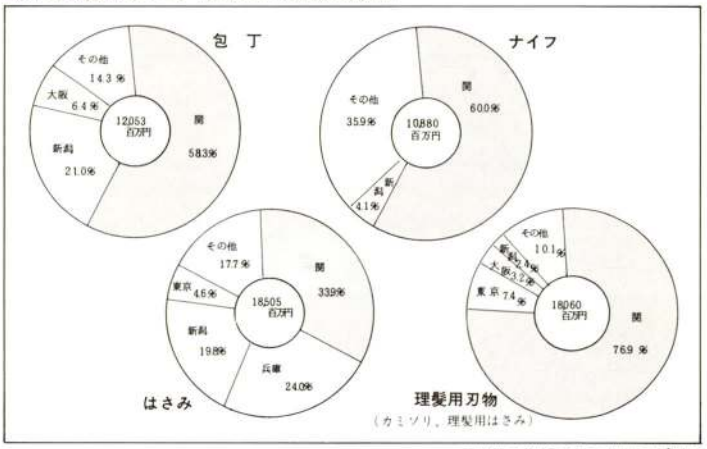
(1)調理用ナイフ類　(5)スポーツ用ナイフ
(2)ポケットナイフ類　(6)その他の刃物
(3)はさみ類　(7)金属洋食器
(4)カミソリ類　金属ハウスウェアー

日本の刃物生産高と輸出

	生産		輸出		
	生産高（億円）	構成比（%）	輸出額（億円）	構成比（%）	主要品目
岐阜県 関市	488	75.1	272	96.4	調理ナイフ、ポケットナイフ、カミソリ、はさみ、登山刀、爪切など
新潟県 三条市	50	7.7	6	2.1	はさみ、和包丁
大阪府 堺市	32	4.9	2	0.7	和包丁、はさみ
兵庫県 小野市	30	4.6	1	0.4	ラシャ切
その他（東京 武生など）	50	7.7	1	0.4	包丁、はさみなど
計	650	100.0	282	100.0	

（日本輸出刃物工業組合推計）

関の刃物製品のシェア（従業者４人以上の事業所）



（資料：昭和61年工業統計調査）

三河材
—東加茂郡・足助—

東海の建築地場産業●ルポ22

東海支部特別編集委員会

東加茂郡は、愛知県の中央やや東北部、三河高原西部に位置し、足助町、下山村及び旭町の３ヵ町村からなる総面積は38,958ヘクタールの地域で、愛知県全域のほぼ7.6％にあたる。森林面積は33,582ヘクタールで、総面積の86％を占め、その多くは民有林で占められている。

森林は、戦後の燃料革命の伸展に伴って拡大造林されたものが多く、人工林率では64％で、県平均であるが、30年生以下の若齢林が多く、蓄積は418万立方メートルと県平均を下回っている。

足助町を中心としたこの地は、縄文時代から人が住んでいたようで、特に、鎌倉時代に入ってからは、三河と信州を結ぶ「塩の道」の要衝として宿場町として栄えた所である。また、この地は、周囲を山々に囲まれ、質の良い材木の産地としてしられており、ここから出荷される杉、桧、松などの木材は、古来三河材と名づけられ、その質の良さから高級建築用材として高い評価を受けてきた。

この地域の林業振興施策は、戦後の荒廃した山林の復興と生産性の向上を主とした造林、その後の社会構造の変化に伴う林業構造改善事業、最近の「新林構」及び活性化対策事業による森林施業経営指標団地の整備、生産基盤の整備、林業経営近代化施策、林業者定住促進等積極的に取り組みがなされてきた。地域の主要林産物には、素材の他、竹材、生しいたけ、ひらてけ、木炭、タケノコ等がある。素材の生産量は25千㎥であるが、優良林の多くが素材のまま管外へ流出しているため、今後は、地域内での製品化を高める施策を模索している。

足助町農林センター内に、昭和60年７月12日、足助町を中心に、森林組合、農協、製材組合そして、かっての宿場町の文化、技術の伝統を受け継いだ、高い技術を持つ足助大工さんたちによる第三セクター方式の「株式会社ほるくす」が設立された。これは、木材需要の拡大を図ると共に、地場農林産物等の屋示及び受託販売を担い、地域の活性化及び総合的な振興に資することを目的にしている。「株式会社ほるくす」の商品フォルクハウスは、民家型構法住宅と言われ、太くがっちりした柱（５寸角）が全体のフレームを支え、そのなかを自由自在に間仕切りをするもので、節のある材も巧みに生かし、ただ単に従来どおりの日本的な木造住宅を作るだけでなく、現代の生活感覚や生活のテクノロジーを生かした新しいタイプの木造住宅を目指すものである。また、構法的にもボルト等の補強金物を使わないため、耐久性も高く、在来工法に比べ製材部材数で50％、加工取り付け部材で40％の減と優れたものである。株式会社ほるくすの建設戸数２年目で、名古屋市、豊田市、岡崎市を中心に28棟（S61.6～62.5）と順調な滑りだしを見せ、年間30～35棟を建設し、地域材需要拡大の一翼を担っていると聞く。



東加茂の森林



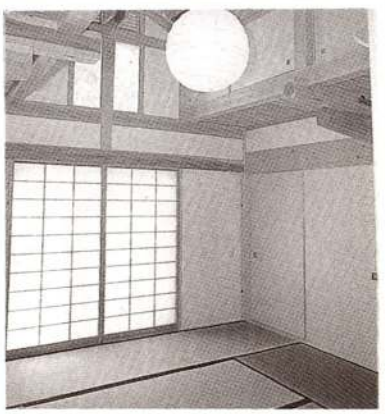
間伐講習会



ひさしを深くとって、雨の降り込みもシャットアウト。腐らず、湿めらずを実現。

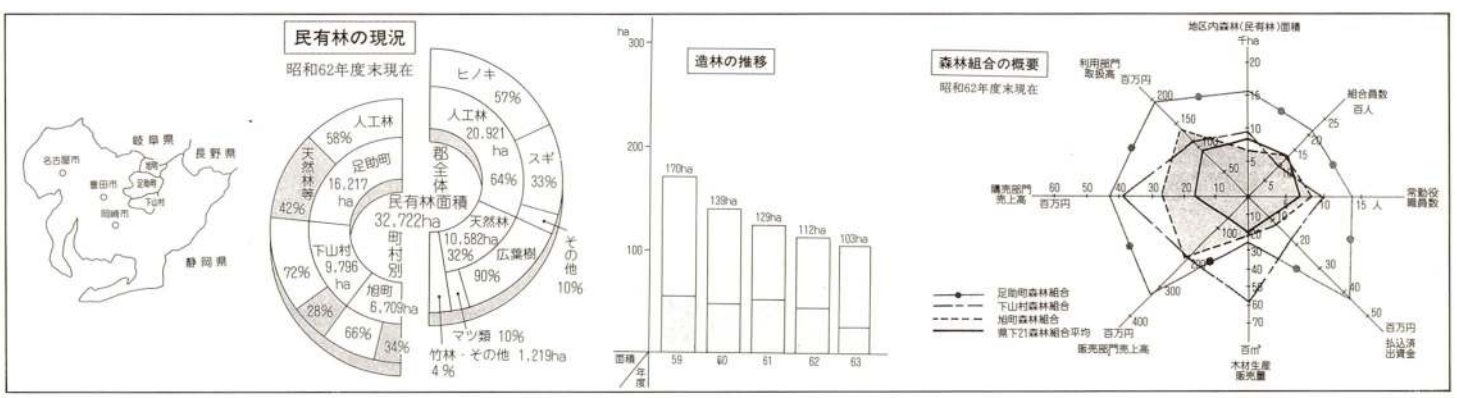


広くとった玄関部。
伝統的なイメージを、たくみに現代風にアレンジ。



２階和室。天井がそのまま屋根になっていてあたたかな独自の雰囲気を作る。

引用文献「東加茂の森林・林業」編集・発行：愛知県足助事務所林務課
「東加茂郡足助町」株式会社ほるくすパンフレット
「株式会社ほるくす」株式会社ほるくすパンフレット



FTS 水平、傾斜、曲面(遮光、防熱)システム

● 理想の光りコントロール

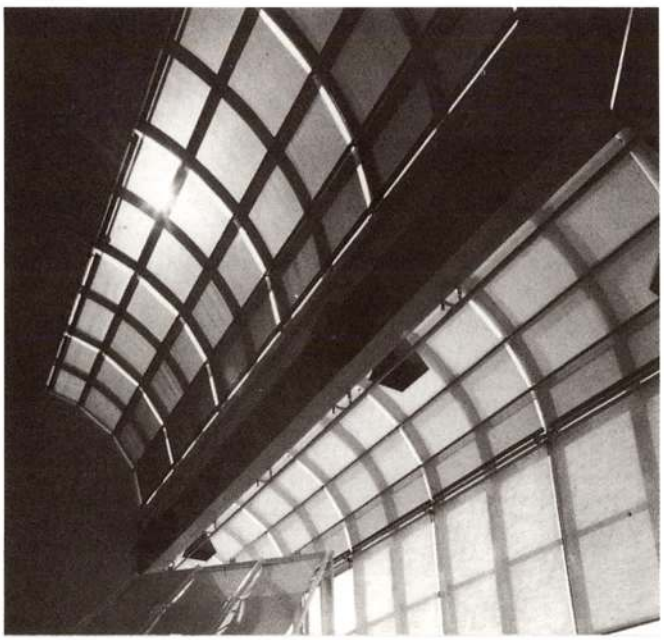
FTSシステムは、上下2個のモーターでスクリーンの開閉を行います。
高所、水平面、傾斜面、曲面等で開閉できる理想的な遮光システムです。

操作方式は、単独、集合およびその組み合わせで、数十基のシステムを一斉に操作する事もできます。
さらに陽光センサー、風力センサーを組み込めば完全自動化もできます。　(リモコンも用意しています。)

■F.T.S.の用途

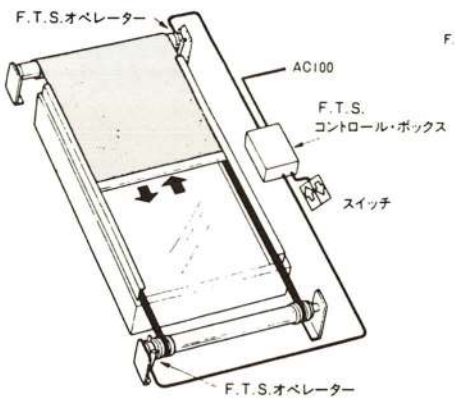


F.T.S.は水平や斜め、あるいは補助ローラーを加えて、L状や曲面凸状などの開口部の外側あるいは内側に取り付けられます。
サンルーム、温室、
ドーム、天窓、出窓、
ベランダやテラス、回廊など
いろいろな形状の開口部の遮光断熱が簡単に効果的に行なえます。但し開口部外側に設置する場合下側に設置するモーターの雨じまいには特にご注意下さい。また滑車などを利用することによって2台のモーターは片側によせることもできます。

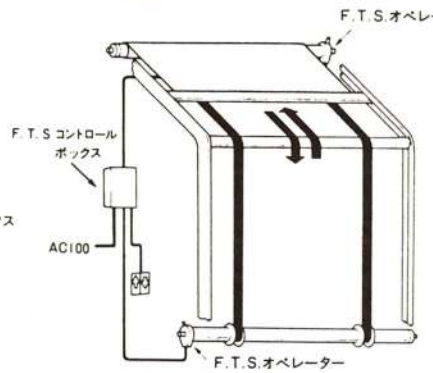


■ F.T.S.の型と用途

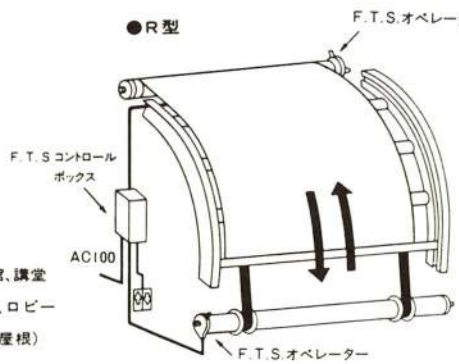
● 水平、垂直、斜傾型



●L型



●R型

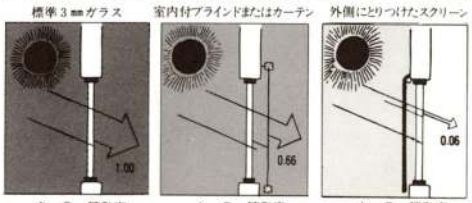


- 天窓、はめころし窓
- ガラス天井
- サンルームや温室の天井
- アトリエ、教会
- テラス、ベランダ、ロビー
- サンルーム、温室
- 出窓
- ビル、校舎、体育館、講堂
- テラス、ベランダ、ロビー
- ガレージ(車庫の屋根)

外付けの発想 (サン・シェルター)

結露防止効果・
省エネ性・耐久性は最高!!
外観美・快適度





クーラー稼動率 100%　クーラー稼動率 74%　クーラー稼動率 33%

製造元

株式会社 協和興業

東京都荒川区西尾久7丁目26番10号　〒116
TEL　東京　大代表　03 (800) 5161
FAX　03 (800) 5155

発売元

愛知アルナ販売株式会社

本　社　〒459 名古屋市緑区大高町大根山14-150
☎(052)623-8111番(代)FAX(052)623-3208番
静岡営業所　〒421-12 静岡市牧ケ谷905-5
☎(0542)78-5900番(代)FAX(0542)78-5907番

感性と技術が
未来を先取りして実現させました。



琥珀色のオフィス部分には、ゴールド色のカーテンウォールを使用し、白く輝く最上階は、ホワイト色で泡を表現したアサヒビール吾妻橋ビルの外観は、まさにグラスに注がれたビール、日本アルミの技術は都市の新しい景観創りに貢献しています。

デザイン博にふさわしく改装されたＪＲ名古屋駅コンコース。明るく広々とした空間を演出するアルミニウムパネル天井は、乗降客に安らぎとさわやかさを与えています。



日本アルミニウム建材株式会社

本　　社　大阪市淀川区三国本町3丁目9番39号　〒532 ☎ 06(392)5821
名古屋支店　名古屋市中村区名駅４丁目24番８号　〒450 ☎052(563)6881
東京支社　東京都墨田区吾妻橋１丁目23番１号　〒130 ☎03(5608)5404
●札幌支店 ☎011(231)9395　●横浜支店 ☎045(212)5201
●福岡支店 ☎092(271)5271　●仙台営業所 ☎022(227)2671
●瀬戸内営業所 ☎0878(22)1336　●広島営業所 ☎082(221)3158
●安城製造所 ☎0566(74)5221

設備の頁

180 バイオテクノロジーを活用した下水処理技術の開発

京才　俊則

建設省では、総合技術開発プロジェクトのひとつとして「バイオテクノロジーを活用した新排水処理システムの開発－バイオフォーカスWT－」を昭和60年度から5か年計画で推進してきたが、バイオテクノロジーを用いて現在および将来の排水処理の課題を検討・解決するとともに、今後の研究開発の芽を育てようとする本プロジェクトは平成元年度をもって終了する。

ここでは、これまで行ってきた研究開発の概要をまとめることとする。

バイオフォーカスWTには、下水道分野と浄化槽分野があり、前者は土木研究所が、後者は建築研究所が主体となって研究開発を進めている。下水道分野では、土木研究所のほか、学識経験者を主体とする委員会、下水道事業団技術開発部、および共同研究を行っている30団体で、つぎに示す8課題について研究開発を行っている。

・微生物バンクに関する研究
・遺伝子操作の処理微生物への適用に関する研究
・固定化方法に関する研究
・下水処理用バイオリアクターに関する研究
・汚泥処理用バイオリアクターに関する研究
・バイオセンサーに関する研究
・固液分離装置に関する研究
・新下水処理システムに関する研究

*

微生物バンクに関する研究

排水処理に関係する微生物を保存するとともに、その微生物と排水処理の関わりをまとめる「排水処理に係わる微生物バンク」の整備手法を検討している。このようなシステムが出来て情報が集積されてくると、バイオテクノロジーを排水処理に適用するにあたって、強力な支援システムとなろう。

現在までに、微生物の情報を排水処理用に整備する手法をまとめたほか、難分解性物質の分解、セルロースの分解等の機能をもった35の微生物の情報をまとめてきている。本年度は微生物数をさらに増やしている。

遺伝子操作の処理微生物への適用に関する研究

ニューバイオテクノロジーの真髄である遺伝子操作により作られる、例えば重金属を除去するような優れた微生物が、下水処理のような混合培養系で定着し、安定してその機能を発揮するかどうかを中心にして基礎的な検討を行っている。また、下水処理場のような開放系における遺伝子組み替え体の使用は、それらの環境への悪影響の可能性のため基本的に禁止されているが、世界的には条件付きで一部認める傾向にあり、その動向をまとめている。

固定化方法に関する研究

エアレーションタンクのような生物反応装置(バイオリアクター)に、微生物を大量に保持するため、あるいは硝化菌のような特定の微生物を高濃度に確保するための微生物の固定化法に関し、結合固定化担体の表面に微生物を棲息させる結合固定化方法、薬品で微生物を包む包括固定化方法、微生物自身の作用で微生物のペレットを作る自己固定化方法という3つの手法を開発してきている。

本課題は62年度で終了しており、その成果は共同研究企業24社との研究を含めて、土木研究所資料第2767号としてまとめられている。

下水処理用バイオリアクターに関する研究

固定化技術を利用して、ニーズに応じたさまざまな処理方式を開発しており、すべての開発は、現在パイロットプラントを用いた実証実験に移っている。

全国に設置されている22機のパイロットプラントは、処理施設のコンパクト化・処理時間の減少を主な開発目標とする好気性水処理バイオリアクター(12機)、省エネルギー・汚泥発生量の減少を目標とする嫌気性水処理バイオリアクター(6機)、処理時間6～12時間で窒素を除去する高度処理用バイオリアクター(3機)、および多段反転流式バイオリアクター(Multi-stage Reveresing-flow Bioreactor, MRB)に分類される。

汚泥処理用バイオリアクターに関する研究

嫌気性消化の効率化、バクテリアリーチングによる汚泥中の重金属除去、光合成細菌による返送水の処理、汚泥からの有価資源の回収などいろいろな研究開発を行っている。

嫌気性消化の効率化では、二相消化、固定化、前処理などを用いて、消化日数の短縮、消化率・回収消化ガス量の増大を目指しており、現在3機のパイロットプラントが稼働している。

バイオセンサーに関する研究

対象物質に生化学的な反応を示す酵素あるいは微生物を検出部に固定し対象物質を測定するバイオセンサーを、BOD、アンモニア、有機酸について開発している。

試作品が出来上がっているBODセンサーは、試料によってキャリブレーションが異なるという問題を抱えているが、これが解決されれば、BODが分オーダで測定できるようになるため、多方面で利用されるようになろう。アンモニアセンサーについては、アンモニア測定とともに、アンモニア酸化細菌が毒性・有害物質に弱いという性質を利用した、毒物センサーとしての応用も研究している。

固液分離装置に関する研究

固定化技術を用いた下水処理用バイオリアクターの目づまりを防止し、その流入水を生物分解性の高い溶解成分を主体としたものにし、下水処理用バイオリアクターの効率アップを図るため、ろ過、薬品凝集、生物凝集、傾斜板沈殿などを用いた生下水の固液分離装置を開発しており、3機のパイロットプラントが稼働している。

新下水処理システムに関する研究

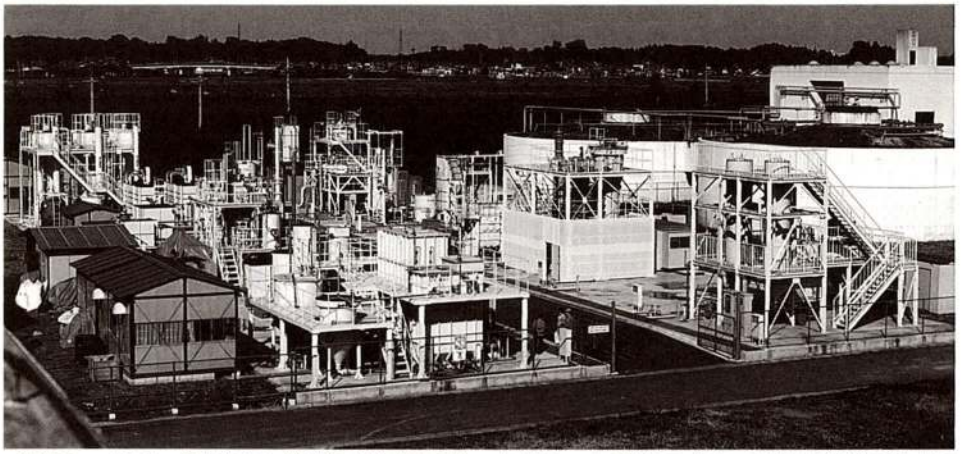
下水処理用バイオリアクター、汚泥処理用バイオリアクター、固液分離装置、バイオセンサー等、本プロジェクトで開発している単位プロセス等を組み合わせて、省エネルギー、省面積、窒素除去、窒素・リン除去、小規模下水用等種々の目的をもった新しい下水処理システムをいくつか提案しようとしている。この提案は、現在実施されている単位プロセスのパイロットプラント研究の成果をもとに行う。

*

以上述べてきたように、バイオフォーカスWTは、バイオテクノロジーを排水処理に活用しようとしている点では共通するが、研究開発レベルから見れば、基礎的なものから応用的なものまで、バラエティに富んだ課題を抱えている。このため、最終成果は今後の研究開発の道を拓くに留まるものから、実際の下水処理に適用できるものまで種々のものがあろう。

わが国のみならず、世界の下水処理に貢献できるよう、なるべく良い成果が出るよう努力する所存である。

(きょうさい　しゅんそく
建設省土木研究所下水道部新下水処理研究官)



バイオフォーカスヤード(茨城県霞ヶ浦流域下水道事務所内)―バイオフォーカスWTのパイロットプラント実験のうち14の実験がここで行われている―

構造の頁

178
梁成一定の圧延H形鋼

渡辺　博

ユニバーサルミル法によるH形鋼の生産は1901年、ルクセンブルクで始められたと言われ、その優れた生産方式と有効な断面性能から、建築部門を中心に、短期間にあらゆる分野へ拡がっていった。1902年にはドイツ、1908年にはアメリカでも生産が開始された。

わが国では、昭和34年より八幡製鐵所で生産が開始され、形鋼類の利用技術の普及とともに、建築分野を中心に需要は順調に伸びていった。

近年の建築業界では、建物の高層化・大スパン化など構造形式の多様化、鉄骨鉄筋コンクリート構造など合成構造の進歩で、建築用鋼材に対しても種々のニーズが生まれてきている。つまり、梁成一定・軽量化・多サイズメニューなど従来の圧延H形鋼では対応できない形状・寸法の範囲までH形鋼に対するニーズは拡大してきている。これらの範囲のH形鋼は溶接H形鋼で対応せざるを得なかったが、新日本製鐵では、新圧延技術および圧延温度制御技術で、溶接H形鋼と比較して同等以上の形状・寸法精度および熱間圧延材として安定した品質を備えた新製品『ハイパービーム』の開発を完了し、平成元年10月から販売している。

ハイパービームの開発背景

建設省統計の着工面積ベースによると、鉄骨を使った建築物で純鉄骨造（以下、S造と略）において10階以下が97%を占め、鉄骨鉄筋コンクリート造（以下、SRC造と略）においては15階以下が90%を占めている。この範囲の建築物の梁材に最も利用されているのは、サイズ調査によると、梁成300mmから900mmまでぐらいのH形鋼である。

また、建築構造のなかで、中高層建築に多く採用されているのがSRC造である。これはS造と鉄筋コンクリート造（以下、RC造と略）との長所を兼ね備えていることから、優れた構造として高く評価され、特に中高層の事務所や集合住宅に多く採用されている。SRC造用として、昭和59年よりSRC－H形鋼を製造販売してきたが、実体は厚板による「溶接H形鋼」が多用され、圧延H形鋼は余り使われなかった。

その理由としては、従来の圧延H形鋼は主にS造用であるため、またSRC－H形鋼は溶接H形鋼に比べてウェブ板厚が厚いなど、SRC造で要求されるニーズに合った寸法形状のものが必ずしも用意されてなかったためである。

一方、経済性の面で鉄骨に対するコストダウンのニーズが強く、単に鉄骨重量を減らせばコストダウンにつながるという考え方も強かった。特にSRC造では、内部の鋼材は鉄筋コンクリートで補強されているので、ウェブの座屈を考えなくてすむことから、ウェブ厚を薄くでき、また必要最小限のH形断面を自由に作ることができる溶接H形鋼を使うことがコストダウンに繋がるという考えによっていた。

このようにH形鋼に関する需要家のニーズは数多くあるが、主なものとして、

①設計のしやすさ・自由度アップ
②経済的な断面性能
③高品質な建物

↓

①同一シリーズ内での梁成一定
②ウェブ板厚の薄肉化
③シリーズ・サイズ数の充実
④高寸法精度　など

の要求である。

新日本製鐵としては、このようなマーケットニーズに対応すべく「ウェブ高を自在に調整できる画期的な圧延技術」「圧延温度制御技術」の研究開発を重ね、『ハイパービーム』を開発した。

ハイパービームの特徴

1．梁成一定の圧延H形鋼

圧延H形鋼で「同一シリーズ内梁成（外法）一定化」は、従来から需要家の強いニーズの一つであった。しかし、今日までの圧延H形鋼は製造技術上の制約から「ウェブ内法一定」であり、同一シリーズでもフランジ厚の異なるサイズでは梁成が変化した。参考までに従来との形状比較を**図－1**に示す。

これらは、S造、SRC造における設計、施工面で一部使い難いものとされていた。例えば、**図－2**に示すような梁継手の場合、従来の圧延H形鋼で同一シリーズ内の梁接合を行うと梁成が異なるため、フランジ上下面に段差を生じ、これらをフィラープレートでカバーするなど施工上煩雑であった。『ハイパービーム』の場合は、同一シリーズ内であれば、フランジ厚に関わらず梁成が一定なので、こうした施工上の煩雑さは生じない。

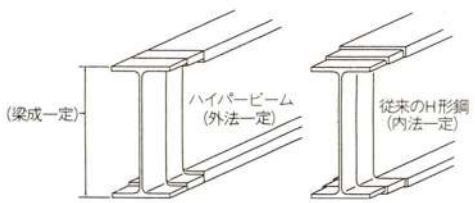


図-1　梁成一定(ウェブ高さ一定)のH形鋼



ハイパービーム・サンプル・サイズ
HY－555×197×6/9
HY－550×197×6/16
HY－550×203×12/25

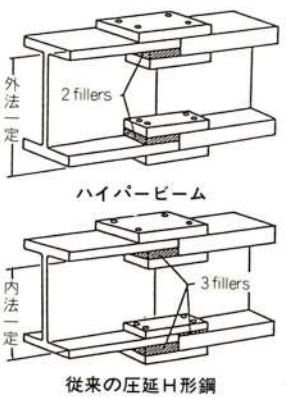


図-2　継手の比較

2．ウェブ厚の薄肉化

建築物における経済性追求という面から、特にSRC造ではウェブ板厚の薄肉化のニーズが強かった。このニーズに対応して、従来の圧延H形鋼よりも数段の薄肉化を実現した。**図－3**に『ハイパービーム』と従来の圧延H形鋼、SRC－H形鋼とのフランジとウェブの板厚限界値を示す。

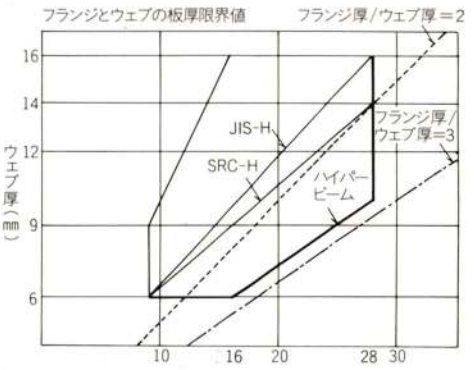


図-3　ウェブ板厚の薄肉化

図－3でも判るように、従来のH形鋼ではフランジとウェブの板厚限界値の最大値が2程度であった。今回の『ハイパービーム』では3程度まで拡大し、溶接H形鋼でしか対応できなかったウェブの薄肉化を圧延温度制御技術で製造可能とした。また、ウェブ板厚6㎜の製造可能範囲は従来H形鋼では梁成400シリーズまでが限度であったが、『ハイパービーム』では梁成550シリーズまで範囲を拡大できた。

3．多彩なシリーズ・サイズメニュー

『ハイパービーム』のシリーズ・サイズ構成は26シリーズ177サイズと、従来に比べて豊富になった。これにより、設計に必要な断面寸法および断面性能の選定自由度が従来に比べて非常に広くなり、より経済的な断面設計が可能となった。従来の圧延H形鋼とのシリーズ範囲の比較を**図－4**に、サイズ表を**図－5**に示す。また、従来とのシリーズ・サイズ数の比較を**表－1**に示した。

『ハイパービーム』のシリーズ・サイズの設定においては、S造、SRC造の事務所、商業および集合住宅建築物に使用された溶接H形鋼のサイズ分布を調査し、その分析結果を利用するとともに、設計者の断面算定の自由度を考え、サイズのバランス良い配列も含めて図－5に示すように決定した。

フランジ幅は、低層から中高層のS造、SRC造の建築物に幅広く適用できるように、150㎜から50㎜ピッチで300までの4種とした。

梁成もフランジ幅と同様にサイズ調査結果より多用されている400㎜から50㎜ピッチで900までの11種を選定した。従来の圧延H形鋼は梁成が大きくなるとピッチが飛ぶ傾向にあった点を改め、サイズ選定が容易なように50㎜ピッチで梁成を設定した。

『ハイパービーム』では、フランジおよびウェブ板厚を常用の厚板サイズに合わせ、フランジ厚は9，12，16，19，22，25，28の7種類に、ウェ

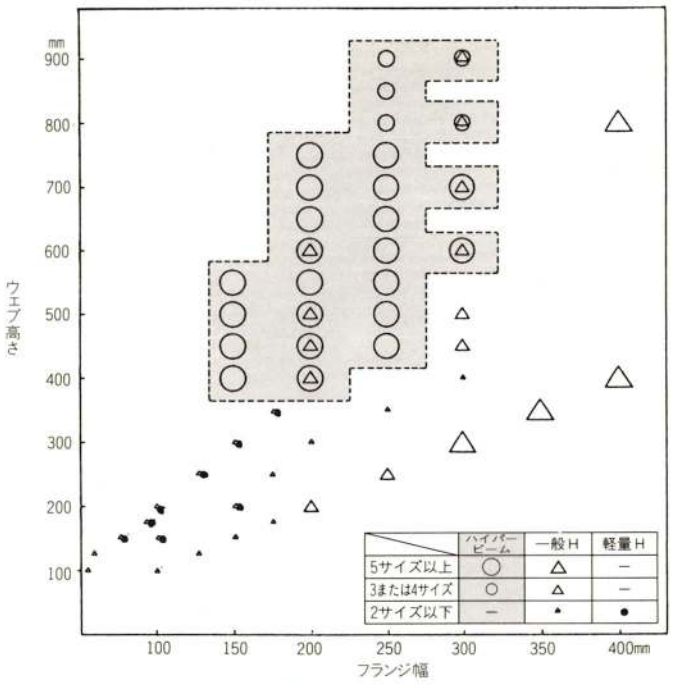


図-4　製造範囲 — 現状H形鋼との比較 —

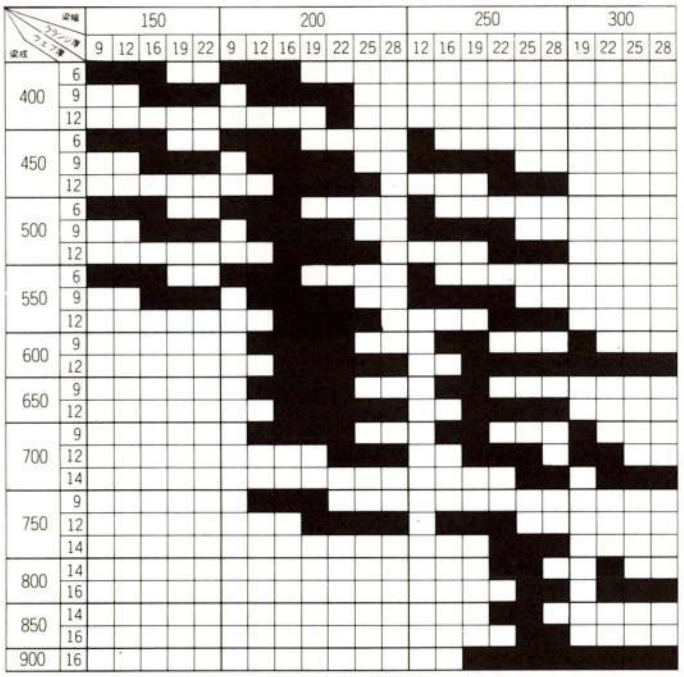


図-5　サイズ表

表-1　既存H(JIS-H, SRC-H)とのサイズ比較

形鋼種類	シリーズ	サイズ	備　考
ハイパービーム	26	177	
JIS-H形鋼	12	45	梁成(A)　≧400
SRC-H形鋼	14	85	

（単位：mm）

項　目			ハイパービーム 許容差	JASS 6「鉄骨精度検査基準」 許容差	区分	JIS許容差	備　考
幅　(B)			±2.0	±3.0	基	±3.0	
高さ　(H)			±2.0	$H \leqq 400$　±2.0 $400 < H \leqq 800$　±H／200 $800 < H$　±4.0	基	$H < 600$　±4.0 $600 \leqq H$　±5.0	
板厚	t_2	$t < 16$	±1.0	——	—	$t < 16$　±1.5	
		$16 \leqq t < 25$	±1.5			$16 \leqq t < 25$　±2.0	
		$25 \leqq t < 40$	±1.7			$25 \leqq t < 40$　±2.5	
	t_1	$t < 16$	±0.7	——	—	$t < 16$　±1.0	
		$16 \leqq t < 25$	±1.0			$16 \leqq t < 25$　±1.5	
		$25 \leqq t < 40$	±1.5			$25 \leqq t < 40$　±2.0	
直角度 (T)			≦2.0	接合部 $T \leqq B/100$ かつ $T \leqq 3.0$ 一般部 $B \leqq 150$　$T \leqq 2.0$ $150 < B \leqq 300$　$T \leqq B/75$	標	$T \leqq 15/1000 \times B$ ただし，許容差の最小値　2.0	
フランジの折れ (e)			$e \leqq b/100$ かつ $e \leqq 1.5$	接合部 $e \leqq b/100$ かつ $e \leqq 1.5$ 一般部 $b \leqq 75$　$e \leqq 1.0$ $75 < b \leqq 150$　$e \leqq b/75$	標	——	
曲がり　(e)			$e \leqq L/1000$	梁の場合 $e \leqq L/1000$ かつ $e \leqq 10$	標	$e \leqq L/1000$	
ウェブの芯ずれ (e)			$e \leqq 2.0$	$e \leqq 2.0$	標	$e \leqq 4.5$	
ウェブの曲がり (e)			$H < 600$　$e \leqq 2.0$ $H \geqq 600$　$e \leqq 3.0$	$e \leqq H/150$	標	——	

備考
1　区分　基：基準許容差　標：標準許容差
2　長さおよび切断面の直角度の許容差はJIS G 3192熱間圧延形鋼の寸法，形状，重量およびその許容差を適用。
3　ハイパービームシリーズによるCT形鋼の寸法，形状，許容差はハイパービームの許容差に準拠する。ただし高さ(h)の許容差は、ウェブ切断代を考慮し+1，−3とする。

表-2　寸法形状許容差

ブ厚は6，9，12（14），16の5種類に設定した。従来の圧延H形鋼の板厚は不規則で覚え難く、厚板との取り合いも煩雑であったが、『ハイパービーム』は常用厚板サイズと関連性をつけ、使いやすく、覚えやすくした。

ウェブの付け根（フィレット部）のコーナーRは原則的には従来のサイズと同等またはそれ以下の値に押さえている。フランジ幅150に対しては従来サイズのコーナーRおよびボルトと接合する場合の必要寸法も配慮し、12mmに設定した。

4．優れた形状・寸法精度

今回の『ハイパービーム』の寸法・形状許容差は、「JISの精度基準では荒すぎる、少なくともJASS 6並みにすべきである」というユーザーの要望を取り入れ、許容差を日本建築学会「建築工事標準仕様書同解説〔JASS 6〕の鉄骨精度検査基準」と同等、もしくはそれ以上に設定した。**表-2**に、『ハイパービーム』の寸法・形状許容差をJIS G 3192、JASS 6の精度と併せて示した。このような精度の向上によって、従来にも増して高い加工性、施工性に寄与できると考える。

結び

『ハイパービーム』の用途は、SRC造の梁材を主体に考えているが、S造の大梁、小梁等にも広く使用できるようにサイズ設定を行っている。

さらに、溶接H形鋼と同様の軽量性，梁成一定を備え、鉄骨建築の基準であるJASS 6の鉄骨精度検査基準と同等以上の高精度製品となっており、かつ圧延H形鋼の持つ溶接の省略、加工管理の省力化、均一な材質からくる鉄骨コストの低減、安全性、信頼性といったよさを従来と変わらず持っており、良質なS造、SRC造の建築に寄与できると考えている。

（わたなべ　ひろし　新日本製鐵株式会社大阪支店部長代理）

施工材料の頁

175
各種素材用プライマー

菊地　昌司

塗料及び塗装の相談に応じていると、一般消費者、日曜ペインター、工場、商店、官公庁、設計事務所、工務店、建設会社などから実に多種多様の相談が入り、塗装対象素材もさまざまである。

鉄部、木部、コンクリート面に対しては目的別の仕様が用意されているが、つぎに示される素材については汎用的に使用出来る塗料がないので、大変にお困りの様子がうかがえる。

それらは亜鉛メッキ、ステンレス、アルミ、などのかなり多用される金属面から、ＡＢＳ、ＦＲＰ、塩ビなどのプラスチックで、塗装しようとすると先ず悩まされるのである。

ここでは建築主体の現場塗装、常温乾燥塗装でこれらの被塗装面別に考えてみたい。

●亜鉛メッキ

電気亜鉛メッキ、リン酸亜鉛処理鋼板など比較的均質に形成し問題のないものから、頻繁にハガレの問題の生じる溶融亜鉛メッキがあり、ここでは後者を考える。

これはメッキ工程が工場によって条件が種々変わっている為一概には言えないにしても、亜鉛表面がドロス、酸化物、塩化物などが執ように付着して悪影響する。

〈塗装仕様〉

一般的には建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ18塗装工事に示される。**(別表－1)**

ここでは比較的トラブルのある溶融亜鉛メッキ板への塗装につき現実的なコメントを述べてみる。

比較的工事作業にゆとりがある場合には、亜鉛板を曝し置いて表面の面倒な塩類が取れ、粗面になったところで塗装をする。急ぐ場合には燐酸水溶液や燐酸亜鉛で表面処理／水洗／乾燥の後塗装する。またＪＩＳ－Ｋ－5633エッチングプライマー（ウォッシュプライマー）を塗装した後に下／上塗装する。塗料として避けなければならないのは、油性錆止めや合成樹脂調合ペイントやフタル酸エナメルを直に塗装することである。理由は油変性されているこれらの塗料は亜鉛面上で加水分解されハガレやすいからである。

推奨されるのはエポキシ系、塩化ゴム系、塩化ビニル系、ウレタン系、アクリル系などである。

亜鉛板が比較的長期に曝されてからの塗装ではエポキシ系、塩化ゴム系、塩化ビニル系の塗料を塗装しても無難である。

●ステンレス

SUS.Noにより鋼材組成が違うもの、表面が鏡面仕上げのものから粗面のものまである。塗装上特にハガレのトラブルメーカーは鏡面仕上げのもので、それは塗料にとってはあたかも“滑り台”みたいなものである。長期にわたり曝露されていたものの塗り替えはまず無難なようである。

〈塗装仕様〉

ステンレスは本来さびにくいので塗装対象にならないが、材質によっては錆びるものもあり、またステンレスを酸イオンなどから守る場合や美観上の目的で塗装することがある。

前述のように鏡面仕上げでは付着が悪く、粗面の方がよいがエッチングプライマーが利用される。材令が古くまた若干の錆の場合にはエポキシ系がそのまま塗装されているようである。

●アルミ板

アルミ板の表面は板加工時にごく薄い酸化層によって覆われているが、これもステンレスの場合と同様に鏡面から粗面のものまであり、また無塗装のままで建材等に使われ白さび、孔蝕のあるものまで対象となる。厄介なのはやはり鏡面のものである。

〈塗装仕様〉

この場合には常乾塗料を対象としているが工場で焼き付け塗装の場合には脱脂の後クロム酸系処理剤で表面処理をする。

一般的には建築工事標準仕様書ＪＡＳＳ18塗装工事に示される。**(別表－2)** 実用的には、エッチングプライマーが利用される場合が多い。

ステンレスの場合と同じように鏡面より粗面になればなるほど付着がよく、また若干の白錆の面はエポキシ系がそのまま、場合によりウレタン系、塩化ビニル系などがそのまま利用される。

●プラスチック

一概にプラスチックとして論じるのは大胆であるが、ＡＢＳ、ＦＲＰ、塩ビなどが建材に多用されていよう。プラスチックが成型されるときには離型剤が使用される。塗装素材が新しい場合にはこの離型剤が難物でありそれを適当な方法で除法されていないと剥離を生じる。

特に注意を要するものは

－接着剤、塗料が付着しにくいもの－

ポリエチレンやポリプロは表面極性が低いので塗料が付着しにくい。

むしろ塗料実験室では塗料膜シートを得るためにポリエチ板の上に塗装して乾燥後剥している。

－溶剤に弱いもの－

ポリカーボネート板はラッカーやウレタン系を塗装するとワレを生じたり、発泡スチロールは溶けてしまう。

〈塗装仕様〉

離型剤を市販の洗浄剤による脱脂や物理的に除去した後に塗装が必要。

表面がツルリとしているとやはり悪く、ペーパーなどで丹念に塗料の足がかりを付ける。

塗料としてはポリウレタン系、塩化ビニル系アクリル系が利用されている。工業的には塗装対象物の樹脂にかなった特別な塗料を厳選している。

マルチプライマー

上述のような素材は実際に塗料のハガレのトラブルがあるのは事実で、それぞれの仕様、指導はされているが各素材に対しての汎用的なものがない。日本ペイント㈱開発のこの塗料はオールマイティーとはいわなくとも実際各種素材に付着の良いことが示されている。その上一液型速乾性である事とあわせ、建築現場で有り得る種々の素材に適合できるメリットがある。

特長

1．鉄、亜鉛、アルミ、ステンレス(一部を除)、プラスチック、無機質素材への付着性がよい。
2．5℃でも5時間後には塗り重ねが出来るほどの速乾性である。
3．一液型である。
4．中／上塗りとしてフタル酸、塩化ビニル、塩化ゴム、エポキシ、ウレタン等各種塗料が適用できる。

塗料性状

色	ライトブルー		
光沢	半艶		
比重	1.35　kg/l		
加熱残分			
乾燥性	5℃	20℃	30℃
指触乾燥	30分	15分	10分
半硬化	60分	30分	20分
塗り重ね	5時間	3時間	2時間
塗装	ハケ/ローラー		エアレス
希釈率%	0~10		0~10
塗布量kg/m²	0.16		0.20
膜厚μ	40		40

希釈シンナー：マルチプライマーシンナー(専用)

素材付着性

－付着性の良いもの－

鋼板　ステンレス　アルミニュウム　溶融亜鉛メッキ　電気亜鉛メッキ　銅　木質板　紙類　無機質面　硬質塩ビ　ABS　FRP

－付着性不良のもの－

ポリエチレン　ポリスチレン

その他素材により可なりバラツキのあるものがあります。

例　アクリル板

（きくち　しょうじ　日本ペイント㈱大阪塗料相談室）

工程	種別			放置時間
	1種A（化成被膜処理）	1種B（エッチングプライマー塗り）	2種（脱脂）	
汚れ・付着物除去	汚れ・付着物をワイヤーブラシ、研磨布などで除去			—
油類除去	弱アルカリ性脱脂剤で加熱処理後湯洗い。または溶剤洗浄	溶剤ぶき	溶剤ぶき	
化成皮膜処理	りん酸塩化成皮膜処理またはクロム酸塩化成皮膜処理後、水洗い乾燥	—	—	ただちに次の工程に移る
エッチングプライマー塗り	—	エッチングプライマー（JIS K 5633　1種）のはけ塗り、またはスプレー塗り（塗布量0.05kg/m²）	—	2h以上 8h以内

別表－1　亜鉛めっき面の素地調整

工程	種別	放置時間
	化成被膜処理	
汚れ・付着物除去	汚れ・付着物をスチールウール、布などで除去	—
油類除去	弱アルカリ性脱脂剤で加熱処理後湯洗い、または溶剤洗浄	—
化成皮膜処理	クロム酸塩化成皮膜処理後、または酸化皮膜処理後、水洗い乾燥	ただちに次の工程に移る。

別表－2　アルミニュウム面の素地調整

日本建築協会

月間の動き

平成２年１月分

理　事　会

第３回常任理事
26日　４時～４時50分　於本会会議室
出席者　佐野会長ほか16名
議事(1)定時評議員会開催の件
(2)借入金一部償還の件
(3)業務委託受託の件
(4)平成２年度事業計画（素案）の件
(5)入退会者承認の件
(6)報告事項

編　集　委　員　会

第10回会員企画小委員会
９日　６時～８時30分　於本会会議室
出席者　高田副委員長ほか８名
議事(1)「建築と社会」(シリーズもの)の報告と掲載予定
(2)「女性たちの集い」の企画について
第５回設備分科会
10日　４時～６時　於本会会議室
出席者　佐藤幹事ほか２名
議事(1)「設備の頁」の企画
(2)設備特集の企画
第10回編集委員会
11日　４時～６時　於本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか５名
議事(1)12月号「最近の博覧会パビリオン」特集経過報告
(2)１月号「商品化住宅のデザイン」特集経過報告
(3)２月号「ニュータウン・ルネサンス」特集経過報告
(4)３月号「東海の都市景観」特集経過報告
(5)４月号「スケール感」特集経過報告
(6)５月号「プレハブ住宅技術の現在と未来」特集経過報告
(7)来年、次年度の企画検討・その他
(8)収支状況報告
第10回作品作風小委員会
11日　６時30分～７時30分　於本会会議室
出席者　塘副委員長ほか４名
議事(1)「新建築調査表」の作品の選定
(2)最近の作品掲載状況・予定報告
(3)「Gallery」内容報告と今後の検討
第７回計画分科会―建築系―
17日　６時～９時　於本会会議室
出席者　森田幹事代行ほか５名
議事　平成２年度６月号「花博」特集の検討
４月号計画分科会「スケール感」(仮称)特集第６回幹事会
19日　７時～９時30分　於本会会議室
出席者　田中幹事ほか３名
議事　４月号「スケール感」(仮称)特集案検討
第10回広告企画小委員会
23日　４時～５時30分　於本会会議室
出席者　長谷部委員長ほか３名
議事(1)２月号「ニュータウン・ルネサンス」特集広告収入報告
(2)３月号「東海」特集広告途中経過報告
(3)４月号「スケール感」特集広告途中経過報告
(4)５月号「プレハブ住宅技術の現在と未来」特集広告途中経過報告
(5)６月号「花博」特集広告途中経過報告
(6)平成２年度独自特集企画
(7)収支状況報告
会員企画小委員会「女性たちの集い」打合会
23日　６時30分～９時　於本会会議室
出席者　小林・高橋両委員
議事　「建築の明日をになう女性たちの集い」開催までの諸準備ならびに実行委員会開催について
第12回施工材料分科会
25日　４時～６時　於本会会議室
出席者　志水幹事ほか４名
議事(1)５月号「プレハブ住宅の現在・未来」特集内容具体案決定
(2)「施工材料の頁」の企画
会員企画小委員会「建築の明日をになう女性たちの集い」第１回実行委員会
30日　６時30分～８時　於本会会議室
出席者　小林代表ほか８名
議事(1)開催までの主な準備作業
(2)当日の諸準備と役割分担
「建築と社会」７月号設備特集第１回編集幹事会
31日　６時～８時　於本会会議室
出席者　北島・日根・藤岡特別幹事ほか３名
議事　「建築と設備のチェックシートと接点」(仮称)特集の企画と執筆の具体化

事　業　委　員　会

第６回若い会員の集い小委員会
６日　２時～８時　於本会会議室
出席者　宮野副委員長ほか12名
議事(1)前回事業委員会の報告
(2)「エコロジカルアーバンプランニング」
(3)「北村陸夫氏」個展・講演・見学会
(4)「関西の祭事の研究」中間報告
(5)第５回以降の企画
第６回若い会員の集い「北村陸夫氏」企画分科会
９日　６時30分～９時　於本会会議室
出席者　ゲスト　辻　敦子氏(ズーム計画工房)　大川主査ほか４名
議事(1)テーマ、コンセプト
(2)見学スケジュール
(3)講演会場
(4)ポスター
第６回広報小委員会
10日　６時～７時15分　於本会会議室
出席者　奥村幹事ほか５名
議事　教室分科会の今後の企画
第６回見学会小委員会
11日　６時～８時　於本会会議室
出席者　伊東副委員長ほか９名
議事(1)前回事業委員会の報告
(2)11・12月の見学会の報告
(3)１月以降の見学会の予定
(4)今後の見学会の候補
(5)分科会からの報告と検討
第６回事業委員会
18日　１時40分～３時　於本会会議室
出席者　西村委員長ほか４名
議事(1)各小委員会からの報告及び検討
(2)新年度の委員の交代及び委員会編成について
第７回エコロジカル企画分科会
22日　６時30分～９時　於本会会議室
出席者　田中主査ほか２名
議事(1)ゲスト依頼の進捗状況
(2)当日の資料
(3)当日のタイムスケジュール
第11回若い会員の集い「関西の祭事」研究会
24日　６時30分～９時15分　於本会会議室
出席者　大森主査ほか２名
議事(1)中間報告書
(2)「建築と社会」への掲載
第７回若い会員の集い「北村陸夫氏」企画分科会
29日　６時30分～９時　於本会会議室
出席者　ゲスト　辻　敦子氏(ズーム計画工房)　大川主査ほか２名
議事(1)ポスターレイアウト
(2)見学スケジュール
(3)協賛経過報告

建　材　委　員　会

第９回委員会
17日　３時30分～５時30分　於本会会議室
出席者　金井委員長ほか16名
材料説明：デッキコーティング防水システム／猪野委員
今後の検討建材：アルミ鋳物と光ファイバーシャンデリアシステム／元木副委員長

出　版　委　員　会

第８回委員会
18日　５時～６時　於本会会議室
出席者　須賀委員長ほか３名
議事(1)〈プロのノウハウ〉と特装本の経過等告
(2)今後のテーマと執筆者選定について
(3)プロのノウハウ講座シリーズ第３回「インテリアコーディネートの100ポイント」

教　育　委　員　会

第２回講習会小委員会
26日　６時～７時30分　於本会会議室
出席者　金田副委員長ほか３名
議事(1)本年度建築工事実務講習会(大阪開催)実施報告

(2)今後の企画

第2回工高生教育小委員会

31日　5時30分～8時　於本会会議室

出席者　中野副委員長ほか6名

議事(1)本年度・第35回工高生デザインコンクールの実施報告

(2)次年度・第36回工高生デザインコンクールについて

話題建築を聞く

第8回鰻谷チルドレンミュージアム
若林広幸氏に聞く

20日　2時～4時15分　於本会会議室

講師　若林広幸／若林広幸建築研究所

参加者　43名

建築クラブ

新年宴会

9日　6時～7時　於大阪グランドホテル

出席者　74名

INFORMATION　お知らせ

ビル建築現場照明パネル アメニティ・ライティング・フェンス
——松下電工



ビル建築現場のアメニティ・ライティング・フェンス

建築工事現場を囲うフェンスは、いかにも殺風景で、とくに夜間は暗がりになることが多く、美観上も防犯上からも、地域住民から問題にされるケースが多い。

そこで、松下電工では、5枚の動物デザインパネルにバックから照明を当てたタイプを「アメニティ・ライティング・フェンス」と名づけて、大手ゼネコンと共同開発した。

このパネルは、画面を簡単に変えていけるタイプで、動物デザインの後は、「大阪国際女子マラソン」、「プロ野球開幕」、「火災予防運動」「交通安全週間」などと連動し、リフレッシュを図っていく予定。

問い合せは、松下電工㈱広報部
大阪府門真市門真1048
TEL06－908－1131大代表

平成元年・2年度指名競争参加資格審査申請の追加受付
——日本道路公団

■受付期間

1990年5月7日(月)～5月11日(金)

■受付時間

AM10:00～PM4:00

■受付場所

お問い合せ及び受付

日本道路公団大阪管理局　総務部総務課

大阪府吹田市清水15番1号(名神高速道路吹田IC内)

電話　(代表) 06 (876) 2222

なお、次の公団機関においても同じく受付けしています。

機関名	電話番号(代表)
※本社(契約課)	03 (506) 0111
札幌建設局(契約課)	011 (241) 9181
仙台建設局(契約課)	022 (263) 6311
東京第一建設局(契約課)	03 (502) 7431
東京第二建設局(契約課)	03 (343) 0451
新潟建設局(契約課)	025 (243) 3911
名古屋建設局(契約課)	052 (262) 7311
大阪建設局(契約課)	06 (448) 1234
広島建設局(契約課)	082 (232) 4151
高松建設局(総務課)	0878 (23) 2111
福岡建設局(契約課)	092 (721) 1511
仙台管理局(総務課)	022 (226) 3111
東京第一管理局(総務課)	044 (877) 4181
東京第二管理局(契約課)	048 (757) 5161
東京第三管理局(総務課)	0426 (91) 1171
金沢管理局(総務課)	0762 (49) 8111
名古屋管理局(契約課)	0586 (76) 1111
広島管理局(総務課)	082 (879) 3331
福岡管理局(総務課)	092 (925) 1411
※試験所(総務課)	0427(91)1621

(注)(1)※印の機関は調査等の受付けのみ実施します。

(2)大阪建設局の住所：大阪市西区靱本町1の11の7信濃橋三井ビル3階

■申請書類の領布

平成2年4月17日(火)から日本道路公団(本社・各建設局・各管理局)内の(財)道路厚生会(本部・各支部)において領布(有料)します。

DAIKO通信スケジュール

最先端のライティングとさまざまなジャンルのアーチストのジョイントを試みる"DAIKO通信"（協賛：大光電機）のスケジュールが決まった。いずれも入場無料（ただし入場整理券が必要）。

*

DAIKO通信 in 名古屋Part 3

と き　1990年4月10日(火) PM 6：30～8：00
ところ　今池ガスホール TEL052-732-3211
名古屋市千種区今池1-8-8
内 容　北川原　温氏（建築家）
「DUST OF IMAGE：都市と建築」
定 員　350名（先着順）
申込先　大光電機㈱名古屋支店 TEL052-821-6276
〒457 名古屋市南区曽池町2-29

DAIKO通信 in 福岡Part 4

と き　1990年4月13日(金) PM 6：30～8：00
ところ　大博多ホール TEL092-471-6831
福岡市博多区博多駅前2-20-1大博多ビル
内 容　北川原　温氏（建築家）
「DUST OF IMAGE：都市と建築」
定 員　400名（先着順）
申込先　大光電機㈱福岡支店 TEL092-531-3164
〒810 福岡市中央区白金2-15-52

DAIKO通信Part12

と き　1990年5月18日(金) PM 6：30～8：00
ところ　御堂会館（南御堂）TEL06-251-5820
大阪市中央区久太郎町4-1-11
内 容　槇　文彦氏（建築家）
「都市と建築を中心として―最新作を語る―」
定 員　900名（先着順）
申込先　大光電機㈱DAIKO通信運営事務局
〒537 大阪市東成区中道3-15-16
TEL06-972-5555

いずれの会場も、官製ハガキに住所、氏名、年齢、職業、勤務先名、連絡先電話番号を記入して申し込むと、折り返し入場整理券が発行される。

1990 TAKENAKA DESIGN NAGOYA展

多様化する建築の様相を、竹中工務店の作品と技術を通して展示する「1990 TAKENAKA DESIGN NAGOYA」展が、名古屋で開催される。

テーマは『環境を創る心と技』。

*

展示会

と き　1990年4月18日(水)～4月22日(日)
AM10：00～PM 7：30（最終日PM 3：00）
ところ　名古屋ATビル2F・ATホール
内 容　テーマ「環境を創る心と技」
環境という座標でみた、竹中工務店の作品の展開
入 場　無料

講演会

と き　1990年4月23日(月)
ところ　名古屋ヒルトン「竹の間」
テーマ　「これからの日本経済」PM 5：15～6：15
飯田経夫氏（経済学者）
「都市と建築へ」PM 6：30～7：30
槇　文彦氏（建築家）
申込先　竹中工務店名古屋支店講演会事務局
〒460 名古屋市中区錦1-18-22
TEL052-211-2111
ハガキに住所、氏名、年齢、職業・学校名を記入して上記宛に申し込みのこと。

FUJIKI ARCHI-TREND セミナー

FUJIKI ARCHI-TRENDセミナー実行委員会（委員長：藤木工務店専務取締役・大森周）の主催、藤木工務店の協賛による第2回セミナーが、開催される。入場無料（先着順）。

●大阪

と き　1990年4月27日(金) PM 6：30～8：30
ところ　テイジンホール（定員300名）
大阪市中央区南本町1-6-7
テーマ　「アモルフ・ストーリー」
竹山　聖氏（建築家）

問い合わせは、FUJIKI ARCHI-TREND セミナー実行委員会（新建築社内 03-811-7101）へ。

建築家西沢文隆のスケッチ展「フィリピンで会った花達」

西澤文隆さんが亡くなって4年になる。

生前、「緑魔」といわれるほど草花樹木に造詣の深かった西澤さんの、緑に対する愛情の萌芽は戦中日本文化会館の建設のためフィリピンに滞在したときにすでに現れている。

フィリピンで描かれた花、果物などの水彩画30点と、あわせてその花々との出会いのエピソードが西澤さん自身の文章で紹介される。

この催しを企画したのは、伊丹市の都市景観に興味をもつ市職員・建築家が集まって1983年に発足した華牙(かが)会。そしてその名付け親で会長であったのが西澤さん。今まで、自転車による西国街道の現地調査や昆陽寺のミニ四国八十八ヵ所巡り整備などの活動をしてきたという。

*

と き　1990年4月12日(木)～4月17日(火)
AM10：00～PM 6：30
（土・日曜日、最終日はPM 4：30まで）
ところ　伊丹市立美術ギャラリー伊丹
（JR伊丹駅3階）
入 場　無料
主 催　華牙会（事務局：アトリエサワ内
Tel0727－72－0914）
共 催　伊丹市

「建築省エネルギー賞」決定

昭和62年から実施されている「建築省エネルギー賞」の、平成元年度第3回入賞作品が決定した。

これは、㈶住宅・建築省エネルギー機構が2月の省エネルギー月間を期して設けた制度で、建設省の後援により実施されているもの。

建設大臣賞

日本アイ・ビー・エム大和研究所（神奈川県大和市）



設計施工／竹中工務店
ＯＡ機器の排熱を積極的に利用した熱回収、ヒートポンプシステムによる暖房、給湯方式、設備の運転・制御・維持管理プログラムの開発。

医療法人あかね会阿品土谷病院（広島県廿日市市）



設計／木曽三岳奥村設計所ほか4社
施工／フジタ工業広島
パララン方式によるコジェネの採用、パッシブソーラーシステムの採用、24時間空調を要する空間の空調機に潜熱蓄熱剤を使用。

伊藤忠横浜港北ビル（横浜市緑区）



設計監理／日建設計
施工／清水・鹿島・竹中・間・東急ＪＶ
自然エネルギー・排エネルギーの有効利用、快適環境センサー開発、リアルタイム管理システムの開発。

(財)住宅・建築省エネルギー機構理事長賞

東京生命芝ビルディング（東京都港区）



設計／清水建設
施工／清水建設、大成建設
建築・構造・設備の合理的プランニングによる天井裏の有効利用等のパッシブ手法の採用、熱回収ヒートポンプシステムの採用と蓄熱槽・深夜電力の利用による熱源機器の低減、大温度差利用のＶＡＶユニットの開発による搬送エネルギーの省エネ化。

古河電気工業横浜研究所（横浜市西区）



設計／清水建設
施工／清水建設、フジタ工業
建物外周負荷の削減を考慮した建物軸線の採用、躯体と整合性の取れた氷蓄熱槽を用いたヒートポンプシステム。

自然の泉、般若の里いで湯の森（山口県宇部市）



設計施工／竹中工務店
自然エネルギーの有効利用を図るため、床下の蓄冷効果の利用、暖房システムに適した床材料の開発、ソーラーコレクターによる太陽熱利用、自然との一体化を重視した建築計画。

アーバニア千代田（名古屋市中区）



設計／伊藤建築設計事務所ほか
施工／大成建設ほか
エネルギー消費構造の複合する施設で、トータルにエネルギーの有効利用を行う「コンパクトエネルギーシステム」の導入。

アメリカ・ランドスケープデザインの現場から
——講演・シンポジューム

アメリカのランドスープデザインは、今日その視野をかってないほどに急速に広げてきている。

1930年代からスタートしたアメリカにおけるトーマス・チャーチ、ローレンス・ハルプリン、ガッレット・エクボなど巨匠達の足跡は、ランドスケープにおけるデザイン論争の導火線をかたちづくり、日本にも多くの影響を与えてきた。

その後、60年代の「環境の時代」を経て、80年代以降ふたたびランドスケープにおけるデザイン分野が新しく見直され出したようだ。そこには、全米で活躍する若き旗手たちがいる。特にハーバード大学を中心とするデザイン論と、カリフォルニア大学を中心とするコミュニティ論は、極めて興味深い展開をしはじめている。これらの動向からの問題提起は、日本における環境デザインにかかわる人々にとっても刺激的なテーマの発見にちがいない。

今回の講演とシンポジュウムは、昨年まで両大学の客員研究員として滞在されていた佐々木葉二氏からの報告と問題提起を中心に下記のメンバーで、広く環境デザイン領域の将来方向を探るものである。

■とき　4月7日(土)　PM5:00～PM8:00
■ところ　線業会館・大阪市中央区備後町2-5-8
■講演　佐々木葉二(ランドスケープ・アーキテクト)
■パネラー　遠藤剛生（建築家）
今井祝雄（造形作家）
吉田鉄也（京都大学講師）
中瀬　勲（大阪府立大学助教授）
■参加費　一般1000円、学生800円
■主催　ランドスケープデザイン・関西フォーラム
■連絡先　事務局・京大造園学教室・吉田(075-753-6081)
SEED設計室・種(06-947-2632)
■後援　日本造園学会関西支部
日本造園コンサルタント協会関西支部
大阪府清緑会

スペース・コーディネーションシステム「Techno-Office」新発売
——精工舎

㈱精工舎では、オフィス空間のレイアウトがCADで企画できるアプリケーションプログラム「Techno-Office」を開発し、このほど販売を開始した。

最近、オフィスを始めとするパブリックスペースをリニューアル、または新しく造ろうとする活発な傾向に対応し、機能・環境・デザインを一体として捉えるスペース・コーディネーションの考え方が広がってきている。「Techno-Office」は、この動きにそうシステムとして、開発されたもので、空間を構成する内装インテリア、住設備、設備機器、家具類といった諸要素を実際に配する上で、人間工学的な検証も加えながらイメージ構築ができる。

■お問い合せ
㈱精工舎コンピュータ事業部販売部
〒130 東京都墨田区大平4－1－1
TEL 03－621－4011直通

グワウスメイ／シーゲル建築を語る
——講演会

と　き　4月18日(木)
AM6:00～PM8:00
ところ　大阪テイジンホール
（大阪市中央区南本町1－6－7）
聞き手　安藤忠雄
定　員　先着350名
連絡先　ノルインターナショナル・ジャパン内
「グワウスメイ／シーゲル講演会」事務局
〒102 東京都千代田区平河町2－6－2
TEL.03－234－0091

新刊　全国書店で好評発売中！

「建築技術」12月増刊号
実践　建築工事検査Ⅱ
鉄筋・型わく・コンクリート工事の検査・試験方法を、それぞれ項目をおって解説していく品質確保のための必携マニュアル。
亀田泰広　監修　A4判　300頁　税込定価3,300円

床構造入門
スラブのはなし
さまざまな構造形式のスラブを、それぞれの特徴を上手に生かして使い分けるためのガイドブック。
松井源吾　著　A5判　167頁　税込定価2,300円

良い杭をつくるために
指標　場所打ち杭工法
20余年間も土を掘り続けてきた著者が、基礎の施工でいかに欠陥が多いかを痛感して新しく書き下ろした警告の書。
北中克巳　著　A5判　500頁　税込定価7,500円

株式会社　建築技術
〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷1-1-2　福西ビル
TEL.03(5371)3811　FAX.03(5371)8282

建築技術者必携の専門誌　建築技術4
3月18日　全国書店一斉発売　税込定価1,240円

◉特集
住宅の窓
—現状と展望—
（透過と遮断という矛盾する2機能が併存する「窓」を原点に戻って見直し、最近の動向や設計サイドからの疑問点を考えてゆきます。）

連載◉建築法令を考える
検証　建築強度規定の変遷と建築構造技術9
■■柔剛論争■■
明治中頃、本格的な建築法制を望む声を機に開始した"市街地建築物法令"紆余曲折を経てここに施行される!!

Contents
1. いま、住宅の窓をめぐって
2. 窓と建具
—デザインと技術の接点—
①開口部、開口方式の変遷と系譜
②今様の住宅窓の諸問題
③伝統的窓建具と現代風の窓建具について
④住宅用サッシのガラスの諸問題
⑤住宅の既成サッシと手作りサッシ
3. 窓と居住環境
①「光」と窓の設計
②「断熱・換気・防火」と窓の設計
③「遮音」と窓の設計
④「雨仕舞」と窓の設計
⑤「構造・耐風」と窓の設計
⑥「安全・防犯」と窓の設計

空気調和・給排水・衛生・防災設備 設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話（434)6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話（302)2271(代)
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社

大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒650 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)261-8231
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

人に優しい環境づくり

第一工業株式会社

大阪支店　〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号
電話　06－364－6661(代表)
本　社　〒100 東京都千代田区丸の内3丁目3番1号
電話　03－211－8511(代表)

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　白谷清二
大阪支店長　三田村嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2－2－21　電話06(202)3071(代表)
本　店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(502)6111(大代)
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　社
大阪営業所　大阪市北区西天満5-11-12　電 06－313－1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町9－3　電0720－49－2128

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(352)1131(代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話(667)3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

MODAIR

空気調和設備
換気・除塵設備 設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靱本町3－1－27　TEL(443)8071
本　社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562)1351
支　店　名古屋・福岡

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03－344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満4丁目6番18号　電話 06－363－1371
支　店　仙台市青葉区大町2丁目2番10号　電話022－261－3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052－581－8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082－247－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
営業所　札幌・横浜・京都・神戸・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・川崎・富山・福井・和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　**電話大阪(458)3628番**
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1，2階)
郵便番号542　電話 大阪（06）768－5031　代表
メンテナンス部　電　話　大阪（06）768－1651　代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル2～4階)
郵便番号102　電話 東京（03）262－3241　代表

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長 依藤孝蔵

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351－5428(代)
FAX(06)351－5299

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町２０番地の１
電話(681) ５１０１～５・夜間専用(691) 1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話 (06)352－3501㈹
三重支店　津市栄町２－１１１　電話(0592)26－3610㈹
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431㈹
滋賀営業所　大津市中央２丁目4-28　電話(0775)22－9738㈹

Carrier 冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キヤリア工業㈱デストピューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　吹田市豊津町４０番３８号
電話 大阪 (384) 1201～7

電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL 06-313-1101
支 店 東京・名古屋・舞鶴・京都・天理
大阪南・神戸・広島・四国・九州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本　社　大阪市北区中之島３－２－４　朝日ビル　TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所　TEL 大阪06(385)1361(代)　京都営業所　TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所　TEL 東京03(574)０６６５　福岡出張所　TEL 福岡092(771)６１６８

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役 土 井 敏 裕

本　社　大阪市北区西天満２丁目６－８(堂ビル７階)
電　話 (361) ３６７１ (代)
支　店　東京都中央区日本橋箱崎町20番５号
電　話 (671) １４７８ (代)
出張所　川崎・相模原・堺・滋賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大阪支社

専務取締役支社長 横 田 幸 一

大阪市中央区高麗橋４丁目3番7号　電話大阪 (202)0325～９番
本　社　東京都千代田区西神田１丁目４番５号
支　社　札幌・仙台・丸ノ内・新宿・横浜・名古屋・九州
営業所・出張所　全国主要都市32ヶ所

誠実と技術でお応えする

住友電設株式会社

取締役会長 代 谷 正 元
取締役社長 相 馬 一 男

本社／〒553 大阪市福島区福島7丁目22-8 ☎(06)452-1151(大代)　東京／〒105 東京都港区芝２丁目２－17 ☎(03)454-7311(大代)

営業種目 設計・施工・監理

●電力工事
発変電設備工事
架空送配電線工事
地中送配電線工事

●設備工事
ビル電気設備工事　空調工事
工場電気設備工事　給排水衛生工事
防爆電気設備工事　特殊配管工事
計装工事　消防施設設備工事

●プラント工事
●情報システム工事
光伝送システム工事
CATVシステム工事
各種アンテナ装置工事

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設計施工

三宝電機株式会社

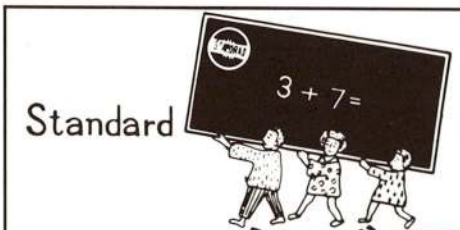
取締役社長 嘉 納 伝 三

本　社　〒530 大阪市北区西天満２－６－８(堂ビル)　TEL 06(364)１４７１
TELEX 523－３２８７
東京支店　〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル)　TEL 03(504)０２３１
TELEX 222－６７２４
名古屋支店　〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14　TEL 052(991)５１３１
神戸支店　〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル)　TEL 078(881)５５７１

奉仕感謝の店
タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

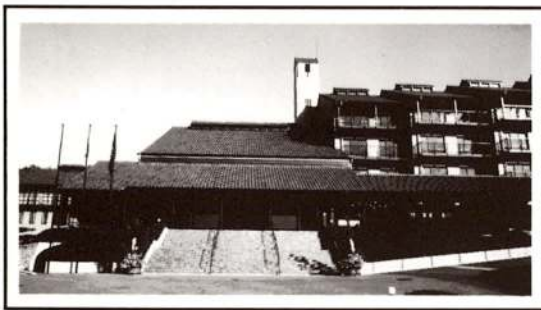
本　社　〒550 大阪市西区西本町１－13－33
電話 大阪 06(532)代0461 〒550
天理営業所　天理市丹波市新町 50



Standard Board&Slate

フタバ工業

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06(792)5858(代)



〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ファックス 五六一～七四五四
☎ 五六一～七四一六

ナニワ瓦株式会社

あらゆる屋根工事の相談は、

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役 神 田 都 義

本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992 (26)4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号模範店会館　☎08682 (4)1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷団地　☎0988 (55)6100

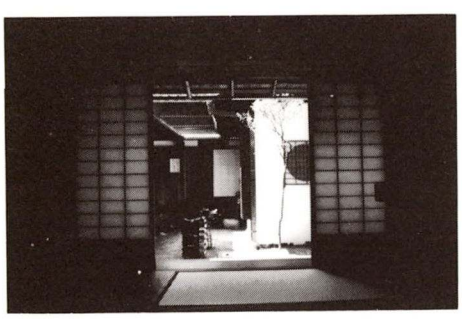
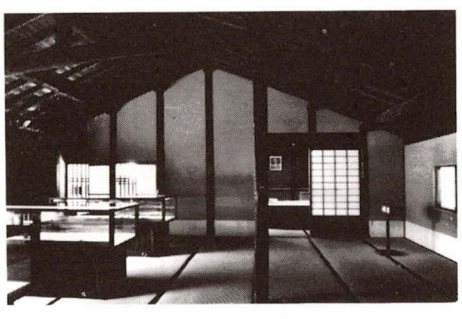
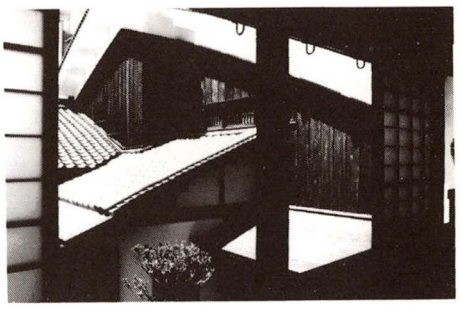
特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙 ●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－１
TEL(０７２９)３９－３６１０
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町２７４４
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

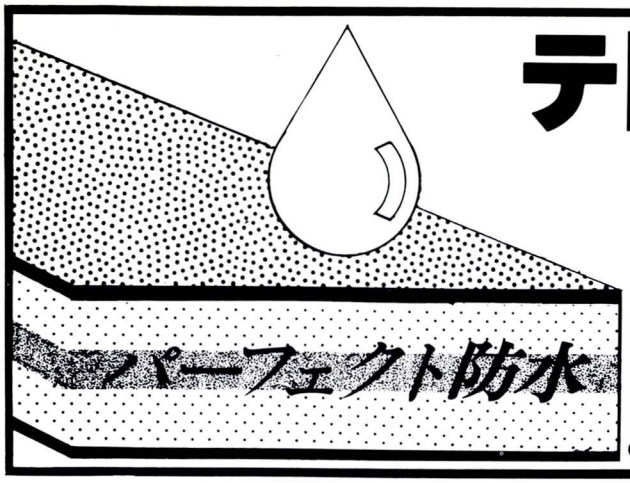
Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
ポゾリス物産株式会社
日曹マスターピルダーズ株式会社
本　社：東京都港区六本木３－16－26 TEL03-582-8813
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル) TEL06-202-3294

営業種目
●防水工事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可　大阪府知事許可（般－53）第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－21
星和地所扇町ビル201S
TEL06(315)０７０１
(株)特殊技研

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（０７７２７）２－２２２０
舞鶴（０７７３）７６－０１３３
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）２７２－８５０１
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１
光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００
株式会社トーゴー／本社
TEL 滋賀・守山(０７７５)８３－２３８１



テトカッパー防水層

防水事業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーバータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座８－４－９	電話03（571）2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国６－１－41	電話06（391）1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東１－３－30	電話0487(74)2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462（21）1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052（811）3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952（47）2945

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区常盤町1－3－8（日本生命谷町ビル）
TEL（06）943－6571（代）
■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種
- オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
- オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
- オリエンタルメタル(ＯＰＭ)
- 鋼板製オリエンタルフネンシングル
- オリエンタルオリセラム

波板規格　Ｓ小波・Ｓ大波・Ｖ波・ボックス波・Ｗジャンボ波・Ｖデッキ
ＳＶジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター（強制）〕
ボーロイド（断熱材）D.G.K.　※カタログを御請求下さい

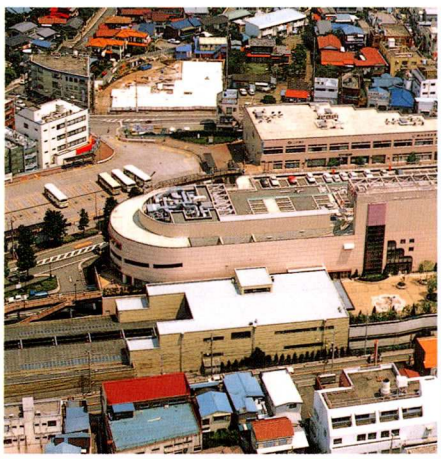

体育館屋根フネンシングル

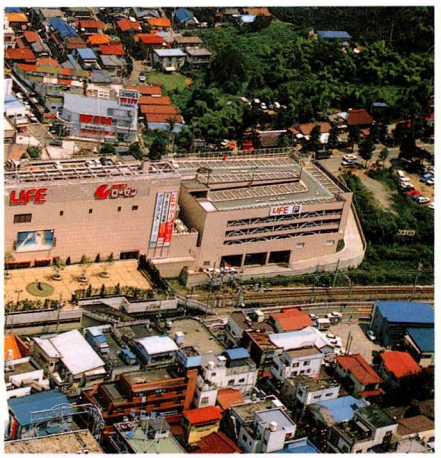
オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660 尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪（06）412－5131（代）
大阪支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷・姫路

東京本社及工場　〒335 蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨（0484）42－3115（代）
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

改質アスファルトルーフィングのパイオニア





防水層上に直接――――
アスファルト舗装ができる。

タフネス防水

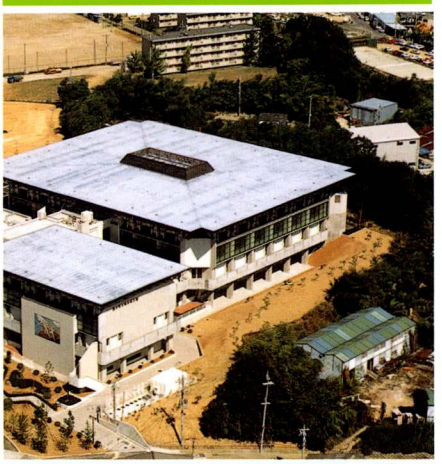
◀三ッ境プラザ

柔軟構造で大型化のＡＬＣ
建物に――――
密着工法ができる。

タフネス防水

大阪狭山市立総合スポーツセンター▶









タフネス
(熱　工　法)
ハイネス
(常温工法)
ソプレマ
(トーチ工法)

◀大阪臨港センター

屋上改修防水工事において、押えコンクリートや――――
既存防水層（アスファルト防水・シート防水・塗膜防水等）のあらゆる下地に対応でき、
環境条件により、タフネス（熱工法）・ハイネス（常温工法）・ソプレマ（トーチ工法）を
使い分けできる。――――**ゴムアスファルト（改質アスファルト）防水。**

信頼と実績

ゴムアスファルト防水工事業協同組合
〒151　東京都渋谷区代々木1-11-2
ＴＥＬ　03(320)2020

昭和シェル石油株グループ
昭石化工株式会社
〒530　大阪市北区梅田2-4-9（産経ビル）
ＴＥＬ　06(341)6395
東京本社 東京 大阪 名古屋 札幌 仙台 新潟 金沢 広島 福岡

社団法人　日本建築協会　〒530　大阪市北区梅田1の1の3の2100　電話大阪06(348)0635　FAX06(348)0634
振替口座大阪一三九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価九八〇円（本体九五一円　消費税九五円　送料共）